

徳島県立博物館年報

第24号 (平成26年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum
No. 24 (for the fiscal year of 2014)

目 次

徳島県立博物館の使命	2	2. テレビ・ラジオへの出演等	43
I 展 示		3. インターネットによる情報提供	44
1. 常設展	3	4. 外部ネットワークとの連携	45
2. 企画展	5	5. 情報システムの概要	45
3. 特別陳列	14	VI 県民協働・参画	
4. 館外での展示	16	1. 博物館友の会	47
5. 常設展の更新及び活性化に向けての 取り組み	17	2. 博物館公募ボランティア	48
6. 展示関係出版物	17	3. 各種事業での県民協働・参画活動の推進	48
II 普及教育		4. 「みんなで創るユニバーサルミュージアム 事業」の実施	49
1. 普及行事	19	VII シンクタンクとしての社会貢献	
2. 学校教育支援事業	22	1. レファレンス業務	51
3. 普及教育関係出版物	27	2. 各種委員会委員等の受諾	51
4. 徳島新聞「こども新聞」への協力	27	3. 講師の派遣	52
III 調査研究		4. 大学教育への寄与	54
1. 課題調査	28	5. 学会・研究会等の運営への寄与	55
2. 分野別（個別）調査研究	29	6. 博物館ネットワーク	56
3. 分野別（個別）調査研究等の館内 公表会（セミナー）の実施	31	VIII 管理運営・マネジメント	
4. 科学研究費補助金等による研究	31	1. 組織・職員	58
5. 他機関との共同研究	32	2. 予算	58
6. 研究成果の公表	32	3. 文化の森の連携事業	59
IV 資料の収集・保存と活用		4. 防災及び危機管理	59
1. 採集資料	37	5. 博物館協議会	59
2. 購入資料	37	6. 各種研修会への参加	60
3. 寄贈資料	37	7. 視察等博物館関係来訪者	60
4. 寄託資料	39	IX 中期活動目標と自己評価	
5. 資料の貸し出し	39	1. 中期活動目標	61
6. 写真・映像の提供	39	2. 26年度実績と自己評価	69
7. 資料の提供	40	X 観覧者統計	85
8. 資料の交換	40	XI 施設の概要	
9. 館蔵資料数	41	1. 沿革	89
10. 資料収集委員会	41	2. 施設の概要	89
11. 文献資料の収集	41	3. 博物館各室面積	91
12. 資料の保存	41	XII 例 規	93
V 情報の発信と公開			
1. 博物館の広報活動	43		

徳島県立博物館の使命

徳島の自然・歴史・文化の宝箱

—県民とともに活動し、成長する博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく体験と学びの場として、県民のみなさんとともに活動し、成長していきます。

知

知と出会う博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての多様な資料や情報をもとに、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

探

地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけます。

伝

未来にまもり伝える博物館

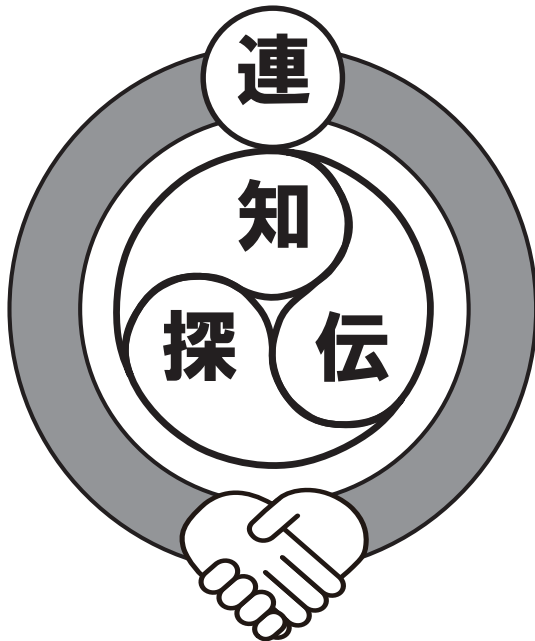
博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

連

県民とのつながりを大切にする博物館

博物館は、県民のみなさんとの対話を深めながら、ともに活動し、地域の活性化に貢献します。

博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。



徳島の自然・歴史・文化の宝箱
—県民とともに成長する博物館—

「徳島県立博物館の使命」における要素間の関係

使命と事業の関係

- 1 知 知と出会う博物館
 - (1) 展示
 - (2) 普及教育
- 2 探 地域の魅力を探る博物館
 - (1) 調査研究
- 3 伝 未来にまもり伝える博物館
 - (1) 資料の収集・保存と活用
- 4 連 県民とのつながりを大切にする博物館
 - (1) 情報の発信と公開
 - (2) 県民協働・参画
 - (3) シンクタンクとしての社会貢献
- 5 使命の実現に向けての効率的な運営
 - (1) マネージメント（経営）

本文における事業の配列は、この構成にもとづいたものである。

I 展 示

博物館の展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然と歴史・文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的な関わりについても理解できるよう、様々なテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は開館以来変わっていない。したがって、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、より多くの人に博物館に親しんでもらえるようなユニバーサル化、グローバル化への対応が遅れたりしている。

平成 26 年度は文化庁の補助金を受け、近代美術館、二十一世紀館と協働して地域の様々な立場の人とワークショップを試み、利用にあたっての問題点の検証や触察教材等の試作を行った。その結果、文化の森 25 周年のフレッシュアップ事業、安全安心の文化施設モデル事業として、案内表示等の更新に係る予算を計上することができた。可能な範囲で常設展の改善を行う予定である。

企画展は、専用の企画展示室を使って行うことにしている。従来は年 3 回行っていたが、23 年度から予算減少等の理由から 2 回とし、1 回分を所要経費の少ない「特別陳列」に変更した。

26 年度は、「四国霊場開創 1200 年記念 4 県連携事業 空海の足音 四国へんろ展 [徳島編]」を別枠事業として予算計上したことから、3 回の企画展を開催した。しかしながら、年々企画展予算は削減されており、規模の大きな企画展の開催は難しくなっている。

学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や歴史・文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がり資料の展示など、様々なテーマを織り交ぜ、2、3 年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組むとともに、民間との連携等予算獲得への工夫が必要となっている。

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示及びラプラタ記念ホールの展示の 3 つで構成している。

●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴

史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の 7 つの大テーマに沿って展示を展開している。

1. 日本列島と四国のおいたち
2. 狩人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波
5. 藩政のもとで
6. 近代の徳島
7. 徳島の自然とくらし

●部門展示

総合展示とは異なる角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：近世の焼き物／なつかしいモノたち／鳴門の塩業資料 など

自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ など

●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された、南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：

- メガテリウム全身骨格（レプリカ）
- パノクツス全身骨格及び甲羅
- マクラウケニア全身骨格（レプリカ）
- トクソドン全身骨格（レプリカ）
- スミロドン全身骨格（レプリカ）
- ヒッピディオン全身骨格（レプリカ）
- ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

(2) 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマを決めて随時展示替えをしている。平成 20 年度から、多様な資料の公開をはかるため、自然史関係の展示も行っている。

●屋根瓦コレクション

4 月 8 日（火）～6 月 1 日（日）

展示資料点数 47 点（館蔵資料 47 点）

入田瓦窯跡出土資料や、徳島城の瓦など、当館が所蔵する古代・近世の屋根瓦を展示し、徳島における屋根瓦の様相の一端を紹介した。

●カタツムリ展

6 月 3 日（火）～7 月 27 日（日）



「屋根瓦コレクション」の展示風景



「カタツムリ展」の展示風景

展示資料点数 503点（館蔵資料5点）

カタツムリの“フォルム”にフォーカスして、形態の美しさという視点から県内で見られるカタツムリを紹介した。話題になった“アナムシオイガイ”の標本や拡大模型、県産カタツムリの透明樹脂標本など、“魅せ方”にこだわって展示した。なお、この展示は、徳島県立佐那河内いきものふれあいの里ネイチャーセンターとの共催により実施した。

●100均☆自然史グッズ『観察』『採集』『標本』『工作』
7月29日（火）～8月31日（日）

展示資料点数 300点（館蔵資料200点）

私たちの回りに100円ショップは増えていて、そこには、様々なものが売られている。中には、ルーペやピンセットなど、観察や工作にそのまま使えるグッズもたくさんある。そうした観察、採集、標本、工作に使える100均グッズを楽しく紹介した。なお、この展示は、当館も加入している西日本自然史系博物館ネットワークが企画した巡回展である。

●四国南東部の地形と地質

9月2日（火）～11月24日（月・祝）

展示資料点数 70点（館蔵資料70点）

四国南東部の徳島県海部郡美波町から高知県室戸市周辺にかけての海岸部には、地形と地質の点でもしるい場所が数多くある。この展示では、海部郡内や室戸市の海岸の立体写真（アナグリフ画像）や地形図、露頭写真、標本などを使って地形と地質を簡単に紹介するほか、那佐湾干潟や室戸岬など数か所については、特に詳しく解説した。

●徳島水平社創立90周年記念 部落問題に向きあった人びと

11月26日（水）～1月25日（日）

展示資料点数 55点（館蔵資料23点）

平成26年は、徳島水平社の創立90年目にあたることから開催した。部落解放を目指した取り組みや、部落問題解放に尽くした人びとについて紹介した。

●藩絵師のすがお — 持ち伝えられた粉本から —

1月27日（火）～27年度（4月5日（日））

展示資料点数 33点（館蔵資料33点）

徳島藩の絵師をつとめ、江戸の木挽町狩野家の門人であった矢野家に伝えられた、粉本などの作画資料を展示した。藩絵師の実態、狩野派における粉本学習の様相について紹介した。

(3) 阿波の近世絵画の展示

「藩政のもとで」のコーナー内で展示替えを4回行い、以下の作品資料を展示した。なお、弱絵五疋猿図については、画題にあわせてニホンザルの剥製も展示した。

①5月27日（火）～10月5日（日）

渡辺広輝筆 養老滝図 1点

渡辺尚輝筆 養老滝図 1点

②10月7日（火）～1月18日（日）

松浦春拳筆 弱絵五疋猿図など2点

③1月20日（火）～3月25日（水）



阿波の近世絵画の展示風景

中山養福筆 真那鶴雛図 1点

④ 3月26日(木)～27年度(7月26日(日))

〈小テーマ・吉成葎亭の作品〉

釣鐘曳図 1点、水遊び図 1点、白椿図 1点

(4) トピックコーナーでの小展示

26年度は、次の展示を行った。タイムリーな展示ができるよう努めている。

●タンポポ調査が始まります

25年度(3月4日(火))～6月1日(日)

展示資料展数 3点(館蔵資料3点)

2014年のタンポポ調査の開始にあわせて開催したミニ展示。「タンポポ調査・西日本2010」の結果を紹介し、四国のタンポポの標本(ツクシタンポポ、キビシロタンポポなど)を展示した。特に愛媛県産のツクシタンポポは、近年生育が確認されていなかったものである。

●マッチ箱コレクション

6月3日(火)～8月31日(日)

展示資料点数 135点(館蔵資料135点)

23年度に県立鳴門第一高等学校(現・県立鳴門渦潮高等学校)より寄贈を受けた、マッチ箱コレクションの一部を展示した。マッチ箱コレクションを通じて、業者等から消費者に配布された広告としてのマッチ箱の役割について紹介した。

●浜辺に揺りあがる焼き物たち

ービーチコーミングでの収集品からー

9月2日(火)～10月26日(日)

展示資料点数 51点(館蔵資料1点)

県内在住の漂着物研究者が収集した資料を中心に、漂着土器・陶磁器片や、ビーチコーミングについての紹介を行った。

●那賀川上流の三畳紀化石

10月28日(火)～12月28日(日)

展示資料点数 18点(館蔵資料18点)

那賀川上流域に分布する三畳紀中期～後期(約2億4000万～2億1000万年前)の地層から産出するアンモナイトや二枚貝の化石を紹介した。また、当館学芸員が作成に加わった徳島県那賀町木頭地域の地質図(5万分の1地質図幅「北川」)(独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター発行)を展示した。

●おいべっさんー御神影札に見るえびす信仰ー

1月6日(火)～3月1日(日)

展示資料点数 7点(館蔵資料7点)

徳島では、多様なえびすの御神影札を見ることができ、えびす信仰の深さをうかがえる。新年のめでたい縁起物として、えびすの御神影札の紹介を行った。

●タンポポ調査が始まります

3月3日(火)～27年度(5月31日(日))

展示資料点数1点(館蔵資料1点)

2015年のタンポポ調査の開始にあわせて開催したミニ展示。「タンポポ調査・西日本2015」の2014年調査結果を紹介し、これまでに明らかになったタンポポの分布等を紹介した。特に四国で初めて見つかったモウコタンポポの標本(香川県産)を展示した。



「タンポポ調査が始まります」の展示風景

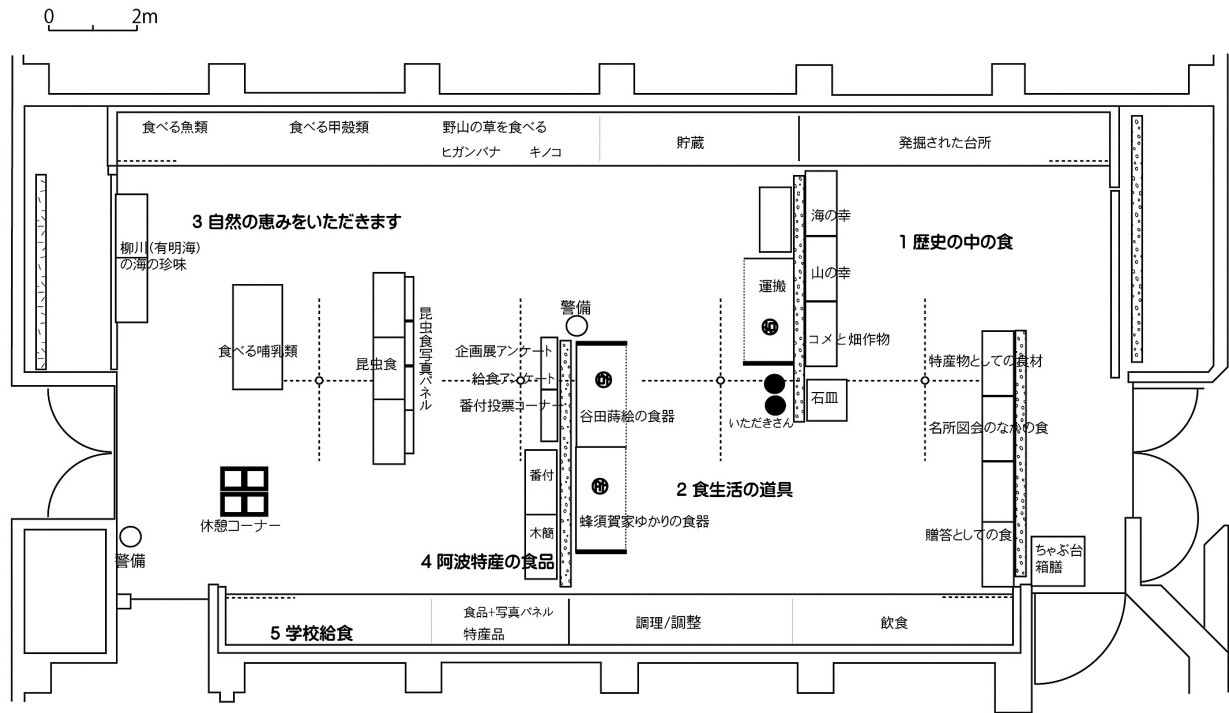
2. 企画展

平成26年度は、次の3回の企画展を行った。

(1) 第1回企画展「いただきま～す！ 一食の生活史と自然誌」

「食べる」という行為は、人間が生きていく上で欠かすことのできない日常的なものである。それだけに、生活の中で使われてきた食事に用いる道具、加工・調理の道具は多い。人びとの生活環境や生活のリズムに合わせ、様々な料理がつくられ、食べられてきた。また、食材となった動植物は、栽培、採集、捕獲等により入手したものであることは、今も昔も変わらない。他地域では利用されない動植物を食材とした、特徴ある食文化をもつ地域も多い。

この企画展では、「食の生活史と自然誌」の視点から、食に関わる様々な館蔵資料を駆使して展示した。かつて人びとが使ってきた食の道具と関連する資料、現在に続く食生活で用いられてきた道具、そして、食材として食べられてきた様々な動植物と、その調理や食べ方について紹介した。さらに、徳島県が誇る食材と食文化、学校給食の歴史などについても紹介した。この展示を通じて、現在の私たちの食生活について問い直した。



「いただきます〜す!」の展示配置

徳島県立博物館企画展

いただきます〜す!

食の生活史と自然誌

2014年 4月25日(金)〜6月8日(日)

開館時間 9:30~17:00 観覧料 一般:200円(65歳以上100円) 高校・大学生:100円 小・中学生:50円

会場 徳島県立博物館 企画展示室(1階)

休館日 毎週月曜日 (15月5日は祝日、5月2日は休館)

文化の森総合公園 徳島県立博物館

TEL:0870-8070 徳島市15番町南1-1-1
TEL:0876-466-3616 FAX:0876-468-7197
http://www.museum.tokushima-ac.jp/

「いただきます〜す!」 ちらし(表)

徳島県立博物館企画展

いただきます〜す! 食の生活史と自然誌

「食べる」という行為は、人間が生きていく上で欠かせない日常的な行為です。その「食べる」ことについて、人文系、自然系の博物館資料から問い直してみるのがこの企画展のテーマです。
かつて人びとが使ってきた食の道具と関連する史資料、現在に続く食生活で用いられてきた道具、そして、食材として食べられてきたさまざまな動植物と、その調理法や食べ方について紹介します。さらに、徳島県が誇る食材と食文化、学校給食の歴史などについても注目します。

《展示構成》

- 1.歴史の中の食(考古資料からみる食、歴史資料からみる食)
- 2.食生活の道具(運搬、貯蔵、調理、飲食)
- 3.自然の恵みをいただきます(植物を食べる、動物を食べる)
- 4.阿波特産の食品
- 5.学校給食

《関連行事お品書き》

- ①4月27日(日) 14:00~15:00 展示解説(企画展示室)
- ②4月29日(火・祝) 10:30~15:15 ※要申込み ところてんをつくらう①(出羽館)
- ③5月3日(土・祝) 13:30~15:00 ミュージアムトーク 「食の生活史と自然誌のちょっとおもしろい話」(講座室)
- ④5月11日(日) 13:30~15:30 ※要申込み たんぼろコーヒーでティータイム(実習室)
- ⑤5月18日(日) 10:00~12:30 ※要申込み 親子で体験!郷土料理教室(実習室) 講師:フードコーディネーター 田中 美和 氏
- ⑥5月25日(日) 13:30~15:00 記念講演会(徳島県の中華そば史)(講座室) 講師:〈徳島学〉研究者 多喜田 昌裕 氏
- ⑦6月1日(日) 13:30~15:30 ところてんをつくらう②(実習室) ※4月29日の①とセット
- ⑧6月8日(日) 14:00~15:00 展示解説(企画展示室)

★企画展開催中、1階レストラン・ラウンジでは学校給食メニューを食べられます(数量限定メニューです)。

※行事参加申し込みについては徳島県立博物館のホームページ、各参加施設各館の名前(学年等)、③住所、④電話番号をご記入の上、10日以前迄までお申し込みください。

作家の手紙(複製)久松 2013年1月

TANTO 1000円

地域社会を文化で結ぶ HIRASOH 株式会社 平徳

本館/阿南市富岡町東新町80-1 TEL.0884-22-1330
http://www.hirasoh.co.jp/
http://www.hirasoh-net.ne.jp (携帯)

「いただきます〜す!」 ちらし(裏)



「いただきます〜す!」展示解説の様子



「いただきます〜す!」の展示風景

- 主催 徳島県立博物館
- 期間 平成 26 年 4 月 25 日（金）～6 月 8 日（日）
（開館日数 39 日間）
- 会場 博物館企画展示室
- 観覧料 一般 200 円（65 歳以上 100 円）
高校・大学生 100 円 小・中学生 50 円
- 観覧者数 4,651 人
- 展示構成
 - 1) 歴史の中の食（考古資料からみる食、歴史資料からみる食）
 - 2) 食生活の道具（運搬、貯蔵、調整、調理、飲食）
 - 3) 自然の恵みをいただきます（植物を食べる、動物を食べる）
 - 4) 阿波特産の食品
 - 5) 学校給食
- 展示資料点数 349 点
（館蔵資料 209 点、借用資料 140 点）
- 関連行事
 - ①記念講演会
 - 講師 多喜田昌裕氏（《徳島学》研究者）
 - 演題 徳島県の中華そば史（大正時代～平成 10 年の徳島ラーメン「発見」まで）
 - 日時 5 月 25 日（日）13：30～15：00
 - 会場 博物館講座室

参加者 12 人

②親子で体験！郷土料理教室

講師 田中美和氏（フードコーディネーター）

日時 5 月 18 日（日）10：00～12：30

会場 博物館実習室

参加者 28 人

③ところてんをつくろう(1)・(2)

講師 磯本宏紀（博物館学芸員）

日時 (1) 4 月 29 日（火・祝）

10：45～15：15

(2) 6 月 1 日（日）13：30～15：30

会場 (1) 牟岐町出羽島

(2) 博物館実習室

参加者 (1) — (2) 30 人

※(1)は、雨天のため中止となった。

④たんぼぼコーヒーでティータイム

講師 小川 誠（博物館学芸員）

日時 5 月 11 日（日）13：00～16：00

場所 博物館実習室

参加者 29 人

⑤ミュージアムトーク

「食の生活史と自然誌のちょっとおもしろい話」

講師 磯本宏紀、山田量崇、中尾賢一

（いずれも博物館学芸員）

日時 5 月 3 日（土・祝）13：30～15：00

会場 博物館講座室

参加者 8 人

⑥展示解説

第 1 回：4 月 27 日（日）14：00～15：00

参加者 20 人

第 2 回：6 月 8 日（日）14：00～15：00

参加者 25 人

⑦文化の森レストラン TANTO との連携

企画展関連事業として、文化の森レストラン



学校給食風メニュー（レストラン TANTO との連携事業）

8 展示

TANTOにおいて、会期中に学校給食風メニューを提供した。マスコミ報道などでも取り上げられ、好評であった。

(2) 第2回企画展「まんまるワールド—世界と四国の哺乳類—」

哺乳類は白亜紀末に恐竜が減んだ後に台頭してきた脊椎動物の一大グループである。陸上のみならず水域や空中へと様々な環境に適応し、活躍の場を広げた。現在、世界中で約5,500種が知られている。

この企画展ではライオンやトラ、ホッキョクグマなどの世界の哺乳類と共に、タヌキやキツネ、シカやツキノワグマなど身近な四国の哺乳類の分布や生活史などについても紹介した。また、24年9月に鳴門海峡近くに漂着した希少種イチョウハクジラの骨格標本も初公開した。

●主催 徳島県立博物館
認定特定非営利活動法人 四国自然史科学研究センター

●期間 平成26年7月19日(土)～8月31日(日)
(開館日数37日間) ※8月9日午後及び10日は、台風により臨時休館

●会場 博物館企画展示室

●観覧料 一般200円(65歳以上100円)
高校・大学生100円 小・中学生50円

●観覧者数 9,673人

●展示構成

(1) 哺乳類とは？

哺乳類の系統と分類
四肢動物と哺乳類の進化
速く走るための工夫

(2) 世界の哺乳類

ライオン、ベンガルトラ、アフリカゾウなど
外国産哺乳類24種の剥製標本



「まんまるワールド」の展示風景

(3) 四国の哺乳類

モグラ類やコウモリ類、ネズミ類、タヌキやキツネ、外来種のアライグマにハクビシン、剣山系のツキノワグマ、アゴヒゲアザラシ(骨格)、シカやイノシシなど44種の剥製標本

(4) 哺乳類を調べる

クマ捕獲用のドラム缶トラップ、ロボットカメラ、カスミ網、コウモリ捕獲用のハーブトラップなどの調査機材

(5) お絵かきコーナー

●展示資料点数 179点
(館蔵資料124点、借用資料55点)

●関連行事

① 展示解説

第1回：7月20日(日) 14:00～14:30

参加者数 37人

第2回(臨時)：8月3日(日)

14:00～15:00

講師 金子之史氏(香川大学名誉教授)

参加者数 43人

第3回：8月24日(日) 14:00～14:30

参加者数 50人

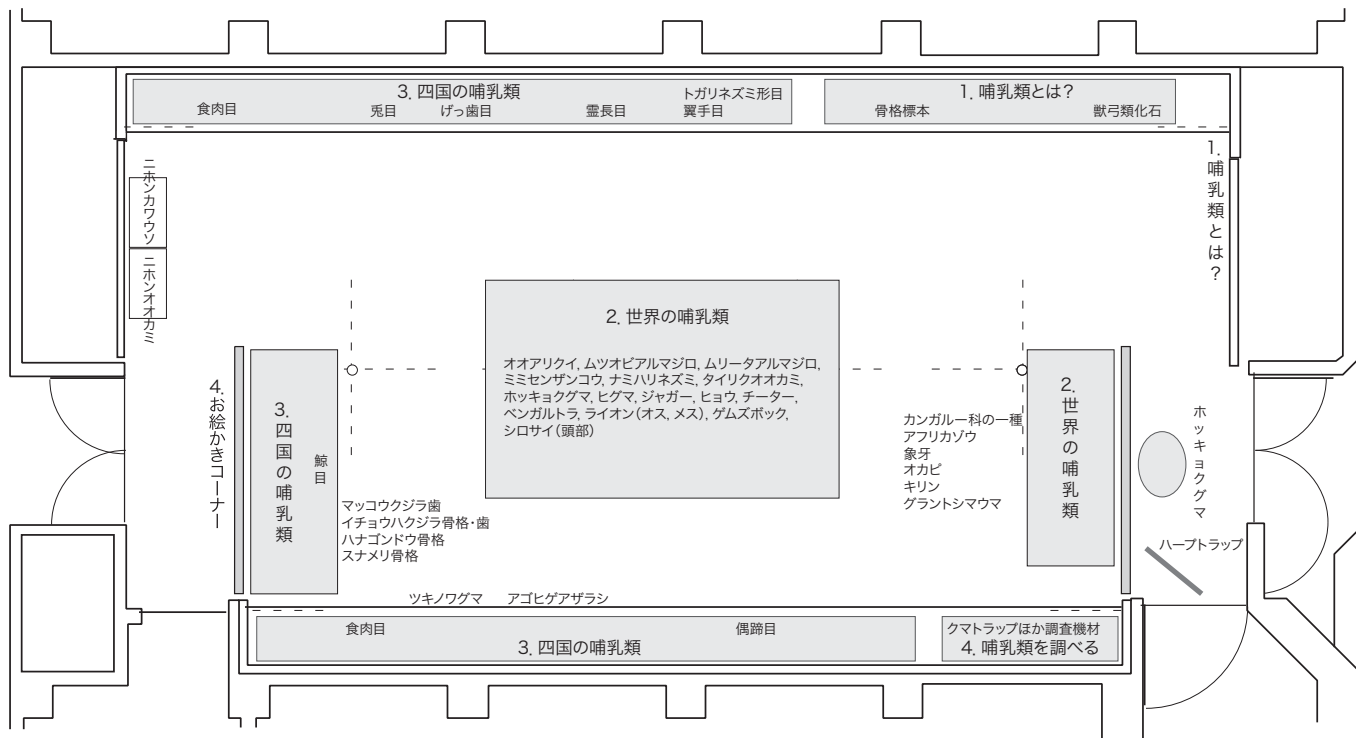
② 「まんまるワールド」記念シンポジウム—四国の哺乳類—

※8月3日の開催を予定していたが、大雨の影響でほとんどの講師が来館できず中止となった。代わりにただ1人来館できた講師、金子之史氏により臨時展示解説を行っていただいた。



「まんまるワールド」展示解説の様子

0 2m



「まんまるワールド」の展示配置

シンポジウム 四国の哺乳類
 日時 8月3日 13:30~15:30
 場所 文化の森イベントホール
 ●ハタネズミのいない四国の哺乳類 金子 史史 (香川大学名誉教授)
 ●狸脂とお稲荷さん〜四国狐狸雑談〜 谷地 森秀二 (四国自然科学研究センター所長)
 ●四国のツキノワグマ〜絶滅から救えるか〜 山田 孝樹 (四国自然科学研究センター研究員)
 ●獣害はどうして起こる 金城 芳典 (四国自然科学研究センター研究員)

企画展2014
 7/19 SAT ~ 8/31 SUN

まんまるワールド
 世界と四国の哺乳類
 The Mammals of the World and the Shikoku Island

会場 徳島県立博物館企画展示室(1階)
 開館時間 9:30~17:00
 休館日 毎週月曜日・7月22日(火)
 (ただし7月21日(月)休館日のため開館)

観覧料
 ●一般:200円 (65歳以上100円) ●小学生:100円 ●中学生:150円
 ●高校・大学生:100円 ●障がい者とその介護者などは無料
 ●小・中学生:50円

文化の森総合公園 徳島県立博物館
 〒770-8070 徳島県八幡町向山
 TEL:088-668-3636 FAX:088-668-7197
 http://www.museum-shikoku.ac.jp

50th ANNIVERSARY

「まんまるワールド」ちらし(表)

徳島県立博物館 平成26年度企画展
まんまるワールド ~世界と四国の哺乳類~

哺乳類は、白亜紀末に恐竜が滅んだ後に台頭してきた脊椎動物の一大グループです。陸上のみならず水域や空中へと様々な環境に適応し、活躍の場を広げました。現在、世界中で約5,500種が知られています。

この企画展ではライオンやトラ、ホッキョクグマなどの世界の哺乳類と共に、タヌキやキツネ、シカやツキノワグマなど身近な四国の哺乳類の分布や生活史など、最新の研究成果も紹介します。

そして、2012年9月に鳴門海峡近くに漂着した希少種イチョウハクジラの全身骨格標本も初公開します。

展示解説 (企画展示室)
 7月20日(日) 14:00~14:30
 8月24日(日) 14:00~14:30

ライオン ヒグマ ホッキョクグマ
 シロサイ
 ジャガー オオアリクイ タイリクオオカミ

鳴門海峡近くに漂着したイチョウハクジラとその歯
 徳島県立博物館(四国自然科学研究センター提供)

みんなおいでよ！友の会
 博物館友の会は、博物館を積極的に利用し、自然や文化・歴史に親しみ、参加・体験しながら子どもから大人まで楽しく学んでいます。ふるってご入会ください。

○年会費・個人会員2,000円 家族会員3,000円(10月~3月の半年会員は半額)
 ○会員の特典
 ●博物館の常設展・企画展の観覧料が無料になります。
 ●催し物案内、博物館ニュース、会報などが送付されます。
 ●友の会行事に参加できます。(一部参加料が必要なものもあります)
 ●友の会の出版物やミュージアムショップの品物を割引価格で購入できます。
 ●国立民族学博物館の入館料が割引になります。

徳島県立博物館友の会事務局
 TEL:088-668-3636 FAX:088-668-7197
 〒770-8070 徳島県徳島市八幡町向山

「まんまるワールド」ちらし(裏)

(3) 第3回企画展「四国霊場開創1200年 記念4県連携事業 空海の足音 四国 へんろ展 [徳島編]」

平成26(2014)年、弘法大師空海(774-835)が四国霊場を開創したといわれる弘仁6(815)年から数えて1200年の節目を迎えた。これを記念し、長い歴史の中で育まれてきた四国遍路という文化を改めてとらえ直すことを目的として、四国4県の県立博物館・美術館等の連携により、各県において「空海の足音 四国へんろ展」を開催した。共通する展示資料を含みつつも、地元の札所等に伝来する文化財を中心に紹介し、4会場を通じて四国遍路の世界を立体的・総括的に提示するものだった。

徳島編では、空海の生涯や弘法大師信仰の興隆、四国遍路の成立・展開とともに、札所に伝えられた信仰の世界などを、初公開資料や国宝4件、重要文化財18件を含む多数の文化財を通じて紹介した。あわせて、徳島県出身の写真家三好和義氏の撮影による写真展示室を設け、四国遍路の「いま」をビジュアルに伝えた。

- 主催 四国へんろ展徳島実行委員会
徳島県教育委員会、徳島新聞社
四国へんろ展開催協議会
- 特別協力 四国八十八ヶ所霊場会
四国八十八ヶ所霊場会阿波部会
高野山真言宗総本山金剛峯寺
総本山善通寺
- 協力 四国大学、鳴門教育大学
- 後援 文化庁、国土交通省四国地方整備局
四国霊場開創1200年連絡協議会
「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会
- 特別協賛 日本通運株式会社
- 総合監修 真鍋俊照氏
(四国大学教授、4番札所大日寺住職)
- 企画指導 4県総合：胡 光氏(愛媛大学教授)
徳島編：町田 哲氏(鳴門教育大学准教授)
須藤茂樹氏(四国大学准教授)
- 期間 平成26年10月25日(金)～11月30日(日)
(開館日数32日間)
- 会場 博物館企画展示室(1・2幕)、多目的活動室(3・4幕)、美術館ギャラリー(5幕)
イベントホール(6幕)
- 観覧料 前売1,000円(当日一般1,300円／65歳以上1,100円) 高校生以下、障がい者とその介助者1人は無料
- 観覧者数 15,525人

●展示構成

第1幕 空海と弘法大師信仰

第1場 空海の足跡／第2場 末法・浄土と大師信仰／第3場 霊場の誕生

<おもな展示資料>

重要文化財 弘法大師坐像 奈良・元興寺蔵
徳島県指定文化財 弘法大師坐像 徳島・12番札所焼山寺蔵

重要文化財 高野大師行状図画 兵庫・白鶴美術館蔵

国宝 金剛般若経開題残巻 奈良国立博物館蔵

重要文化財 性霊集 京都・醍醐寺蔵

東大寺別当次第 奈良・東大寺蔵

国宝 紺紙金銀字一切経 和歌山・金剛峯寺蔵

第2幕 道行く^{ひじり}聖と四国遍路の形成

第1場 四国辺地・辺路と聖／第2場 熊野信仰と山伏／第3場 霊場と信仰の諸相

<おもな展示資料>

徳島県指定文化財 勧善寺大般若経巻二〇八 徳島・勧善寺蔵

重要文化財 空也上人立像 愛媛・49番札所浄土寺蔵

重要文化財 重源上人坐像 兵庫・浄土寺蔵

国宝 唐花唐草蒔絵手箱及び内容品(熊野速玉大社古神宝類のうち) 和歌山・熊野速玉大社蔵

国宝 法眼尊忍御影堂陀羅尼田寄進状(続宝簡集巻五) 和歌山・金剛峯寺蔵

笈 奈良国立博物館蔵

徳島県指定文化財 両界曼荼羅図 徳島・2番札所極楽寺蔵

徳島県指定文化財 日光・月光菩薩立像 徳島・17番札所井戸寺蔵

第3幕 四国遍路の定着と展開

第1場 札所巡礼の成立／第2場 旅の世界／第3場 四国遍路の近代

<おもな展示資料>

予州安養寺霊宝由来(石手寺刻板) 愛媛・51番札所石手寺蔵

上板町指定文化財 駅路寺文書 徳島・6番札所安楽寺蔵

上板町指定文化財 真念標石(道標) 同上

地蔵寺文書 徳島・5番札所地蔵寺蔵

鶴林寺文書・聖教 徳島・20番札所鶴林寺蔵

南山和尚頂相 徳島・11番札所藤井寺蔵

四国徧礼絵図 徳島・四国大学附属図書館蔵

第4幕 四国遍路の周縁

<おもな展示資料>

こころに響く、未知がある。

四国遍路の歴史と文化をより大きく追って未知を探る初の企画展
 今も生々響ける四国遍路の歴史と文化を、神秘的な魅力に惹かれ、
 またたく間に観てほしい。

空海の足音

四国へんろ展

徳島編

写真家三好和義
 の作品同時展示

四国霊場開創二〇〇〇年記念四国遍路事業

平成26年10月25日(土)～11月30日(日)

文化の森総合公園徳島県立博物館

開館時間 9:30～17:00 休館日 10月27日(月)、11月14日(土)、11月17日(月)、11月25日(火)
 〒770-8078 徳島県八万町9-1-9 http://www.museum.sakuhime.ac.jp/

四国霊場開創二〇〇〇年記念四国遍路事業

空海の足音 四国へんろ展

【徳島編】

写真家 三好和義の作品同時展示

平成26年10月25日(土)～11月30日(日)

文化の森総合公園徳島県立博物館

開館時間 9:30～17:00 休館日 10月27日(月)、11月14日(土)、11月17日(月)、11月25日(火)
 〒770-8078 徳島県八万町9-1-9 http://www.museum.sakuhime.ac.jp/

■四国行事

(1)へんろ学入門セミナー①
 日時:11月11日(土) 午後1時30分～午後3時
 講師:前庭 良典(徳島県立大学助教授)「四国遍路と美術」
 会場:徳島県立博物館 講義室 対象:一般50名
 ◎参加無料 ※申し込みによる事前申込が必要(10月22日必着)

(2)へんろ学入門セミナー②
 日時:11月18日(土) 午後1時30分～午後3時
 講師:前庭 良典(徳島県立大学助教授)「絵巻の札所寺院と四国遍路」
 会場:徳島県立博物館 講義室 対象:一般50名
 ◎参加無料 ※申し込みによる事前申込が必要(10月29日必着)

(3)遍路道★花ウォーキング【川島・阿波】
 日時:10月26日(日) 午後1時～4時
 対象:小学生から一般20名(小学生は保護者同伴)
 ◎参加無料 ※申し込みによる事前申込が必要(10月18日必着)

(4)地蔵峠【眉山】の遍路道を歩こう
 日時:11月23日(日) 午後1時～4時
 対象:小学生から一般20名(小学生は保護者同伴)
 ◎参加無料 ※申し込みによる事前申込が必要(11月18日必着)

(5)スペシャルトーク
 日時:11月21日(土)、31日(日) 午前11時～正午、午後1時～2時
 講師:三好和義(写真家)
 ◎観覧券が必要です

(6)展示解説
 日時:10月26日(日)、11月9日(土)、16日(土)、23日(土)、24日(日)
 午後1時30分～午後2時30分
 ◎観覧券が必要です

※(1)～(4)参加申込方法
 ①住所:②電話番号を記入し、郵送による申し込み。
 ③氏名(小学生の場合は、本人及び保護者の)・学年・
 ④住所、⑤電話番号を記入し、徳島県立博物館までお送りください。
 ※定員に達した場合は抽選させていただきます。

四国へんろ展

後援機関等
 徳島県立博物館(主催)・徳島県立美術館(共催)
 徳島県立文化財センター(共催)・徳島県立美術館(共催)
 徳島県立美術館(共催)・徳島県立美術館(共催)
 徳島県立美術館(共催)・徳島県立美術館(共催)

「空海の足音 四国へんろ展」ちらし(表)

第1章

道行く聖と四国遍路の形成

空海の足音、四国遍路の形成

第2章

空海と弘法大師信仰

空海と弘法大師信仰

第3章

四国遍路の定着と展開

四国遍路の定着と展開

第4章

四国遍路の周縁

四国遍路の周縁

第5章

信仰と美

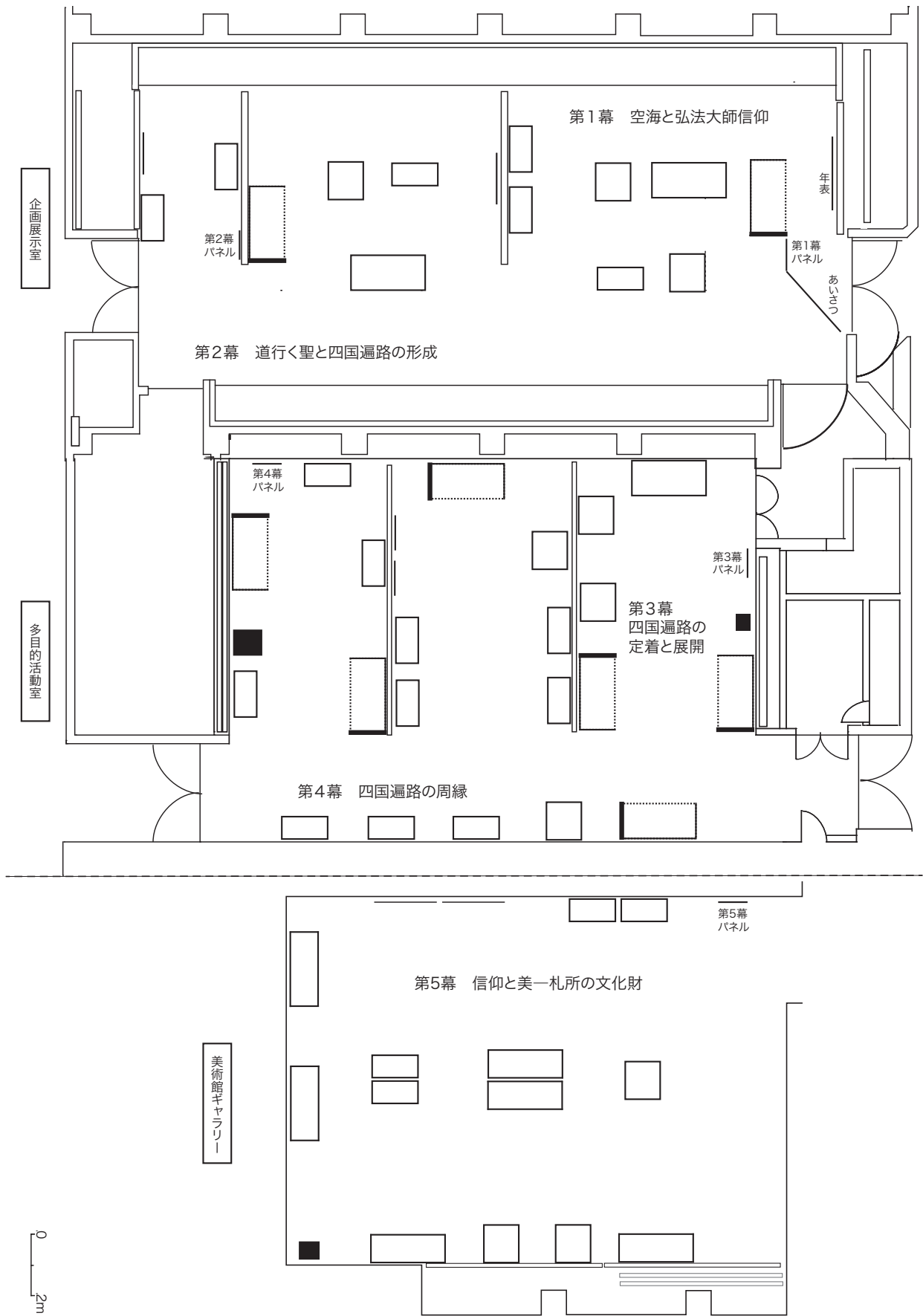
信仰と美

第6章

四国遍路のいま

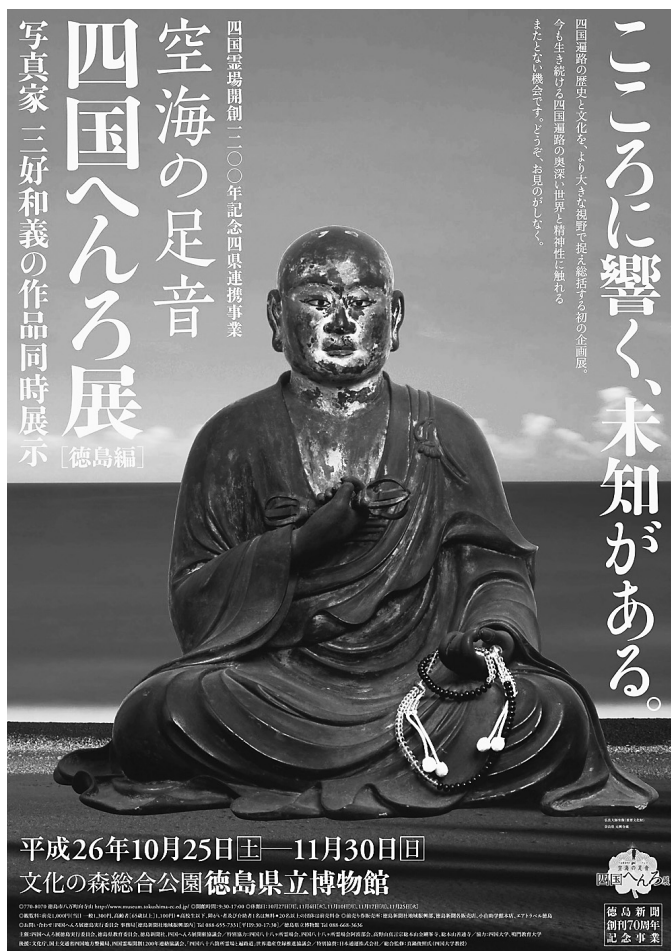
四国遍路のいま

「空海の足音 四国へんろ展」ちらし(裏)



(※) イベントホール(第6幕会場)は省略

「空海の足音 四国へんろ展」の展示配置



「空海の足音 四国へんろ展」ポスター



開展式テープカットの様子



観覧者1万人突破時の様子

- 笈 附納経帳並びに御室御所允可札 徳島・東福寺美術館蔵
- 徳島市指定文化財 養性軒十六詩画卷 徳島市立徳島城博物館蔵
- 那賀町指定文化財 那伊瀬権現夢想託宣記 徳島・宇奈為神社蔵
- 端四国八十八ヶ所絵図 徳島・個人蔵（徳島県立文書館保管）

第5幕 信仰と美一札所の文化財

＜おもな展示資料＞

- 不動明王立像 徳島・3番札所金泉寺蔵
- 十大弟子図 徳島・8番札所熊谷寺蔵
- 神形坐像 徳島・18番札所恩山寺蔵
- 不動明王坐像 徳島・21番札所太龍寺蔵
- 星曼荼羅図 徳島・23番札所薬王寺蔵

第6幕 四国遍路のいま—三好和義が撮る「遍路の旅」

●展示資料点数 420点（館蔵資料35点）

●関連行事

①へんろ学入門セミナー

・第1回

日時 11月1日（土） 13：30～15：00

講師 真鍋俊照氏（総合監修者、四国大学教授）
 演題 四国遍路と美術
 会場 博物館講座室
 参加者 38人

・第2回

日時 11月8日（土） 13：30～15：00

講師 町田 哲氏
 （企画指導者、鳴門教育大学准教授）

演題 近世の札所寺院と四国遍路

講師 須藤茂樹氏
 （企画指導者、四国大学准教授）

演題 絵画・彫刻に見るお大師さんのおすがた
 会場 博物館講座室
 参加者 37人

②遍路道☆花ウォーキング [川島・阿波]

日時 10月26日（日） 13：00～16：00

講師 小川 誠（博物館学芸員）

参加者 10人

③地蔵峠 [眉山] の遍路道を歩こう

日時 11月23日（日） 13：00～16：00

講師 磯本宏紀（博物館学芸員）



「空海の足音 四国へんろ展」の展示風景（企画展示室）



「空海の足音 四国へんろ展」の展示風景（美術館ギャラリー）



「空海の足音 四国へんろ展」の展示風景（イベントホール）

参加者 20人

④スペシャル・トーク

開催日・参加者

10月25日（土）70人

11月2日（日）（2回実施）220人

11月3日（月・祝）（2回実施）240人

11月16日（日）（2回実施）80人

講師 三好和義氏（写真家）

会場 イベントホール（第6幕会場）

⑤展示解説

開催日・参加者

10月26日（土）100人

11月2日（日）40人

11月3日（月・祝）30人

11月9日（日）35人

11月16日（日）55人

11月23日（日）130人

11月24日（月・祝）60人

11月30日（日）（2回実施）90人

3. 特別陳列

(1) よみがえる縄文世界

—鳥居龍蔵の信州調査—

鳥居龍蔵による信州調査の概要を紹介するとともに、とくに縄文遺跡調査に注目して、諏訪地方、伊那地方の縄文土器を紹介した。

●主催 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
徳島県立博物館

●会場 博物館企画展示室

●会期 平成27年1月24日（土）～3月1日（日）
（開館日数32日）

●観覧料 一般200円（65歳以上100円）
高校・大学生100円 小・中学生50円

●観覧者数 2,827人

●展示構成

I 鳥居龍蔵の日本人起源論と信州調査

(1) アイヌ説・固有日本人説

(2) 鳥居の信州関係の著書

(3) 曾根遺跡についての論争

(4) 信州の鳥居ゆかりの考古学者 八幡一郎

II 信州の縄文世界—諏訪・伊那—

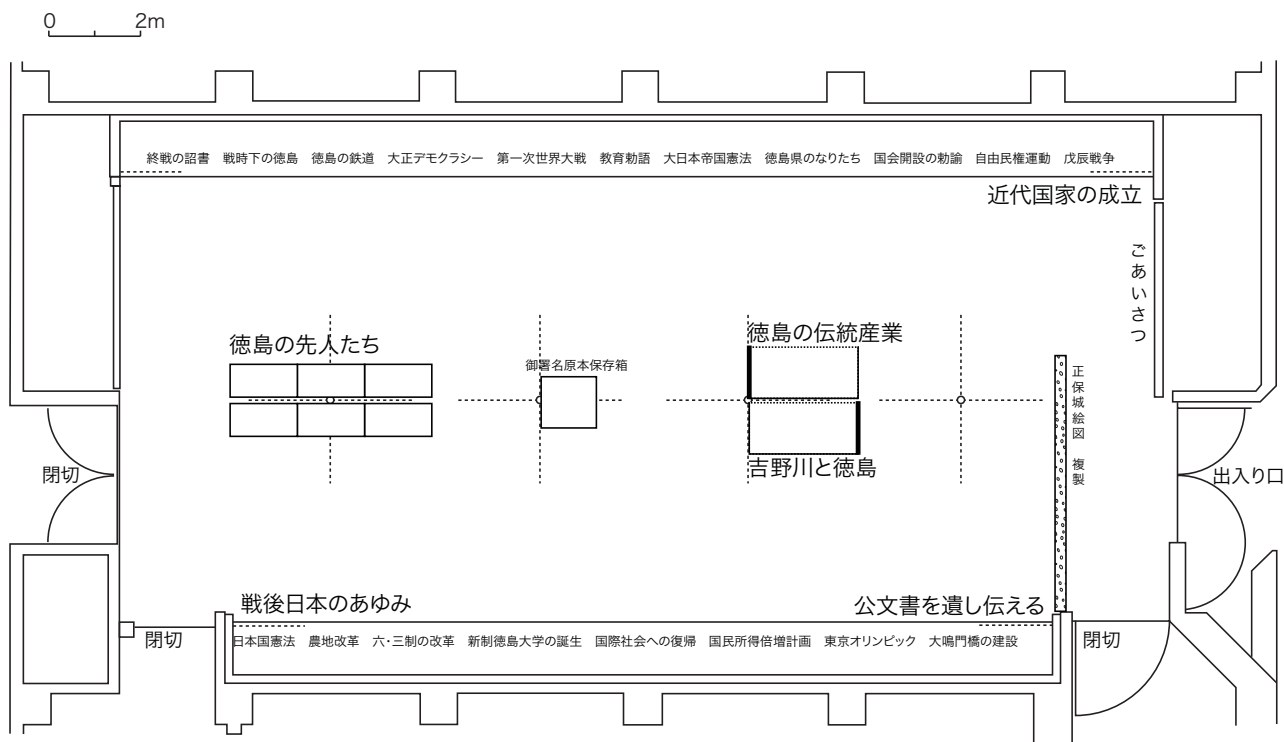
(1) 諏訪地方出土品

(2) 伊那地方出土品

●展示資料点数 274点（館蔵資料0点）

(2) 国立公文書館所蔵資料展 近代日本と徳島のあゆみ

国立公文書館が所蔵する貴重な歴史資料を通して、日本と徳島の近代の歩みを紹介した。あわせて、徳島県立文書館と徳島県立博物館が所蔵する関連資料も展



「国立公文書館所蔵資料展 近代日本と徳島のあゆみ」の展示配置

錦の御旗



大正デモクラシー

大日本帝国憲法

内閣総理大臣 黒田清隆
枢密院議長 伊藤博文
外務大臣 伯爵 岡田外務大臣
海軍大臣 伯爵 西郷従道
農商務大臣 伯爵 村上啓作

国立公文書館

資料所蔵展

近代日本と徳島のあゆみ

入場無料

【開催期間】平成27年 3月7日(土)→3月19日(木)
【開催時間】9:30～17:00 (月曜日は休館)
【開催場所】徳島県立博物館 企画展示室
徳島市八万町向香山 文化の森総合公園 TEL.088-668-3636
<http://www.museum.tokushima-ac.ed.jp/>
【主催】独立行政法人国立公文書館 / 徳島県立文書館 / 徳島県立博物館

展示解説
平成27年 3月7日(土) 14:00～

大鳴門橋

日本国憲法

国民所得倍増計画

自由民権運動

国立公文書館

資料所蔵展

徳島県のなりたち

近代日本と徳島のあゆみ

国立公文書館(東京都千代田区)は、国の機関等から移管を受けた歴史資料として重要な公文書等を長く保存し、閲覧、展示、インターネットによる公開等さまざまな取組を行っています。このたび、徳島県立博物館において所蔵資料展を開催します。

重要文化財である「公文録」(徳島藩編始末)をはじめ、「民権議院設立建白書」「国民所得倍増計画」など、教科書でおなじみの資料も登場! 近代日本と徳島のあゆみを示す貴重な文書の数々を、県立文書館・県立博物館の関連資料とともにご覧ください。



戦時下の徳島

著蔵登山鉄道


徳島県の大学

展示解説 平成27年3月7日(土)14:00～ 会場:徳島県立博物館 企画展示室(1階)


交通のご案内
徳島県立博物館は文化の森総合公園内に図書館・美術館・文書館等とともにあります。
各種道路標識や案内板は「文化の森」となっています。

- JR徳島駅からバス利用約25分
- JR文化の森駅から徒歩約35分(文化の森駅からのタクシーやバスの便はありません)
- 自家用車をご利用の場合
国道5号を南に下ると徳島県庁を過ぎて約5分ほどで園瀬川の橋(大野橋)です。
文化の森の看板がありますので園瀬川沿いにおいでください。
※文化の森には無料駐車場・駐輪場があります。

徳島県立博物館 徳島市八万町向香山 文化の森総合公園 TEL.088-668-3636







「国立公文書館所蔵資料展」ちらし(表)

「国立公文書館所蔵資料展」ちらし(裏)

示した。

- 主催 独立行政法人国立公文書館
徳島県立文書館
徳島県立博物館
- 会期 平成 27 年 3 月 7 日（土）～ 3 月 19 日（木）
（開館日数 11 日）
- 会場 博物館企画展示室
- 観覧料 無料
- 観覧者数 1,537 人
- 展示構成

1. 近代国家の成立

<おもな展示資料>

重要文化財 戊辰所用錦旗及軍旗真図（錦の御旗の
図） 国立公文書館蔵

民撰議院設立建白書 国立公文書館蔵

重要文化財 公文録 徳島騒擾始末 国立公文書館
蔵

阿波軌道平面図 徳島県立文書館蔵

昭和二十年七月三日工場罹災報告書 当館蔵

2. 戦後日本のあゆみ

<おもな展示資料>

新制徳島大学の設置認可申請書 国立公文書館蔵

国民所得倍増計画閣議書 国立公文書館蔵

3. 公文書を遺し伝える

4. 徳島の先人たち

5. 徳島の伝統産業

6. 吉野川と徳島

- 展示資料点数 80 点（館蔵資料 12 点）

●関連行事

展示解説

日時：3月7日（土） 14：00～15：00

講師：水野京子氏（国立公文書館公文書専門官）

参加者：60 人



「国立公文書館所蔵資料展」展示解説の様子

(3) 2014 年度文化の森人権問題啓発展

文化の森 6 館と徳島県教育委員会人権教育課との共催で、人権問題啓発展（識字学級生の作品を中心とする展示）を行った。

- 主催 文化の森 6 館・徳島県教育委員会人権教育課
- 期間 平成 26 年 12 月 10 日（水）～ 12 月 16 日（火）
- 会場 近代美術館ギャラリー（展示）
ミニシアター（ビデオ上映）
- 観覧者数 315 人

4. 館外での展示

(1) 展示パッケージの貸し出し

県内の博物館等の支援及び収蔵資料の展示機会の増加を図るため、必要に応じて展示パッケージ（テーマに応じた展示資料、ラベル等のセット）の貸し出しを行っている。

26 年度の貸し出し実績は、次の通りである。

・空から見た徳島（美波町日和佐図書・資料館）

平成 26 年 8 月 6 日～ 8 月 31 日

(2) 移動展

収蔵資料の活用を促進するため、当館が主体となって展示を企画・構成する移動展にも重点的に取り組むことにしている。従来は、要望のあった施設での開催を中心としていたが、26 年度は、当館の広報を兼ねて多くの人が集まるアミコ 6 階での移動展を試みた。

●移動展「アンモナイト展」

主催 徳島県立博物館

会期 平成 26 年 4 月 15 日（火）～ 5 月 13 日（火）

会場 アミコ 6 階（徳島市立図書館とそごうの間の通路）



「アンモナイト展」の展示風景（徳島市立図書館への連絡通路）

観覧者数 8,512人
 展示資料点数 55点（館蔵資料55点）

5. 常設展の更新及び活性化に向けての取り組み

(1) 常設展の更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめどに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から9年度にかけて館内での検討を行ってきたが、事業化は実現しなかった（年報7号参照）。その後、開館15年目に当たる17年度にリニューアルオープンする計画で、事業規模を縮小して計画の見直しを行い、予算積算などを行ったが、事業化は認められなかった。

厳しい財政状況のもと、常設展更新の実現可能性は乏しいものの、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、開館以来の資料や情報の蓄積が顕著でかつ社会的な要請の高いテーマが展示できていなかったりするなど、展示更新を行っていないことによる不具合も生じてきた。そこで、19年度に、現段階で有効かつ現実的と考えられる常設展更新の方向性を議論し、新たな基本計画案をまとめた（年報17号参照）。21年度には、この計画案に沿いながら、一部の中項目や小項目の変更を含む「リフレッシュ事業」（中規模な展示更新）を行った（年報19号参照）。その後も、予算的措置を必要としない小規模な展示更新を継続して行っている。

大規模な展示更新が見込めない中、26年度は、公共施設としてユニバーサル化やグローバル化の流れに遅れを取っている部分の更新に焦点をあて、文化庁の補助金を受け、近代美術館、二十一世紀館と協働して「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」に取り組んだ（詳細はp.49・50参照）。地域の様々な立場の人やボランティアとともに、施設利用や展示についての問題点の検証、改善の試みを行った。その結果、27年度文化の森25周年のフレッシュアップ事業、安全安心の文化施設モデル事業として、案内表示等の更新を行うこととなった。

(2) 常設展の活性化に向けての取り組み

常設展の全面更新が困難な状況にあることから、現行常設展の手直しなどを進め、より利用しやすく、また、より変化の見えるかたちへと変えていくよう取り組みを進めている。26年度は、上記「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」の中で、視覚障がい者、聴覚障がい者、外国人、高齢者、幼児の5つの視

点からより展示を楽しむ方法を考え、ボランティアとともに体験キットなどを試作し、文化の森ウィンターフェスティバルの一環として行った「博物館Vキングーみんなで創るユニバーサルミュージアム編一」で公表した。

さらに、展示室を利用したイベントの充実や、キッズ・チャレンジコーナーの更新などを行った。

26年度の取り組みは、次のようなものである。

- ①部門展示（人文）における多様な展示の展開
 人文、自然のテーマを織り交ぜて6回の展示を行った（詳細はp.3・4参照）。
- ②阿波の近世絵画の展示替えを4回行った（詳細はp.4・5参照）。
- ③チャレンジコーナーの更新
 24年度、低年齢の子どもが利用しやすいよう、「キッズ・チャレンジコーナー」として、畳と座卓を設置し、利用者からは好評を得ている。26年度には、ボランティアスタッフと協働して作成した昔の遊び「はしごくんだり」や恐竜のぬり絵を追加し、展示により親しみを持ってもらえるよう努めた。
- ④トピックコーナーの更新
 速報性、話題性に富んだ展示を心がけている。26年度は更新を5回行った（詳細はp.5参照）。

⑤展示解説等の促進

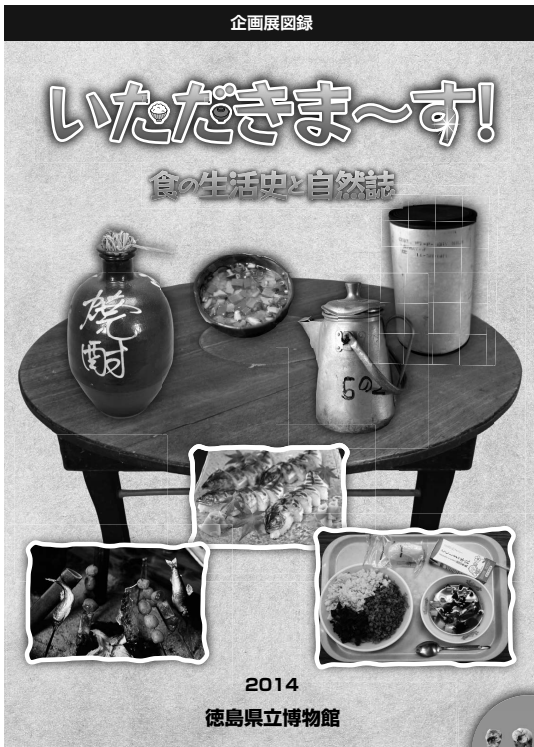
- ・部門展示「屋根瓦コレクション」「カタツムリ展」「100均☆自然史グッズ『観察』『採集』『標本』『工作]」「四国南東部の地形と地質」「徳島水平社創立90周年記念 部落問題に向きあった人びと」「藩絵師のすがお」で展示解説を実施した。
- ・20年度から引き続いて、常設展示室内数箇所で、手作りのセルフガイドを設置・配布している。また、21年度より当館が紙面作成に協力している徳島新聞金曜夕刊の「みんなの知りたい なんでもQ&A」を常設展示室入口に掲示するとともに、コピーを観覧者が自由に持ち帰ることができるようにしている（年報19号参照）。

6. 展示関係出版物

■企画展図録・解説書

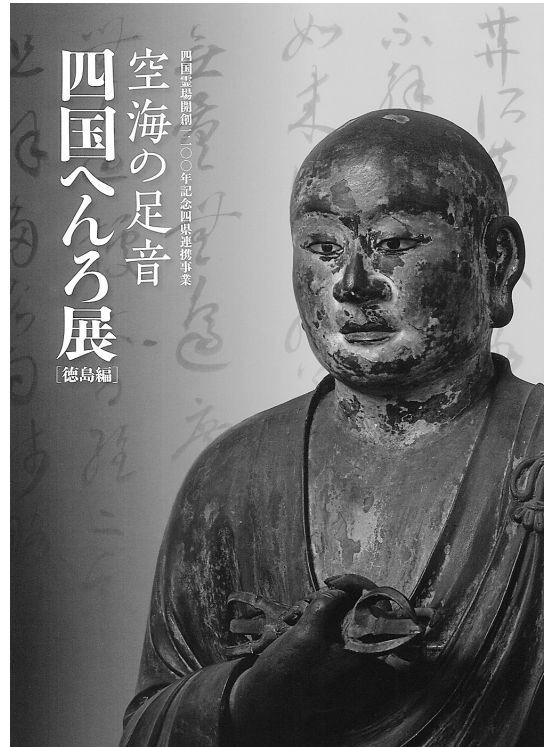
- 第1回企画展図録「いただきま〜す！一食の生活史と自然誌一」
 編集・発行 徳島県立博物館
 2014年4月25日発行、A4判44ページ、600部
 友の会増刷200部
- 第2回企画展記念出版物「四国の哺乳類」

監修 金子之史
編集 徳島県立博物館、認定特定非営利活動法人
四国自然史科学研究センター
発行 徳島県立博物館
2014年7月19日発行、A5判67ページ、700部
友の会増刷200部



図録『いただきます〜す!』(表紙)

●第3回企画展図録「四国霊場開創1200年記念4
県連携事業 空海の足音 四国へんろ展 [徳島編]」
編集 徳島県立博物館
発行 四国へんろ展徳島実行委員会
2014年10月25日発行、A4判240ページ、2,000部



図録『四国へんろ展』(表紙)



『四国の哺乳類』(表紙)

■特別陳列図録

●「国立公文書館所蔵資料展 近代日本と徳島のあゆみ」
編集 独立行政法人国立公文書館、徳島県立文書館
徳島県立博物館
発行 徳島県立文書館
2015年3月7日発行、A4判8ページ、2,000部

Ⅱ 普及教育

普及教育事業、とくに普及行事は「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成26年度は、年間101回（中止7回）の普及行事を実施した（他にクイズラリーを24回行った）。シリーズを改編したり、教員のためのイベントを開催したりして、時代に合った催し物を計画している。

普及行事は県民のあいだにかなり定着してきているが、参加者は徳島市内とその近郊在住者に片寄っている。そのため、「歴史散歩」「野外生きものかんさつ」「海部自然・文化セミナー」等において、郡部での開催を増やすなどの工夫を行っている。

1. 普及行事

■ワクワクむかし体験

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

9月14日(日)	勾玉をつくろう	23人
10月12日(日)	土器作り①成形	8人
11月16日(日)	土器作り②野焼き	6人
2月15日(日)	掛け軸・巻物にしたしもう	17人

■歴史散歩

県内を中心に、主な遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。



歴史散歩「香川の古墳見学バスツアー」

5月25日(日)	香川の古墳見学バスツアー	38人
6月8日(日)	阿南富岡まち歩き	23人
9月28日(日)	由岐歴史散歩	24人
3月15日(日)	鳴門の古墳見学	28人

■野外いきものかんさつ

野外に出かけて行く、季節に応じた動植物の観察や地質の見学会を通して学ぶシリーズ。

4月20日(日)	初めての植物かんさつ(春編)	31人
5月17日(土)	磯の生きものかんさつ	69人
5月17日(土)	初めての植物かんさつ(晩春編)	15人
6月15日(日)	初めての植物かんさつ(梅雨期編)	19人
6月22日(日)	さがしてみよう！でんでんむし	13人
7月26日(土)	川魚かんさつ	40人
7月27日(日)	漂着物を探そう！	50人
8月9日(土)	トラップで虫採り！①	中止
8月10日(日)	トラップで虫採り！②	中止
9月7日(日)	河口の生きもの	31人
9月20日(土)	ウミホタルを観察しよう	28人
10月19日(日)	初めての植物かんさつ(秋編)	17人
11月2日(日)	バッタ採りをしよう！	16人
1月25日(日)	初めての植物かんさつ(新年編)	37人
2月22日(日)	初めての植物かんさつ(冬編)	19人



野外いきものかんさつ「磯の生きものかんさつ」

■ミクロの世界

電子顕微鏡や光学顕微鏡を用い、動植物や化石などを観察し学ぶシリーズ。

- 6月29日(日) 電子顕微鏡で植物を見よう!① 17人
- 9月21日(日) 電子顕微鏡で植物を見よう!② 3人
- 10月5日(日) スンプでかんたん顕微鏡かんさつ 10人
- 11月9日(日) 電子顕微鏡で化石を見よう! 14人
- 12月7日(日) 電子顕微鏡で昆虫を見よう!① 14人
- 3月1日(日) 電子顕微鏡で昆虫を見よう!② 11人

■みどりの工作隊

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習を通して学ぶシリーズ。

- 5月28日(水) おし花で遊んでみよう 10人
- 7月21日(月) 藍の葉っぱで遊ぼう 47人
- 8月17日(日) 草や木を使った環境にやさしい紙作り 11人
- 10月19日(日) ドングリとウツギの笛を鳴らそう 9人
- 12月7日(日) リースをつくろう 29人

■たのしい地学体験教室

地層や化石、岩石・鉱物などの野外観察や室内での実習を通して学ぶシリーズ。

- 4月27日(日) 眉山の地質見学 25人
- 5月18日(日) 化石をさがそう [淡路島] 31人
- 6月7日(土) 化石のレプリカをつくろう 32人
- 7月20日(日) 貝化石標本をつくろう 24人

- 10月12日(日) 立体視にチャレンジ! 2人
- 10月19日(日) 白亜紀の地層見学 [勝浦] 22人
- 11月30日(日) 木の葉化石の発掘体験 33人
- 3月8日(日) アンモナイト標本をつくろう 25人

■ミュージアムトーク

学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話をするシリーズ。

- 6月1日(日) 古代阿波の瓦職人 11人
- 1月18日(日) 土器製塩のはなし 18人
- 2月1日(日) 幕末の徳島 35人

■古文書講座

古文書を読み、歴史について学ぶシリーズ。26年度は、8回セットで実施した。

- 4月19日(土) 古文書手習い初級編① 20人
- 5月17日(土) 古文書手習い初級編② 20人
- 6月21日(土) 古文書手習い初級編③ 18人
- 7月19日(土) 古文書手習い初級編④ 16人
- 9月20日(土) 古文書手習い初級編⑤ 15人
- 10月18日(土) 古文書手習い初級編⑥ 16人
- 11月15日(土) 古文書手習い初級編⑦ 13人
- 12月20日(土) 古文書手習い初級編⑧ 15人

■海部自然・文化セミナー

学芸員が講師を務め、海陽町立博物館との共催で行う講座。第3回は海陽町立博物館学芸員が担当した。

- 5月18日(日) 四国遍路と修験道 34人
- 6月22日(日) 鳴門海峡海底のナウマンゾウ化石 18人
- 7月27日(日) 県南の古代文化と長国 35人
- 8月31日(日) 銅鐸のはなし 23人



たのしい地学体験教室「木の葉化石の発掘体験」



海部自然・文化セミナー「四国遍路と修験道」

■企画展・特別陳列等関連行事

企画展や特別陳列等の開催中に、展示解説等を行った。

●企画展「いただきま〜す！ー食の生活史と自然誌ー」関連行事

4月27日(日)	企画展「いただきま〜す！」	
	展示解説	20人
4月29日(火)	ところてんをつくろう① [出羽島]	中止
5月3日(土)	食の生活史と自然誌のちょっとおもしろい話	8人
5月11日(日)	たんぼぼコーヒーでティータイム	29人
5月18日(日)	親子で体験！郷土料理教室	28人
5月25日(日)	企画展記念講演会「徳島県の中華そば史」	12人
6月1日(日)	ところてんをつくろう②	30人
6月8日(日)	企画展「いただきま〜す！」	
	展示解説	25人

●企画展「まんまるワールドー世界と四国の哺乳類ー」関連行事

7月20日(日)	企画展「まんまるワールド」	
	展示解説	37人
8月3日(日)	「まんまるワールド」シンポジウムー四国の哺乳類ー	中止
8月10日(日)	日本の古第三紀哺乳類の化石	中止
8月24日(日)	企画展「まんまるワールド」	
	展示解説	50人

●企画展「四国霊場開創1200年記念 4県連携事業 空海の足音 四国へんろ展 [徳島編]」関連行事

10月25日(土)	企画展「空海の足音 四国へんろ展」	
	スペシャル・トーク①	70人
10月26日(日)	遍路道☆花ウォーキング [川島・阿波]	10人
10月26日(日)	企画展「空海の足音 四国へんろ展」	
	展示解説①	100人
11月1日(土)	第1回へんろ学入門セミナー	38人
11月2日(日)	企画展「空海の足音 四国へんろ展」	
	スペシャル・トーク②	220人
11月2日(日)	企画展「空海の足音 四国へんろ展」	
	展示解説②	40人
11月3日(月)	企画展「空海の足音 四国へんろ展」	
	スペシャル・トーク③	240人
11月3日(月)	企画展「空海の足音 四国へんろ展」	
	展示解説③	30人
11月8日(土)	第2回へんろ学入門セミナー	37人

11月9日(日)	企画展「空海の足音 四国へんろ展」	
	展示解説④	35人
11月16日(日)	企画展「空海の足音 四国へんろ展」	
	スペシャル・トーク④	80人
11月16日(日)	企画展「空海の足音 四国へんろ展」	
	展示解説⑤	55人
11月23日(日)	地蔵峠 [眉山] の遍路道を歩こう	20人
11月23日(日)	企画展「空海の足音 四国へんろ展」	
	展示解説⑥	130人
11月24日(月)	企画展「空海の足音 四国へんろ展」	
	展示解説⑦	60人
11月30日(日)	企画展「空海の足音 四国へんろ展」	
	展示解説⑧	90人

●特別陳列「国立公文書館所蔵資料展 近代日本と徳島のあゆみ」関連行事

3月7日(土)	特別陳列「国立公文書館所蔵資料展」	
	展示解説	60人

●部門展示関連行事

4月13日(日)	部門展示「屋根瓦コレクション」	
	展示解説	15人
6月1日(日)	部門展示「屋根瓦コレクション」	
	展示解説	14人
6月22日(月)	部門展示「カタツムリ展」	
	展示解説	36人
8月10日(日)	部門展示「100均☆自然史グッズ『観察』『採集』『標本』『工作』」	
	展示解説	中止
10月26日(日)	部門展示「四国南東部の地形と地質」	
	展示解説	6人
12月21日(日)	部門展示「徳島水平社創立90周年記念 部落問題に向きあった人びと」	
	展示解説	7人
2月8日(日)	部門展示「藩絵師のすがお」	
	展示解説	14人
3月22日(日)	部門展示「藩絵師のすがお」	
	展示解説	7人

■クイズラリー

毎月第2・第4土曜日に、小・中・高校生を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に行っており、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながることを期待している。参加者全員に記念品を贈呈している。

4月12日	117人 (小113・中4・高0)
4月26日	98人 (小93・中4・高1)
5月10日	98人 (小93・中5・高0)
5月24日	80人 (小75・中1・高4)
6月14日	154人 (小139・中10・高5)
6月28日	107人 (小99・中7・高1)
7月12日	107人 (小101・中5・高1)
7月26日	138人 (小131・中4・高3)
8月9日	11人 (小11・中0・高0)
8月23日	152人 (小148・中3・高1)
9月13日	119人 (小115・中4・高0)
9月27日	118人 (小111・中5・高2)
10月11日	116人 (小113・中2・高1)
10月25日	98人 (小97・中0・高1)
11月8日	91人 (小89・中2・高0)
11月22日	76人 (小75・中0・高1)
12月13日	111人 (小106・中4・高1)
12月27日	91人 (小86・中4・高1)
1月10日	95人 (小91・中4・高0)
1月24日	83人 (小81・中1・高1)
2月14日	102人 (小91・中1・高10)
2月28日	96人 (小94・中1・高1)
3月14日	81人 (小78・中2・高1)
3月28日	94人 (小89・中5・高0)
参加者合計	2,433人 (小2,319・中78・高36)

■その他の普及行事

●**食べる！文化の森フェスティバル** 5月5日(月)
文化の森6館による春期初の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを実施した。博物館では、2階常設展示室に体験コーナーを設け、「化石クリーニング実演」「魚釣りゲーム」「石うすで粉引き体験」「昔のあそびいろいろ」「ぬり絵とすごろくで楽しもう！」「おり紙のゆび人形(友の会と共同)」を行った。

参加者：2,211人

●**教員のための博物館の日 in 徳島 2014**

7月30日(水)

教職員に、博物館に親しみをもってもらうこと、博物館の学習資源を知ってもらうことを目的としたイベント。国立科学博物館の提唱により、同館及び趣旨に賛同した各地の博物館で開催されている。当館では、25年度に初めて開催し、26年度も継続して実施した(詳細はp.26参照)。

参加者：24人

●**夜の博物館 ドキドキ体験ツアー** 中止

8月9日(土)に、夜間の常設展、企画展、地学収蔵庫を解説付きで見学する予定だったが、台風が襲来

し、参加者の安全確保のため中止とした。

●**標本の名前を調べる会** 8月23日(日)

毎年8月下旬に行う恒例の行事で、学芸員のほか3名の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけではなく、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。

参加者：50人

●**文化の森サマーフェスティバル** 8月24日(日)

文化の森6館による夏期の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを行った。博物館では、普段見ることができない収蔵庫や研究施設など、博物館の裏側を見学する「博物館わくわくツアー」を実施した。また、2階常設展示室において「恐竜の大型模型づくり」「博物館資料のプラバンをつくろう！」「博プレにチャレンジ」を、鳥居龍蔵記念博物館と共同で「民族衣装を着てみよう！」を、それぞれ行った。

参加者：1,722人

●**文化の森大秋祭り!!** 11月3日(月)

文化の森6館による秋期の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを行った。博物館では、「博物館フェスティバル」と題し、2階常設展示室において「化石や勾玉などのレプリカをつくろう」「動物カルタあそび」「標本にさわってみよう」「藍のおし花でハガキづくり」「マラカスであそぼう」(友の会と共同)を、鳥居龍蔵記念博物館と共同で「絵あわせパズルをつくろう！」を、それぞれ行った。

参加者：1,681人

●**文化の森ウィンターフェスティバル** 2月11日(水)

文化の森6館による冬期初の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを行った。博物館では、「博物館Vキングーみんなで創るユニバーサルミュージアム編一」を開催した(詳細はp.49・50参照)。

参加者：1,178人

2. 学校教育支援事業

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとって遠足での博物館見学以外にも様々な活用ができる場であるはずである。また、教育改革に伴う学校完全週5日制や「総合的な学習の時間」とも関連し、博物館等の社会教育機関に対して積極的な学校教育への支援が要請されるようになった。

当館でも、平成12～13年度に「博物館と学校との連携に関する研究会」を組織し、博物館と学校との連携(博学連携)のあり方等について模索した。それを踏

まえ、14年度から学校教育支援事業として、学校の授業での博物館利用への支援、学校の授業への講師派遣（出前授業）、学校への博物館資料の貸し出し、職場体験の受け入れ等を積極的に行っている。

学校へ案内パンフレットなどを配布することにより博物館の学校教育支援事業が周知されつつあり、利用が増えている。

25年度に四国で初めて実施した「教員のための博物館の日 in 徳島」を、26年度も継続して行った。このイベントを開催することにより、教職員に博物館の施設や事業、資料などについての理解を深めてもらい、授業など学校における活動に博物館を活用する方法を知ってもらうことを目指した。

(1) 学校の授業での博物館利用への支援

理科や社会科の授業、「総合的な学習の時間」での活動と関連して、クラスやグループ単位で博物館を利用する例が増えている。受け入れに当たっては、展示資料だけではなく、必要に応じて収蔵資料を見てもらったり、学芸員が助言したりするなどの支援を行った。

- ①上八万小学校（徳島市） 5月2日（金）
3年生 43人
植物の育ちとつくり・植物の一生（講師：小川）
- ②上八万小学校（徳島市） 5月2日（金）
5年生 53人
植物の育ちとつくり・植物の一生（講師：小川）
- ③森山小学校（吉野川市） 5月9日（金）
6年生 17人
社会歴史分野（講師：岡本）
- ④藍住東小学校（徳島市） 5月16日（金）
5年生 72人
メダカのたん生（講師：佐藤）



館内授業の様子

- ⑤三島中学校（美馬市） 5月23日（金）
1・3年生 27人
大地は語る〈化石〉（講師：辻野）
- ⑥神宅小学校（板野郡） 5月30日（金）
3年生 24人
藍と阿波商人・阿波人形浄瑠璃（講師：磯本）
- ⑦徳島市立高等学校（徳島市） 5月30日（金）
1年生 16人
常設展示全般〈特に歴史〉（講師：松永）
- ⑧城ノ内中学校（徳島市） 8月1日（金）
1～3年生 14人
岩石・化石の学習（講師：中尾）
- ⑨御所小学校（阿波市） 10月24日（金）
3年生 34人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
- ⑩徳島市立高等学校（徳島市） 10月31日（金）
2年生 12人
へんろ展の見学（講師：長谷川）
- ⑪城南高等学校（徳島市） 11月14日（金）
1年生 42人
Science Introduction 博物館研修 「四国南東部の地形と地質」等展示解説（講師：中尾）
- ⑫不動小学校（徳島市） 11月21日（金）
3年生 12人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
- ⑬王地小学校（三好市） 11月25日（火）
6年生 15人
地層・化石の学習（講師：辻野）
- ⑭山瀬小学校（吉野川市） 12月4日（木）
6年生 47人
地層・化石の学習（講師：辻野）
- ⑮八万南小学校（徳島市） 1月14日（水）
3年生 100人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ⑯鳴門教育大学附属小学校（徳島市） 1月22日（木）
4・5年生 15人
微生物の観察（講師：山田）
- ⑰鳴門東小学校（鳴門市） 2月20日（金）
6年生 7人
地層・化石の学習（講師：辻野）

(2) 学校の授業への講師派遣（出前授業）

依頼に応じて、講師として学芸員を学校へ派遣した。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。

- ①阿南工業高等専門学校（阿南市） 4月9日（水）
本科5年生 29人

24 普及教育

- 環境実験・生物多様性（講師：小川）
- ②協町小学校（美馬市） 4月23日（水）
6年生 48人
大昔の暮らし（講師：岡本）
- ③八万小学校（徳島市） 4月28日（月）
6年生 96人
大昔の暮らし（講師：岡本）
- ④川島小学校（吉野川市） 4月30日（水）
6年生 37人
縄文の村から古墳のくにへ（火おこし体験）
（講師：岡本）
- ⑤木頭小学校（那賀郡） 5月12日（月）
6年生 5人
大昔の暮らし（講師：岡本）
- ⑥木頭中学校（那賀郡） 5月12日（月）
2年生 5人
大昔の暮らし（講師：岡本）
- ⑦椿町中学校（阿南市） 5月16日（金）
1～3年生 31人
火おこし体験（講師：岡本）
- ⑧広野小学校（名西郡） 7月2日（火）
1～6年生 50人
水生生物調査（講師：山田）
- ⑨徳島中学校（徳島市） 7月2日（水）
2年生 167人
戦争と平和「命の大切さ」（講師：長谷川）
- ⑩芝生小学校（三好市） 7月8日（火）
3年生 26人
昆虫の体のつくりと育ち（講師：山田）
- ⑪鳴門教育大附属中学校（徳島市） 7月15日（日）
2年生 76人
外国船の出現と天保の改革（講師：松永）
- ⑫鴨島児童館（吉野川市） 8月20日（水）
4～6年生 36人
大地のつくり・化石クリーニング（講師：中尾）
- ⑬一宮小学校（徳島市） 9月3日（水）
1～6年生 56人
水生生物（講師：山田）
- ⑭渋野小学校（徳島市） 9月9日（火）
3年生 42人
昆虫のつくりと育ち（講師：山田）
- ⑮津田小学校（徳島市） 9月10日（水）
3年生 97人
昆虫のつくりと育ち（講師：山田）
- ⑯助任小学校（徳島市） 9月25日（木）
6年生 121人
おそいかかる空襲（講師：松永）
- ⑰由岐小学校（海部郡） 10月3日（金）
6年生 11人
南海地震について調べよう〈石碑・拓本化〉
（講師：岡本）
- ⑱学島小学校（吉野川市） 10月31日（金）
3年生 19人
いろいろな昆虫のかんさつ（講師：山田）
- ⑲論田小学校（徳島市） 11月14日（金）
6年生 62人
地球と宇宙（講師：中尾・辻野）
- ⑳立江小学校（小松島市） 11月18日（火）
6年生 15人
大地のつくりと変化（講師：辻野）
- ㉑川内北学校（徳島市） 11月21日（金）
6年生 107人
大地のつくりと変化（講師：中尾・辻野）
- ㉒新町小学校（徳島市） 12月9日（火）
3年生 25人
新町たんけん（講師：佐藤）
- ㉓上八万小学校（徳島市） 12月20日（土）
4～6年生 6人
エンジョイサイセンス（講師：佐藤）
- ㉔学島小学校（吉野川市） 1月16日（金）
3年生 19人
昔の道具と暮らし（講師：庄武）
- ㉕明神小学校（鳴門市） 1月16日（金）
3年生 40人
昔の道具と暮らし（講師：磯本）
- ㉖海南小学校（海部郡） 1月20日（火）
4～6年生 11人
火おこし体験（講師：岡本）
- ㉗知恵島小学校（吉野川市） 1月21日（水）
3年生 20人
昔の道具と暮らし（講師：庄武）
- ㉘撫養小学校（鳴門市） 1月21日（水）
3年生 43人
昔の道具と暮らし（講師：磯本）
- ㉙川島小学校（吉野川市） 1月23日（金）
3年生 33人
昔の道具と暮らし（講師：磯本）
- ㉚津田小学校（徳島市） 1月27日（火）
3年生 95人
昔の道具と暮らし（講師：庄武）
- ㉛林崎小学校（鳴門市） 1月27日（火）
3年生 51人
昔の道具と暮らし（講師：磯本）
- ㉜里浦小学校（鳴門市） 1月27日（火）

3年生	26人	
昔の道具とくらし (講師: 磯本)		
③③	渋野小学校 (徳島市)	1月28日(水)
3年生	42人	
昔の道具とくらし (講師: 庄武)		
③④	鴨島小学校 (吉野川市)	1月28日(水)
3年生	64人	
昔の道具とくらし (講師: 磯本)		
③⑤	黒崎小学校 (鳴門市)	2月3日(火)
3年生	23人	
昔の道具とくらし (講師: 磯本)		
③⑥	羽ノ浦小学校 (阿南市)	2月4日(水)
3年生	104人	
昔の道具とくらし (講師: 磯本)		
③⑦	吉井小学校 (阿南市)	2月9日(月)
3年生	18人	
昔の道具とくらし (講師: 磯本)		
③⑧	見能林小学校 (阿南市)	2月10日(火)
3年生	66人	
昔の道具とくらし (講師: 磯本)		
③⑨	徳島県立徳島聴覚支援学校 (徳島市)	2月13日(金)
3・4年生	7人	
昔の道具とくらし (講師: 磯本)		
④⑩	北島南小学校 (板野郡)	2月13日(金)
3年生	75人	
昔の道具とくらし (講師: 庄武)		
④⑪	新野小学校 (阿南市)	2月17日(火)
3年生	10人	
昔の道具とくらし (講師: 庄武)		
④⑫	一宮小学校 (徳島市)	2月17日(火)
3年生	5人	
昔の道具とくらし (講師: 磯本)		
④⑬	芝生小学校 (三好市)	2月18日(水)
3年生	26人	
昔の道具とくらし (講師: 磯本)		
④⑭	西井川小学校 (三好市)	2月20日(金)
3年生	11人	
昔の道具とくらし (講師: 磯本)		
④⑮	大津西小学校 (鳴門市)	2月24日(火)
3年生	28人	
昔の道具とくらし (講師: 庄武)		
④⑯	八万南小学校 (徳島市)	3月5日(木)
3年生	101人	
まちの人たちが受けつぐ行事 (講師: 磯本)		
④⑰	平島児童クラブ (阿南市)	3月25日(水)
児童	51人	
植物について〈世界の種・漂着物〉 (講師: 茨木)		

(3) 博物館資料の学校への貸し出し

小・中学校及び高校の授業等で活用してもらうため、10年度から博物館資料の学校への貸し出しを行っている。貸出用資料の一層の利用促進を図るため、15年度末には「学校貸出用資料解説シート」を印刷し、小・中学校及び高校に配布した。また、来館した教職員には、必要に応じて解説シートを配布し、利用を勧めている。

- ①川内中学校 (徳島市) 4月13日～4月30日
貸出資料: ナウマンゾウ化石 (レプリカ)・石鏃 計10点
使用目的: 中1社会科
- ②応神小学校 (徳島市) 5月18日～5月25日
貸出資料: 復元青銅器 (銅鐸1、銅剣1、銅戈1、銅矛1) 計4点
使用目的: 小6社会科
- ③鳴門教育大学附属中学校 (徳島市) 6月1日～6月8日
貸出資料: 諸官立学校入学試験問題集1、週報領国ニュース第151号1、両国座・世界館・相生座・稲荷座チラシ各1、徳島県関係絵はがき40ほか 計51点
使用目的: 中2社会科 (研究授業で使用)
- ④城西中学校 (徳島市) 7月3日～7月9日
貸出資料: 焼夷弾部品2、焼夷弾模型1、空襲被災遺物2、写真パネル13 計18点
使用目的: 中2 (平和教育推進のための授業に使用)
- ⑤助任小学校 (徳島市) 9月18日～9月25日
貸出資料: 戦争被災資料磁器片2、焼夷弾破片2、写真パネル9 計13点
使用目的: 小6 (徳島大空襲についての理解を深めるための授業に使用)
- ⑥学島小学校 (徳島市) 10月24日～11月7日
貸出資料: 戦争被災資料磁器片2、焼夷弾破片2、写真パネル9 計13点
使用目的: 小3国語 (戦争の悲惨さを知るための授業で使用)
- ⑦山瀬小学校 (吉野川市) 10月25日～11月9日
貸出資料: 三葉虫・アンモナイト・アンモナイト (レプリカ)・ナウマンゾウ (レプリカ) 計52点
使用目的: 小6理科 (「大地のつくりと変化」で使用)
- ⑧山瀬小学校 (吉野川市) 12月3日～12月13日
貸出資料: 須恵器 (忌部山2号墳の副葬品) 計7点
使用目的: 小3総合的な学習の時間

- ⑨城ノ内中学校（徳島市） 1月16日～1月23日
貸出資料：三葉虫、アンモナイト、貨幣石、ピカリア、水晶 計85点
使用目的：中1理科（化石の学習資料として活用）
- ⑩川島小学校（吉野川市） 1月24日～1月30日
貸出資料：糸車1 計1点
使用目的：小1国語（学習資料として活用）
- ⑪小松島中学校（小松島市） 1月29日～2月6日
貸出資料：固着した磁器片2 焼夷弾破片2
写真パネル9 計13点
使用目的：中1・2総合（平和学習で利用）

(4) 職場体験の受け入れ

中学校・高校の職場体験事業の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。

- ①南部中学校（徳島市） 5月13日～15日
3年生3人
- ②八万中学校（徳島市） 5月14日～16日
3年生3人
- ③鳴門教育大学附属中学校（徳島市） 7月2日～4日
2年生2人
- ④小松島高等学校（小松島市） 8月12日
2年生2人
- ⑤徳島聴覚支援学校（徳島市） 11月13日
2年生1人
- ⑥那賀高等学校（那賀町） 11月20日～21日
2年生1人
- ⑦城ノ内中学校（徳島市） 11月20日～21日
3年生2人
- ⑧城西中学校（徳島市） 1月22～23日
2年生3人



職場体験（城西中学校2年生）：植物標本整理作業

(5) 教員のための研修

徳島県教育委員会等からの依頼により、館内外における教員対象の研修会で職員が指導に当たった。

- ①海部郡教育会総会並びに教職員研修会
4月24日（木） 参加者36人
・博物館の活動紹介（講師：鉄谷）
- ②海部郡中学校社会部会研修会
6月5日（木） 参加者9人
・博学連携について（講師：鉄谷）
- ③教員のための博物館の日 in 徳島2014（大学・研究機関等研修、10年次研修）
7月30日（水） 参加者24人
・博物館を活用しよう（講師：三好）
・ワクワク博物館ツアー（講師：小川・磯本）
・博物館活用の実例（講師：重本哲也氏（鳴門教育大学附属中学校教諭））
・博物館資料の活用（講師：幸坂敏行氏（堀江南小学校長））
・学習意欲を3倍UP！ 授業で使えるヒント（講師：小川）
・身近な地域の歴史を調べよう！（講師：松永）
・学校向け貸出資料を知ろう（講師：学芸員全員）
- ④徳島県小学校教育研究会理科部会研修会
8月7日（木） 参加者20人
・地学資料を使った出前授業の紹介（講師：中尾）
・地学収蔵室等見学（講師：中尾）
- ⑤藍住町教育研究会人権教育研修会
8月11日（月） 参加者30人
・部落史（講師：長谷川）
- ⑥板野郡小学校理科担当教員研修会
8月25日（月） 参加者29人
・「身近な草や木で紙作り」実習（講師：小川）
- ⑦徳島県高等学校教育研究会地歴学会地域研修会
11月12日（水） 参加者13人



教員のための博物館の日 in 徳島2014「博物館を活用しよう」

- ・「空海の足音 四国へんろ展 [徳島編]」見学
(講師：長谷川)

(6) その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸し出しに限らず、学校の授業やクラブ活動等において、自然観察、生活体験、歴史学習等を実施する際、児童・生徒の学習意欲向上のための工夫や資料の活用方法等を、学芸員が博物館での経験を踏まえ、教員の相談に応じることとしている。

3. 普及教育関係出版物

(1) 博物館ニュース

博物館の広報紙で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する "Culture Club"、館蔵品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A4判・8ページ(全ページカラー)で9,000部を印刷している。

平成26年度は、次の4号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

● No.95 (2014年6月25日発行)

- 表紙 イチョウハクジラ
- Culture Club 藩絵師 矢野典博
- 画名のうつりかわり -
- 企画展 まんまるワールド
- 世界と四国の哺乳類 -
- 情報ボックス 阿波藍商人が建てた熊本・本妙寺の常夜灯
- 野外博物館 ウミタケとその化石
- Q & A 昨年発表された那賀町で見つかったアンモナイトは学術的にどのような点が、すごいのですか？

● No.96 (2014年9月15日発行)

- 表紙 四国霊場の弘法大師坐像
- Culture Club トコジラミー復活の吸血虫ー
- 企画展 空海の足音 四国へんろ展(徳島編)
- 情報ボックス 祖谷のジャガイモ
- 館蔵品紹介 鈕にシカの描かれた銅鐸
伝榎瀬銅鐸(複製品)
- Q & A 海岸で土器が拾えるってほんとですか？

● No.97 (2014年12月1日発行)

- 表紙 300年前の巨大地震を伝える
- Culture Club 改良唐箕「島本式唐箕」

- 館蔵品紹介 那賀郡富岡町吹田家文書
- 情報ボックス 毒棘を持つ魚？アカザ
- 野外博物館 山里に群生して咲くタンポポ
- Q & A トピックコーナーで展示した土器の年代は、どうやって決めたのですか？

● No.98 (2015年3月25日発行)

- 表紙 鬼面文鬼瓦
- Culture Club 南ドイツのジュラ紀の化石産地
- 企画展 瓦から見る古代の阿波
- 寺院と役所 -
- 館蔵品紹介 狩野典信筆 柚折枝図粉本1枚
- 新着資料紹介 中川 健氏の徳島県産昆虫標本
- Q & A 徳島にも厚い火山灰層があると聞いたのですが、いつ、どこから降ってきたのですか？

(2) その他

●年間催し物案内

1年間の普及行事予定を掲載したA4判ちらし。7万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。さらに、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領や申込み方法等の案内を印刷した、A3判またはA4判のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどを説明した印刷物。

●博物館の学校支援事業案内

博物館が行っている学校への支援事業を、内容別に紹介したパンフレット。

4. 徳島新聞「こども新聞」への協力

徳島新聞社では平成20年4月から金曜日の夕刊に「こども新聞」の掲載を開始した。博物館ではこのコーナーの執筆及び編集協力(テーマ選定、校閲)を行っている。26年度、博物館の協力により掲載された記事は24本である(詳細はp.32~36参照)。

Ⅲ 調査研究

調査研究は、博物館における諸活動の根幹をなす活動である。質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じて館外の研究者も含め、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、館長を含む13人の学芸スタッフがこの業務に携わっている。

1. 課題調査

平成26年度は、次の2つの課題調査を行った。

(1) 祖谷地方の在来作物

— 保全と活用に向けて —

祖谷地方は、四国山地に位置し、秘境ともいわれ、山深い地勢の中で特有の農耕を営んできた地域である。限られた耕作地の中で、1950年代まで焼畑農耕が行われ、ソバ、ヒエ、アワ、キビなどの雑穀類や芋類、また換金作物としてのミツマタなどを栽培してきた。これらの作物の中には、東アジア一帯の山間地で栽培されてきた作物と共通する品種も見られ、日本の農耕文化の成り立ちや、作物の伝播について考える重要な



雑穀についての聞き取り（東祖谷）

要素とされている。また、斜面の畑地で栽培されるジャガイモについては、祖谷で栽培しなければ味が変わるといわれ、山間地ならではの土地条件に適した栽培品種を育ててきたといわれている。

これら在来作物の中には、これまで明確に記録されてこなかったものや、品種の位置づけがあいまいなものも多い。また近年、祖谷での在来作物は、農耕形態の変化や地域の過疎高齢化に伴い栽培されなくなる傾向にある。

本調査では、祖谷地方の在来作物についての網羅的な記録作成を目指し、在来作物の品種、栽培方法と栽培現況、利用方法についての聞き取り調査及び作物の標本収集を行った。調査で得た情報の蓄積、解析がすすめば、特産物としての商品化や過疎高齢化にも対応できる省力化した栽培方法の開発につながる基礎資料を提示でき、在来作物の保全と活用、さらには地域の活性化に貢献できると考えている。

●調査メンバー

博物館学芸員：庄武憲子（民俗）

茨木 靖（植物）

館外調査員：梅本信也氏（京都大学フィールド科学教育研究センター里域生態系部門）

藤川和美氏（高知県立牧野植物園）

●調査の概要及び成果

第1回調査 徳島県徳島市 6月12日～13日

第2回調査 徳島県三好市 7月15日～18日

第3回調査 徳島県三好市 10月7日～10日

第4回調査 徳島県三好市 11月25日～28日

4回の調査で、これまで祖谷に特徴的だと言われてきた雑穀の栽培は、現在数軒の農家でしか行われていないこと、その中で豆類の栽培が根強く残っていることなどが明確になった。また祖谷での農業の在り方は、積極的に多種の作物を試作し、その中で祖谷の土地に適した作物を選択し、地域の作物として残してきた傾向が見えてきた。26年度の調査結果の一部を、徳島県西部総合県民局農林水産部主催の農家民宿スキルアップセミナーで公表した。

(2) 徳島県のタンポポの分布調査

県内には、カンサイタンポポやシロバナタンポポなどの在来種と、セイヨウタンポポやアカミタンポポな

どの外来種が生育している。この在来種と外来種のタンポポの割合を調べることにより、都市化の度合いを把握することができる。

平成20～21年に行われた「タンポポ調査・西日本2010」では、外来種の割合は西日本において徳島県が最も低い結果となり、良い自然環境が残されていることが明らかとなった。

その5年後の26年度末からは、「タンポポ調査・西日本2015」が開催され、徳島県でもこれにあわせて調査を始めた。これにより、前回の「タンポポ調査・西日本2010」と比較することにより、変化の動向・推移を把握することが可能であると考えられる。調査によって得られた成果は、自然環境の変化を考察する上で、貴重な基礎データとなるであろう。

なお、この調査は市民参加型調査であり、県民のみなさんに調べてもらうことで、身の回りの自然環境や生物多様性に関心をもってもらうという効果が期待できる。

●調査メンバー

博物館学芸員：小川 誠（植物）

●調査概要

- ①「タンポポ調査・西日本2015」実行委員会と打ち合わせをしながら、調査方法、調査用紙のフォーマットを決めた。
- ②現地調査は、26年と27年の2回実施し、調査期間は、それぞれ3月1日から5月31日までとした。
- ③徳島県では、徳島県立博物館が県の調査事務局となり、調査の呼びかけやデータの集約を行うこととした。
- ④当館トピックコーナーでの小展示「タンポポ調査がはじまります」を、26年3月4日(火)～6月1日(日)まで行い、調査の参加を呼びかけた。
- ⑤26年の調査では、徳島県で2,466枚の調査用紙が集まった（前回の「タンポポ調査・西日本2010」では1,172枚）。また、参加者数は約450人（前回は100人）であった。前回の調査と比べ、参加者の広がりや関心の高まりをうかがう事ができる。
- ⑥西日本全体で26年の調査結果をまとめ、A3両面カラーのパンフレットを作成した。
- ⑦博物館で参加を呼びかけるため、チラシ80,000枚作成し、県内各小・中学校の全児童・生徒に配布した。
- ⑧27年3月1日より「タンポポ調査・西日本2015」を開始した。前回の「タンポポ調査・西日本2010」を上回るペースで、調査用紙が寄せられている。

2. 分野別（個別）調査研究

佐藤陽一（動物・脊椎動物）

①徳島県淡水魚類相調査

園瀬川および鮎喰川で魚類相調査を行った。

②徳島県希少野生生物生息状況調査「オヤニラミ」

18年度から開始した徳島県産オヤニラミ調査は、これまでの調査成果を活かして「岡川オヤニラミ再生プロジェクト（仮称）」（日亜化学、愛媛大学との共同プロジェクト）としても実施することとなった。26年度はこの一環として、桑野川の県天然記念物指定区間を含む地域の遺伝的集団構造の調査を行った。

③徳島県希少野生生物生息状況調査「オオウナギ」

近年、県南地域において確認事例が続いているオオウナギの生息環境を把握する目的で、水質調査を行った。

山田量崇（動物・無脊椎動物）

①南部インドの農業生態系における半翅類の分類と生態に関する研究

有用天敵であるハナカメムシ類を中心とした難同定分類群の同定法の確立と生態的知見の蓄積を行った（インド国立農業昆虫研究所と共同）。

②トコジラミ上科半翅類に見られる特異的な交尾様式の進化パターンと機能の解明（科研費助成による研究）

野外調査と海外博物館における標本調査によって実験及び解析のためのサンプリングを行った。

③徳島県の小蛾類調査

徳島県産の小蛾類を対象にインベントリー作成をめざした標本の収集と分類学的研究を行った（九州大学大学院広渡俊哉氏と共同）。

④外来昆虫の分布拡大経路の解明

徳島に侵入した外来カメムシ類の分布拡大経路を追跡調査した（加藤敦史氏と共同）。

⑤県産無脊椎動物相の調査

県産のダニ類及びクモ類の標本収集を行った。

小川 誠（植物）

①タンポポの分布調査

タンポポ調査2010・西日本の結果を受け、香川県でモウコタンポポの分布調査を行った。

②市民参加型調査のツールの開発

タンポポ調査など市民参加型調査で活用できるツールを開発した。特に位置情報の記録に大切な世界測地系メッシュの地図を作成し、インターネットで公開した。

茨木 靖 (植物)

①県産植物相の調査

徳島県の植物相の調査を行った(木下覺氏らと共同)。

②イネ科植物の比較研究

国内外各地のイネ科植物について、その異同、分布等に関する調査を行った。

③県内における海流種子等の漂着状況を調査した(池淵正明氏、濱直大氏らと共同)。

中尾賢一 (地学)

①新統～更新統の堆積環境と貝化石相の調査

高知県、長崎県、鹿児島県で堆積構造の観察と貝化石の採集および二枚貝類の分類学的研究を行った。

②海産無脊椎動物の分類学的・生物地理学的研究

県内外の海岸に打ち上げられている貝類および干潟に生息する貝類を採集し、利用の実態も含めて調査した。

辻野泰之 (地学)

①北海道の蝦夷層群より産出するアンモナイト化石に関する研究

特に白亜系蝦夷層群より産出する異常巻きアンモナイト：バキュリテス類の分類、進化に関する研究を行った。

②古生物タイプ標本における3Dデジタルアーカイブの構築に関する研究(科研費助成による研究)

日本において記載された白亜紀アンモナイトのタイプ標本の3D画像のアーカイブを構築するための研究を行った。

③徳島県鳴門市および兵庫県南あわじ市で産出するアンモナイト化石に関する研究

特に異常巻きアンモナイト：プラビトセラスに関する研究を行った(東京大学総合研究博物館や北九州市立自然史歴史博物館と共同)。

④阿南市の地質に関する研究

特に阿南市伊島の地質に関する研究を行った(徳島大学と共同)。

高島芳弘 (考古)

①若杉山遺跡を中心とする徳島県における朱採掘遺跡の確認調査

若杉山遺跡から津乃峰山にかけての山地、傾斜地で石杵の分布調査を行った。

②北の脇海岸に埋納された古銭の調査

平成24年2月に受け入れた資料について、発見経緯の聞き取りや銭名の確認を行った。

③鳥居龍蔵の城山貝塚調査の検討

鳥居が撮影した写真の現地比定や、鳥居とともに

貝塚調査に関わった人物による調査内容の確認を行った。

岡本治代 (考古)

①徳島県における古代瓦の調査

阿南市立善寺跡・吉野川市河辺寺跡等で出土した古代瓦の調査を行った。

②奈良県・大阪府における古代瓦の調査

徳島県内出土資料と関係の深い、平城京出土瓦、難波宮出土瓦の調査を行った。

長谷川賢二 (歴史)

①四国遍路の形成と展開に関する調査研究

四国遍路形成史に関して、とくに遍路に先行する「辺地」や「辺路」について再検討した。また、「四国霊場開創1200年記念4県連携事業 空海の足音 四国へんろ展」の開催準備のため、関係資料を調査した。

②熊野那智御師史料の検討

近年発見された熊野那智山の御師関係史料のうち、阿波に関係するものについて、内容及び背景について検討した。

③藩撰地誌『阿波志』に関する調査

徳島城博物館が所蔵する当該資料の共同調査に参加し、書誌的な情報や内容等の調査を行った。

松永友和 (歴史)

①幕末から近代の徳島に関する資料調査

幕末から近代の徳島について、文献資料を中心に調査した。その成果の一部は、ミュージアムトーク「幕末の徳島」や、部門展示「徳島水平社創立90周年記念 部落問題に向きあった人びと」で紹介・公表した。

②那賀郡富岡町(現阿南市)吹田家資料に関する調査

当館に収蔵されている吹田家文書を調査し、検討を加えた。その成果は、『研究報告』25号に「資料紹介 阿波国那賀郡富岡町吹田家文書について」として公表した。

③四国遍路に関する調査

四国遍路について、徳島県内の札所寺院や県外の資料館等に収蔵されている資料を調査した。

④藩撰地誌『阿波志』に関する調査

徳島城博物館が所蔵する当該資料の共同調査に参加し、書誌的な情報や内容等の調査を行った。

庄武憲子 (民俗)

①阿波木偶箱まわしの足跡調査および関係資料に関する調査

「阿波木偶箱まわし」伝承推進事業の一環として、徳島県内に残る三番叟まわし用具、箱廻し用具の詳細調査を行った。また、兵庫県豊岡市、岡山県真庭

郡で阿波の箱廻しが残したとされる道具の調査を行った。結果を報告書に公表した。

②出羽島伝統的建造物群保存対策調査

牟岐町牟岐浦出羽島伝統的建造物群保存対策調査指導委員の一員として、地元の人から聞き取り調査を行った。結果を報告書に公表した。

③祖谷地方の在来作物調査

課題調査として三好市東祖谷、西祖谷山村で作物についての聞き取り調査、採集を行った。27年度も引き続き調査を行い、結果を報告書にまとめる予定である。

④ユニバーサルミュージアムについての取り組み

「みんなで創るユニバーサルミュージアム」事業の一環として、地域のさまざまな立場の人とのワークショップを開催し、多くの人により楽しめる展示について検討した。一部をボランティアスタッフと協働して試作し、イベント、報告書で公表した。

磯本宏紀（民俗）

①漁業移住に関する民俗学的研究

漁民の出稼ぎ・移住に関する聞き取り調査、文献調査を行った。漁業移住の実態と、それにともなった文化伝播の痕跡を明らかにすることを目的として検討した。

②唐箕に関する調査

海部郡、阿南市、那賀郡において、博物館・資料館等が収蔵する唐箕に関する資料調査を行った（四国民具研究会との共同調査）。

③箱廻しに関する調査

海部郡域において、箱廻しの足跡に関する聞き取り調査を行った（「阿波木偶箱廻し」伝承推進事業検討委員会における共同調査）。

④牟岐町牟岐浦出羽島伝統的建造物群保存対策調査

出羽島伝統的建造物群保存対策調査指導委員として、主に出羽島においてカツオ・マグロ漁に関する聞き取り調査を行った（牟岐町牟岐浦出羽島伝統的建造物群保存対策調査委員会との共同調査）。

⑤鳥取県史編さん事業に関する調査の内「生業（漁業）」に関する調査（鳥取県史編さん室及び調査委員との共同）

大橋俊雄（美術工芸）

①森崎家資料の調査

阿波藩の絵師の家に伝えられた粉本類である森崎家資料（館蔵）について、その内容を検討し、江戸時代の絵師の実態について調査した。

②飯塚桃葉に関する調査

18世紀後半に活躍した阿波藩の御用蒔絵師飯塚桃葉について、近年の研究動向、新発見の作品をふま

えながら、より具体的な位置づけを検討した。

③藤重家に関する調査

阿波蜂須賀家とつながりをもった塗師藤重家について、資料を収集した。

④刀剣・刀装具などの金工作品、およびそれらの作者の調査

阿波で作られた海部刀、阿波の装剣金工の作品などについて調査した。

⑤徳島県下札所寺院所蔵の仏像・仏画・工芸品の調査

上記寺院所蔵の美術資料について、基礎的なデータ、調査履歴などの情報を収集し、実物を調査した。

3. 分野別（個別）調査研究等の館内公表会（セミナー）の実施

課題調査及び分野別（個別）調査研究等について、学芸員相互の情報交換と研究資質向上をはかることを目的として、館内公表会（セミナー）を随時実施している。必要に応じて、学芸員の調査研究の協力者等、館外の研究者に発表を依頼することもある。平成26年度は次の通り実施した。

6月11日（水） 山田量崇「タイプ標本調査のためのヨーロッパ博物館巡り」

7月29日（火） 庄武憲子「祖谷地方の在来作物」

9月26日（金） 茨木 靖「四国にツクバキンモンソウを求めて」

12月3日（水） 高島芳弘「鳥居龍蔵の城山貝塚調査」

2月27日（金） 山田量崇「トコジラミ上科半翅類に見られる特異的な交尾様式について」

4. 科学研究費補助金等による研究

●若手研究（B）：古生物タイプ標本における3Dデジタルアーカイブの構築に関する研究（平成24～26年度）

研究代表者：辻野泰之

●若手研究（B）：トコジラミ上科半翅類に見られる特異的な交尾様式の進化パターンと機能の解明（平成25～27年度）

研究代表者：山田量崇

●基盤研究（C）化石から探る現生種貝類の起源（平成25～27年度）

研究代表者：近藤康生（高知大学理学部教授）

当館の分担研究者：中尾賢一

●基盤研究 (B) : 四国遍路の学際的総合研究 : 地域資料によるその実態解明と国際比較 (平成25~28年度)

研究代表者 : 寺内 浩 (愛媛大学法文学部教授)
当館の分担研究者 : 長谷川賢二、松永友和

5. 他機関との共同研究

●タンポポ調査・西日本 2015

身近な花であるタンポポの分布を調べ、環境の変化などを西日本一帯で調べる取り組み「タンポポ調査2015・西日本」を他機関と協働して行った (徳島県の調査については課題調査「徳島県のタンポポの分布調査」を参照)。

調査範囲は「タンポポ調査・西日本2010」と同様、福井、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀の19府県にわたった。各府県で実行委員会を立ち上げ、そこには博物館や大学関係者が参加した。

各府県の実行委員会が集まり、全体の実行委員会「タンポポ調査・西日本実行委員会」を結成し、当館の小川学芸員が事務局のメンバーとなった。

26年は3月から5月に調査を行い、サンプル検討会やスタッフ会議を通じて、同定の水準を合わせ、調査方法の見直しを行った。また、各府県の実行委員会でも入力したデータを小川学芸員がチェック、集計した。さらに、各府県の実行委員会から、外来種のタンポポのタネを大阪市立大学に送付し、DNA解析を行い、雑種の割合を調べた。それらの26年調査成果をまとめ、カラーチラシを作成し配布した。

27年3月1日に大阪市立自然史博物館で現地調査説明会と第3回実行委員会を開催し、27年調査を開始した。

6. 研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第25号の発行

2015年3月29日発行、A4判90ページ、600部
(*印 : 館外研究者)

論文

辻 幸一* : 愛媛県岩松川水系の魚類相. p.1-24.

調査報告・資料紹介

広渡俊哉*・小林茂樹・池内 健*・長田庸平*・山田量崇 : 剣山系の蛾類(2) - 2010 - 2011年の調査結果

- . p.25-40.

小川 誠・久米 修* : 香川県のモウコタンポポ. p.41-44.

大原賢二*・山田量崇 : アサギマダラの移動に関する徳島県の記録 (2014年) . p.45-63.

松永友和 : 阿波国那賀郡富岡町吹田家文書について - 吹田家本陣関係文書の紹介と翻刻 - . p.65-78.

短報

清水孝昭*・久米 洋* : 愛媛県西条市中山川からのシラウオ (サケ目シラウオ科) の記録. p.79-82.

茨木 靖 : 徳島県産クジュウノガリヤス

Calamagrostis × *microtis* (Ohwi) Ohwi (イネ科) についての雑記. p.83-86.

(2) 公表論文・報告・記事等一覧

(*印 : 館外研究者)

●動物

〈学術的著述〉 (☆ : 査読付学術雑誌)

☆ Yasunaga, T.*, Yamada, K. & Artchawakom, T.* (2014. 5) Additional records and descriptions of the ant-mimetic plant bug genus *Pilophorus* from Thailand (Hemiptera: Heteroptera: Miridae: Phylinae: Pilophorini) . *Zootaxa*, 3795: 1-15.

☆ Yamada, K. (2014.8) A new minute pirate bug of the genus *Scoloposcelis* (Hemiptera: Heteroptera: Anthocoridae) from West Malaysia. *Zootaxa*, 3847: 292-296.

安永智秀*・山田量崇 (2014.11) カスミカメ類およびハナカメムシ類の和名と学名の整理. *Rostria*, (57) : 25-38.

山田量崇・中西友章* (2014.11) 徳島県でキマダラカメムシを確認. *Rostria*, (57) : 67-68.

☆ Yasunaga, T.*, Yamada, K. & Artchawakom, T.* (2015.1) First Indochinese records of the plant bug genus *Hypseloecus* Reuter (Hemiptera: Heteroptera: Miridae: Phylinae: Pilophorini), with descriptions of eight new species from Thailand. *Zootaxa*, 3925: 75-93.

広渡俊哉*・小林茂樹*・池内健*・長田庸平*・山田量崇 (2015. 3) 剣山系の蛾類(2) - 2010 - 2011年の調査結果 - . 徳島県立博物館研究報告, (25): 25-40.

大原賢二*・山田量崇 (2015. 3) アサギマダラの移動に関する徳島県の記録 (2014年). 徳島県立博物館研究報告, (25): 45-63.

〈一般著述〉

佐藤陽一 (2014. 6) イチョウハクジラ. 徳島県立博物

- 館ニュース (表紙), (95): 1.
- 佐藤陽一 (2014. 8) イチョウハクジラ. 徳島新聞 8月1日夕刊 (こども新聞)
- 佐藤陽一 (2014. 8) ニホンジカ. 徳島新聞 8月15日夕刊 (こども新聞)
- 佐藤陽一 (2014. 12) 毒棘をもつ魚アカザ. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (97): 5.
- 佐藤陽一 (2015. 1) 羊. 徳島新聞 1月16日夕刊 (こども新聞)
- 山田量崇 (2014. 5) 昆虫を食べる. 徳島新聞 5月16日夕刊 (こども新聞).
- 山田量崇 (2014. 6) 生物画を描く. 徳島県立近代美術館編「三嶽伊紗のしごと みているもののむこう」: 8-9.
- 山田量崇 (2014. 6) 陸にすむ貝. 徳島新聞 6月20日夕刊 (こども新聞).
- 山田量崇 (2014. 8) マダニ. 徳島新聞 8月29日夕刊 (こども新聞).
- 山田量崇 (2014. 9) トコジラミー復活の吸血虫-. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (96): 2-3.
- 山田量崇 (2015. 3) 中川 健氏の徳島県産昆虫標本. 徳島県立博物館ニュース (新着資料紹介), (98): 6.

●植物

〈学術的著述〉 (☆: 査読付学術雑誌)

- 小川 誠・久米 修 (2015. 3) 香川県のモウコタンポポ. 徳島県立博物館研究報告, (25): 41-44.
- ☆ Yook, M. J.*, Lim, S. H.*, Song, J. S.*, Kim, J. W.*, Zhang, C. J.*, Lee, E. J.*, Ibaragi, Y., Lee, G. J.*, Nah, G.*, & Kim, D. S.* (2014. 6) Assessment of genetic diversity of Korean *Miscanthus* using morphological traits and SSR markers. *Biomass and Bioenergy* 6, 6: 81-92.
- ☆ Ikeda, H.*, Shimizu, A.*, Ogawa, M., Ibaragi, Y. & Akiyama, S.* (2014. 6) Lectotypification of *Glaziocharis abei* (Burmanniaceae), *J. Jpn. Bot.*, 89 (3): 176-180.
- ☆ 首藤光太郎*・茨木 靖・中村喜代治*・木下 覺*・根本秀一*・小川 誠・黒沢高秀* (2014. 9) 四国新産のヒトツバイチヤクソウ (ツツジ科イチヤクソウ連). *分類*, 14 (2): 177-180.
- ☆ Ibaragi, Y. & Yonekura, K.* (2015. 2) A New Combination for Japanese *Leptatherum* (Poaceae). *J. Jpn. Bot.*, 90 (1): 66-72.
- 木下 覺*・成田愛治*・茨木 靖・小松研一*・植北ちず子*・谷川光秋* (2015. 3) 旧阿南市の植物. *阿波学会紀要*, (60): 27-38.
- 茨木 靖 (2015. 3) 徳島県産クジュウノガリヤ

ス *Calamagrostis × microtis* (Ohwi) Ohwi (イネ科) についての雑記. 徳島県立博物館研究報告, (25): 83-86.

〈一般著述〉

- 小川 誠 (2014. 4) 廉価版マイクロデジタルスコアの比較. *西日本タンポポ調査ニュース*, (2): 1-2.
- 小川 誠 (2014. 4) スマホタブレットでの緯度経度の調べ方. *西日本タンポポ調査ニュース*, (2): 4.
- 小川 誠 (2014. 4) モウコタンポポに注意してください. *西日本タンポポ調査ニュース*, (2): 4-5.
- 小川 誠 (2014. 6) ウォッチが使えなくなります. *西日本タンポポ調査ニュース*, (3): 3.
- 小川 誠 (2014. 6) 調査用紙のゆくえ. *西日本タンポポ調査ニュース*, (3): 4-5.
- 小川 誠 (2014. 12) 山里に群生して咲くタンポポ. 徳島県立博物館ニュース (野外博物館), (97): 6.
- 小川 誠 (2014. 12) おもしろい阿波の植物: 徳島県のタンポポ; 徳島県の溪流沿い植物. *阿波学会 60周年記念誌編集委員会編「発見! 徳島の自然と文化 トクシマシタツ! 阿波学会」*, 阿波学会 60周年記念誌刊行委員会: 38, 39, 42.
- 小川 誠 (2015. 3) 矢原徹一他監修「絶滅危惧植物図鑑 レッドデータプランツ 増補改訂新版」, 山と溪谷社 (分担執筆).
- 小川 誠 (2015. 3) 謎の多い四国の在来タンポポ. 徳島新聞 3月20日夕刊 (こども新聞).
- 茨木 靖 (2014. 9) 海岸で土器が拾えるってほんとですか!?. 徳島県立博物館ニュース (Q & A), (96): 7.
- 茨木 靖 (2014. 12) 徳島県のイネ科植物: 徳島県の湿性植物: 徳島県の外来植物. *阿波学会 60周年記念誌編集委員会編「発見! 徳島の自然と文化 トクシマシタツ! 阿波学会」*, 阿波学会 60周年記念誌刊行委員会: 40, 41, 43.
- 茨木 靖 (2015. 1) ヤツマタ~祖谷に伝わるとってもおいしい&珍しい穀物~. 徳島新聞 1月30日夕刊 (こども新聞)
- 茨木 靖 (2015. 3) 矢原徹一他監修「絶滅危惧植物図鑑 レッドデータプランツ 増補改訂新版」, 山と溪谷社 (分担執筆).

●地学

〈学術的著述〉 (☆: 査読付学術雑誌)

- 西山賢一*・中尾賢一・若槻 強* (2014.3) 熊本県南阿蘇村に伝わる江戸時代中期の土砂災害の伝承と自治会による防災活動への利用: 徳島大学環境防災研究センター年報, (10): 49-53.

原 英俊*・辻野泰之 (2014. 9) 北川地域の地質, 第4章 ペルム系浅海成層, 地域地質研究報告 (5万分の1地質図). 産総研地質調査総合センター: 10-12.

辻野泰之・原 英俊* (2014. 9) 北川地域の地質, 第5章 三畳系浅海成層, 地域地質研究報告 (5万分の1地質図). 産総研地質調査総合センター: 13-18.

原 英俊*・辻野泰之 (2014. 9) 北川地域の地質, 第6章 ジュラ系浅海成層, 三畳系浅海成層, 地域地質研究報告 (5万分の1地質図). 産総研地質調査総合センター: 19-20.

石田啓祐*・早瀬隆人*・中尾賢一・東明省三* (2014. 10) 日本の歴史的な重要建造物における徳島県阿南市産大理石の使用とその意義. 徳島大学地域科学研究, 4: 1-10.

西山賢一*・阿部 肇*・辻野泰之・中尾賢一・石田啓祐*・橋本寿夫*・森江孝志* (2015. 3) 阿南市の地質と地形 - 伊島・津乃峰の地質・地形と金属鉱山に関する調査. 阿波学会紀要, (60): 1-13.

石田啓祐*・鈴木茂之*・山下真司*・辻野泰之・中尾賢一・西山賢一*・橋本寿夫*・森江孝志* (2015.3) 阿南市麻石海岸のメラングを構成する付加堆積物と海底地すべり堆積物. 阿波学会紀要, (60): 187-194.

☆ Hashimoto, H.*, Ishida, K.*, Yamasaki, T.*, Tsujino, Y. & Kozai, T.* (2015.3) Revised radiolarian zonation of the Upper Cretaceous Izumi inter-arc basin (SW Japan). *Revue de Micropaléontologie*, 58: 29-50.

〈一般著述〉

中尾賢一 (2014. 4) 九州有明の珍しい食材～わけ～. 徳島新聞 4月18日夕刊 (こども新聞).

中尾賢一 (2014. 6) ウミタケとその化石. 徳島県立博物館ニュース (野外博物館), (95): 6.

中尾賢一 (2014. 6) 観察すること. 徳島県立近代美術館編「三嶽伊紗のしごと みているもののむこう」: 16-17.

中尾賢一 (2014. 12) 国会議事堂に使われている県産石材: 国会議事堂に使われた石材の産地; 鳴門海峡海底の化石. 阿波学会60周年記念誌編集委員会編「発見! 徳島の自然と文化 トクシマシタツ! 阿波学会」, 阿波学会60周年記念誌刊行委員会: 8, 9, 21.

中尾賢一 (2015. 3) 徳島にも厚い火山灰層があると聞いたのですが, いつ, どこから降ってきたのですか?. 徳島県立博物館ニュース (Q&A), (98): 7.

辻野泰之 (2014. 6) 昨年発表された那賀町で見つかったアンモナイトは, 学術的にどのような点が, すごいのですか?. 徳島県立博物館ニュース (Q&A), (95): 7.

辻野泰之 (2014. 11) 魚竜. 徳島新聞 11月21日夕刊 (こども新聞).

辻野泰之 (2014. 12) 坂州の不整合: 那賀町産の約2億3400万年前のアンモナイト; 美馬町の白亜紀の地層と化石. 阿波学会60周年記念誌編集委員会編「発見! 徳島の自然と文化 トクシマシタツ! 阿波学会」, 阿波学会60周年記念誌刊行委員会: 12, 13, 18.

辻野泰之 (2015.3) 南ドイツのジュラ紀の化石産地. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (98): 7.

●考古

〈一般著述〉

高島芳弘 (2014. 9) 鈕にシカの描かれた銅鐸 伝 榎瀬銅鐸 (複製品). 徳島県立博物館ニュース (館蔵品紹介), (96): 6.

高島芳弘 (2014. 10) 蔵骨器. 徳島新聞10月3日夕刊 (こども新聞).

岡本治代 (2014. 4) 徳島の屋根瓦. 徳島新聞 4月14日夕刊 (こども新聞).

岡本治代 (2014. 5) 木簡から見る古代の食生活. 徳島新聞 5月30日夕刊 (こども新聞).

岡本治代 (2014. 12) トピックコーナーで展示した土器の年代はどうやって決めたのですか?. 徳島県立博物館ニュース (Q&A), (97): 7.

岡本治代 (2015. 3) 鬼面文鬼瓦. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (98): 1.

●歴史

〈学術的著述〉

長谷川賢二 (2014. 3) 公立博物館の成果と課題を探る利用者調査の試み—徳島県立博物館における取り組み—. 歴史学と博物館のあり方を考える会編「歴史学と博物館のあり方を考える会創立二〇周年記念誌現場から2」歴史学と博物館のあり方を考える会: 20-33.

松永友和 (2015. 2) 天保改革期大坂の人足寄場; 大坂代官所の天王寺村牢屋敷. 寺木伸明・藪田貫編「近世大坂と被差別民社会」, 清文堂出版: 292-324, 401-405.

松永友和 (2015. 3) 資料紹介 阿波国那賀郡富岡町吹田家文書について—吹田家本陣関係文書の紹介と翻刻—. 徳島県立博物館研究報告, (25): 67-80.

徳野 隆*・宇山孝人*・大柴せつ子*・金原祐樹*・須藤茂樹*・高田恵二*・田中裕子*・町田 哲*・宮本和宏*・松永友和・高田美穂*・伊丹啓人*・花

原慧史*・堀井貴史* (2015. 3) 阿南市における文書調査. 阿波学会紀要, (60) : 139-146.

〈一般著述〉

長谷川賢二 (2014. 3) 歴博会の刺激と四国のネットワーク. 歴史学と博物館のあり方を考える会編「歴史学と博物館のあり方を考える会創立二〇周年記念誌 現場から2」歴史学と博物館のあり方を考える会 : 87-88.

長谷川賢二 (2014. 8) サマーセミナーと修験道史研究. 日本宗教史懇話会編「日本宗教史研究の軌跡と展望」, 岩田書院 : 132-135.

長谷川賢二 (2014. 9) 四国霊場の弘法大師坐像. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (96) : 1.

長谷川賢二 (2014. 10) 四国霊場開創 1200 年記念 四国連携事業 空海の足音 四国へんろ展④徳島編. へんろ, (367) : 5.

長谷川賢二 (2014. 10) 空海. 徳島新聞10月31日夕刊 (こども新聞).

長谷川賢二 (2014. 11) 四国遍路の始まり. 徳島新聞 11月7日夕刊 (こども新聞).

長谷川賢二 (2014. 12) 高越寺; 種野山. 阿波学会60周年記念誌編集委員会編「発見! 徳島の自然と文化 トクシマシタッ! 阿波学会」, 阿波学会60周年記念誌刊行委員会 : 137, 138.

長谷川賢二 (2015. 3) 展示解説: 四国霊場開創一二〇〇年記念四国連携事業「空海の足音 四国へんろ展 徳島編」. 高校地歴, (51) : 77-80.

松永友和 (2014. 6) 阿波藍商人が建てた熊本・本妙寺の常夜燈. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (95) : 5.

松永友和 (2014. 7) 藩札. 徳島新聞 7月4日夕刊 (こども新聞)

松永友和 (2014. 8) 大塩家のルーツ 脇町を訪ねて. 大塩研究, (71) : 87-93.

松永友和 (2014. 12) 300年前の巨大地震を伝える. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (97) : 1.

松永友和 (2014. 12) 那賀郡富岡町吹田家文書. 徳島県立博物館ニュース (館蔵品紹介), (97) : 1.

松永友和 (2014. 12) 全国水平社. 徳島新聞12月5日夕刊 (こども新聞).

●民俗

〈学術的著述〉

庄武憲子 (2014. 9) 徳島県の盆棚. 四国民俗, (46) : 13-53.

庄武憲子 (2015. 3) II章2各地に遺る「箱廻し」の動向 (1) 岡山県住吉座 (2) 兵庫県豊岡市久斗文楽; III章2四国における「三番叟まわし」「えびすまわし」

の追加情報; V章2県内に残る「三番叟まわし」「えびすまわし」「箱廻し」関連資料 (2) 徳島県立博物館; V章5人形芝居・映画演劇検閲書類. 「2014年度「阿波木偶箱まわし」伝承推進事業報告書—さらなる伝承に向けて—」, 「阿波木偶箱まわし」伝承推進実行委員会 : 43-73, 77-83, 203-235, 263-267.

磯本宏紀 (2014. 10) 徳島県南部地域の博物館・資料館等所蔵の唐箕. 民具集積, (17) : 26-38.

磯本宏紀 (2015. 3) 徳島県牟岐町出羽島の遠洋漁業—カツオ・マグロ漁の聞き書きを中心に—. 徳島地域文化研究, (13) : 48-53.

磯本宏紀 (2015. 3) 阿南市椿泊の出稼ぎ漁と以西底曳網漁業. 阿波学会紀要, (60) : 147-150.

〈一般著述〉

庄武憲子 (2014. 9) 祖谷のジャガイモ. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (96) : 5.

庄武憲子 (2014. 12) 盆棚. 阿波学会 60周年記念誌編集委員会編「発見! 徳島の自然と文化 トクシマシタッ! 阿波学会」, 阿波学会 60周年記念誌刊行委員会 : 141.

庄武憲子 (2015. 2) 「阿波木偶箱まわし」報告会. 徳島新聞 2月6日朝刊.

庄武憲子 (2015. 3) 新刊紹介「日和佐の百科事典」. 徳島地域文化研究, (13) : 179-180.

磯本宏紀 (2014. 5) 学校給食の歴史. 徳島新聞 5月2日夕刊 (こども新聞).

磯本宏紀 (2014. 6) 食品容器として大活躍の桶と樽. 徳島新聞 6月6日夕刊 (こども新聞).

磯本宏紀 (2014. 9) 魔よけのお守り. 徳島新聞 9月19日夕刊 (こども新聞).

磯本宏紀 (2014.12) 改良唐箕「島本式唐箕」. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (97) : 2-3.

磯本宏紀 (2014.12) 漁民の移動. 民俗学事典編集委員会編「民俗学事典」, 丸善出版 : 362-363.

磯本宏紀 (2014.12) 農具市; からさお. 阿波学会60周年記念誌編集委員会編「発見! 徳島の自然と文化 トクシマシタッ! 阿波学会」, 阿波学会 60周年記念誌刊行委員会 : 142, 143.

磯本宏紀 (2015. 1) 阿波の年中行事1: 左義長. 徳島新聞 1月1日朝刊.

磯本宏紀 (2015. 3) 太布織り. 徳島新聞 3月6日夕刊 (こども新聞).

磯本宏紀 (2015. 3) 新刊紹介 湯浅安夫著「阿波に於ける便所(トイレ)の変遷」. 徳島地域文化研究, (13) : 181-182.

磯本宏紀 (2015. 3) 「月遅れ」って何?—暦と行事—. 福田アジオ責任編集「知って役立つ民俗学—現代社

会への40の扉―」, ミネルヴァ書房:190-195.

●美術工芸

〈一般著述〉

大橋俊雄 (2014. 4) 藩絵師矢野栄教一画名のうつりかわり―. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (95): 2-3.

大橋俊雄 (2014. 12) 絵を描くお姫さま. 徳島新聞12月19日夕刊 (こども新聞).

大橋俊雄 (2015. 3) 狩野典信筆 柚折枝図粉本. 徳島県立博物館ニュース (館蔵品紹介), (98): 5.

(3) 学会・研究会等での発表

(*印: 館外研究者)

●動物

田代優秋*・佐藤陽一・上月康則* (2014. 11) カダヤシの放流実態と試行的対策: 徳島県を中心として. 2014年度日本魚類学会シンポジウム「日本の外来魚問題の現状を考える: 外来生物法制定から10年で何が変わったのか?」(小田原).

氏部崇之*・清水孝昭*・田代優秋*・佐藤陽一・高木基裕* (2015. 3) 桑野川のオヤニラミ在来個体群の遺伝的管理. 第42回四国魚類研究会 (美波)

Yamada, K. (2014. 7) Taxonomy of Anthocoridae from Southeast Asia: current and perspective. 5th Meeting of the International Heteropterist's Society, National Museum of Natural History, Smithsonian Institution, Washington, DC, USA.

山田量崇 (2014. 9) 雌に ectospermalege を欠くハナカメムシ類の外傷性受精. 日本昆虫学会第74回大会 (東広島).

Ballal, C. R.* & Yamada, K. (2014.11) Diversity of Indian Anthocoridae. World Biodiversity Congress, Colombo, Sri Lanka.

●植物

小川 誠 (2014. 9) タンポポ調査・西日本2015について. 四国植物研究会 (徳島).

茨木 靖 (2014. 9) 四国にツクバキンモンソウを求めて. 四国植物研究会 (徳島).

●地学

中尾賢一 (2014. 6) 穴内層産コロモガイ類の未記載種について. 日本古生物学会 2014 年年会夜間小集会 (福岡).

辻野泰之 (2015. 4) 伊島の地質. 阿波学会 - 平成25-26年度総合学術調査中間発表 - (阿南).

Tsujino, Y. & Maeda, H.* (2014. 9) Morphological changes of the genus *Baculites* from the Coniacian to lower Campanian in Japan. 9th International

Symposium Cephalopods-Present and Past, Zürich, Switzerland.

Tsujino, Y. (2014. 9) An attempt to create a 3D digital model database for the type specimens of Cretaceous ammonoid in Japan. 9th International Symposium Cephalopods-Present and Past, Zürich, Switzerland.

辻野泰之 (2015. 1) 古生物タイプ標本の3D デジタルデータベース構築の試み ―日本産白亜紀アンモノイドを例にして―. 日本古生物学会第164回例会(豊橋).

御前明洋*・小松俊文*・熊谷太朗*・荷福 洸*・辻野泰之・前田晴良* (2015. 1) 蝦夷層群産白亜紀後期大型アンモノイド類に付着するベッコウガキ科二枚貝の産状. 日本古生物学会第164回例会 (豊橋).

辻野泰之 (2015. 2) 古生物タイプ標本の3D デジタルデータベース構築の試み ―日本産白亜紀アンモノイドを例にして―. 四国ミュージアム研究会第11回 (高松).

●歴史

長谷川賢二 (2014. 6) 修験道・山伏・寺院. 鳴門史学会例会 (鳴門).

長谷川賢二 (2014. 7) 中世の写経に見る「地域」. 科研「四国遍路の学際的総合研究」研究会 (松山).

松永友和 (2014. 6) 鴻池新田会所日記からみる大坂代官 万年長十郎. 鴻池新田会所日記研究会 (東大阪).

●民俗

庄武憲子 (2014. 9) 民俗の領域―徳島県内の民俗の地域性と地域差. 四国民俗学会 (徳島).

庄武憲子 (2015. 2) 「阿波木偶箱まわし」伝承推進事業調査報告. 「阿波木偶箱まわし」伝承推進事業報告会 (徳島).

磯本宏紀 (2014. 10) 現代移住漁民の出漁地における定住をめぐる一長崎, 福岡における二艘曳底曳網漁船船員の事例―. 日本民俗学会年会 (滝沢).

磯本宏紀 (2014. 11) 徳島県旧木沢村のカラサオから地域情報をよみとる. 日本民具学会大会シンポジウム「民具で地域を再発見! ―集められた民具が語る歴史・文化・人―」パネル報告 (香美).

IV 資料の収集・保存と活用

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来、次の4つを基本方針として資料を収集している。

- (1) 徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。
- (2) 地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。
- (3) 徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。
- (4) 一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集の対象とする。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換など様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、最近では、県民や官公庁からの資料の寄贈も増えてきている。

収集した資料は、調査研究、展示、普及教育活動、他の博物館や研究者への貸し出しなどを通じて有効に活用している。

平成26年度は3人（人文1、自然2）の文化推進員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

1. 採集資料

- 動物（脊椎動物）
 - 鮎喰川産魚類 4点
 - ニホンイタチ 1点
- 動物（無脊椎動物）
 - 県産クモ類 多数
- 動物（昆虫）
 - 徳島県産半翅類 多数
 - 日本産水生半翅類 多数
- 植物
 - 県内各地の標本 多数
- 地学
 - 穴内層産貝化石 多数
 - 屋久島産岩石・鉱物標本 5点
 - 仙台市産タカハシホタテ 2点
 - プラビトセラス顎器 1点
 - 北有馬層産貝化石 多数
 - 口之津層群火砕流堆積物 1点

2. 購入資料

- 美術工芸
 - 矢野典博筆 相撲始終之図絵巻 1点
 - 矢野典博筆 三河万歳図 1点
 - 吉成葭亭筆 春夏秋冬ノ図 5点
 - 吉成葭亭筆 鷹図 1点
 - 渡辺広輝筆 東下り図 1点
- 購入資料合計 9点



矢野典博筆 三河万歳図

3. 寄贈資料

- 動物（脊椎動物）
 - 勝浦川河口環境調査魚類標本 一式
徳島県県土整備部東部整備局（徳島）
 - アゴヒゲアザラシ他画像（CD） 1点 杉本 福氏
 - ドンコ 1点 三好康彦氏
 - アオダイショウ（幼蛇） 1点
文化の森保安センター
 - カワラヒワ 1点
文化の森保安センター
 - オオタカ風切羽 1点 伊藤 学氏
 - ハクセキレイ 1点
文化の森保安センター
 - アオバト 1点 平井 滋氏

38 資料の収集・保存と活用

キツネ 1点 一宮神社
 哺乳類頭骨 3点 新居正利氏
 タヌキ 1点 田所健太郎氏
 勝浦川河口環境調査魚類標本(夏季)一式
 徳島県県土整備部東部整備局(徳島)
 トラツグミ 1点
 (有)サカイ美装工業
 故愛媛大学名誉教授伊藤猛夫氏文書資料 一式
 佐々木容子氏
 BST いきものパズル 2点
 生物多様性とくしま会議
 イノシシ 1点 池光正幸氏
 阿部永氏北海道大学哺乳類文献資料 2点 阿部 永氏
 鳥類仮剥製 3点 新居正利氏
 ムクドリ 1点 春川 登氏
 アナグマ 1点 井口光二氏
 愛媛県岩松川産魚類標本 一式 辻 幸一氏

●動物(無脊椎動物)

トゲカイエビ・ハウネンエビ 2点 後藤英与氏
 ウミタケ・イシワケイソギンチャク・ミドリシャミ 3点 中尾賢一氏
 センガイ 1点 和田 望氏
 コガネグモ 1点 和田 望氏
 ヒメカラスハエトリ 1点 和田 望氏
 コガネグモ・アダンソソハエトリ 2点 和田 望氏
 クモ類 3点 和田 望氏
 フクロムシ類 1点 鳥海喜三郎氏
 クリイロカメガイ 8点 河野 光氏
 勝浦川河口ベントス(定生生物)標本 一式
 徳島県東部県土整備局・フジタ建設コンサルタント
 ノコハオサガニ 1点
 ニタコンサルタント

●動物(昆虫)

モンキタマムシ 6点 大原賢二氏
 キマダラカメムシ 1点 中西友章氏
 ヒラズゲンセイ 1点 前田勝重氏
 ヒラズゲンセイ 3点 川口鉄工所
 ヒラズゲンセイ 1点 角田魅星氏
 ヒゲコガネ 1点 高島芳弘氏
 トンボ類 3点 和田 望氏
 中川健氏徳島県産昆虫標本・文献 11885点
 中川トミ子氏・敬氏

●植物

さく葉標本 192点
 オレゴン州立大学(OSC)

さく葉標本 5点 竹内一恵氏
 さく葉標本 1点 岡部千春氏
 さく葉標本 98点
 高知県立牧野植物園(MBK)
 さく葉標本 1点
 西部総合県民局三好支局 南利夫氏
 さく葉標本 多数 佐賀康男氏
 さく葉標本 200点 東北大学(TUS)
 さく葉標本 71点
 北海道大学(SAPS)

●地学

高知県・愛媛県産鉱物 3点 阿部 肇氏
 鳴門海峡海底産化石 4点 八木忠弘氏
 高越高山産鉱石標本 1点 阿部 肇氏
 愛媛県・高越山産鉱物 4点 阿部 肇氏
 異常巻きアンモナイト 1点 富士久美子氏
 北海道産新生代化石 3点 平島 昭氏
 高越地域産鉱物標本 3点 阿部 肇氏
 新居浜市肉淵谷産鉱物 2点 阿部 肇氏
 燃鳥貝層産トウキョウホタテ 1点 下山正一氏
 プラビトセラス顎器 1点 奥平耕右氏
 徳島周辺および北海道産化石 10点 平島 昭氏
 中国・熱河層群産の化石 8点 日本学術振興会
 海外産の化石およびレプリカ 9点
 科学技術振興機構(JST)
 宿毛市産トウキョウホタテ 1点
 三本健二氏(中島 礼氏を經由)
 鳴門海峡海底産化石 4点 八木忠弘氏
 眉山産ルチルほか 2点 阿部 肇氏
 降下火山灰 1点 中尾久澄氏
 アメリカ・ユタ州産化石ほか 6点 岩田 紀氏
 北海道産ほか化石標本 多数 平島 昭氏
 三波川変成岩 4点 阿部 肇氏
 西条市市ノ川産岩石・鉱物 2点 阿部 肇氏

●歴史
 巡礼関係資料 330点 盛 稔治氏
 廣田家資料 16点 廣田正則氏
 藍玉売附帳 2点 平野雅己氏
 徳島藩札 元文一匁銀札ほか 19点 三谷展子氏

●民俗
 四国八十八ヶ所巡拝資料ほか 11点 竹田千代美氏

納札箱ほか	55点	熊谷祐信氏
雙貴大明神関係資料ほか	35点	尾形明彦氏
美波町赤松初盆行事プリント写真	10点	栗作幸晴氏
四国霊蹟写真大観	1点	藤本良輔氏
武者人形	1点	西條敏夫氏
総車ほか	5点	川人美洋子氏
給食用食器（椀、平皿）	75点	徳島市沖洲小学校
膳、椀、信仰関係資料等	96点	西川浩司氏
西浜造船所関係写真	7点	野田良子氏

		徳島県立近代美術館
和泉層群産ゾレノセラス属アンモナイト	9点	重田康成氏（国立科学博物館）
厚歯二枚貝の化石など	5点	天草市立御所浦白亜紀資料館
トウキョウホタテ（鹿児島県新島産）	1点	中島 礼氏（産業技術総合研究所）
和泉層群産ノストセラス科アンモナイト	8点	重田康成氏（国立科学博物館）
勝浦産ベレムナイト類化石	4点	伊庭靖弘氏（北海道大学理学部）

4. 寄託資料

平成26年度末現在で寄託されている資料は69件あり、26年度に新たに寄託された資料は、次の通りである。

●考古

古伊万里錦平鉢 1点 仁木精一氏

●歴史

武林翰 1点 西野武明氏

5. 資料の貸し出し

実物やレプリカ、模型など資料の貸し出しは次の通りである。なお、学校への資料の貸し出しは「学校教育支援事業」に記載した（詳細はp.25-26参照）。

●動物

水質測定機器 2点 海陽町立博物館

森井コレクション・コウモリ標本 5点

みんなでつくる自然史博物館・香川

イシドジョウ 2点 中島 淳氏

リュウキュウヨロイアジ 2点 木村清志氏

日本産カミキリムシ科標本（酒井コレクション）

115点 李 峰雨氏（韓国国立樹木園）

徳島県産ヒメコバチ科標本 225点

金 一權氏（韓国国立樹木園）

カメムシ形態図・標本 17点

徳島県立近代美術館

●植物

ハネフクベ果実標本 1点

藤井俊夫氏（兵庫県立人と自然の博物館）

●地学

フィールドノート・アワジチヒロ・ハッキガイ 7点

●考古

ぬか塚古墳出土馬具ほか 6点

徳島市立考古資料館

前山遺跡出土埴輪ほか 14点

小松島市教育委員会

畑田銅鐸（複製）ほか 7点

海陽町立博物館

廿枝遺跡出土石器 3点

海陽町立博物館

●歴史

吹田家家紋入り膳・椀 1式 徳島県立文書館

徳島空襲被災遺物ほか 3点 徳島県立文書館

廻り手形 1点 愛媛県美術館

高松藩行列絵巻 1点

徳島市立徳島城博物館

三木家文書 3点

NHK 徳島放送局

徳島空襲被災遺物ほか 4点 徳島県立文書館

●民俗

六分儀 1点

NHK プラネット四国支社

●美術工芸

村瀬魚親筆 みとものつら絵巻 月巻 1点

徳島市立徳島城博物館

鈴木芙蓉筆 鍾馗図ほか 7点

徳島市立徳島城博物館

6. 写真・映像の提供

フィルムなど媒体の貸し出し及びデジタルデータの提供は、次の通りである。

●動物

ニホンオオカミ写真 1点 徳島新聞社

桑野川画像 1点 阿南市環境保全課

アツブタムシオイ・ハリマムシオイ・アワムシオイ

標本写真 11点 矢野重文氏

●植物

電子顕微鏡写真 7点 徳島新聞社

●地学

岩石・鉱物標本写真 5点 株式会社童夢
 チタノサウルスの写真 1点
 モーニング CROSS
 シレニテス（アンモナイト）関連写真 3点
 株式会社時事通信社
 メガテリウム全身骨格写真 1点 (有)ハユマ
 ティラノサウルス骨格写真 1点 新日本出版社

●考古

田村谷銅鐸ほか写真 10点 海陽町立博物館
 愛宕山古墳出土銅鏃ほか写真
 2点 青木寛倫氏
 田村谷銅鐸写真 1点
 徳島県教育委員会教育文化政策課
 廿枝遺跡出土ナイフ形石器ほか写真 15点
 海陽町立博物館

●歴史

青い目の人形アリスほか写真
 4点 徳島県遺族会
 徳島城御殿鷺之間棟札写真
 1点 株式会社碧水社
 七十一番職人歌合写真（大原女） 1点
 学校法人河合塾
 弘法大師由来写真 18点 寺内 浩氏
 阿波名所図会写真 1点
 歴史・文化道推進協議会
 空襲後の徳島市街地写真 1点 教育出版株式会社
 「解放令」布達文書写真 1点
 徳島県中学校人権教育研究会
 三好長慶錦絵写真 1点
 株式会社P H P 研究所
 七十一番職人歌合写真（大原女・鍛冶・番匠） 3点
 学校法人河合塾
 三好長慶錦絵写真 1点 大東市

●民俗

産着写真 1点
 株式会社メディコム
 結納熨斗写真 1点
 桑野ふるさと研究会
 四国徧礼霊場記写真 4点
 株式会社イースト・エンタテイメント
 四国徧礼霊場記写真 1点
 株式会社スタジオポルト
 蘆雁蒔絵見台写真ほか 2点
 四電ビジネス株式会社広告部
 絵はがき（阿波剣山ほか） 5点
 徳島県西部総合県民局

牟岐町出羽島関係写真データ 1581点 増井正哉氏
 荒テグス写真 1点 和歌山県立文書館
 テグス船写真 1点 丸善出版株式会社
 以西底曳網漁業写真 1点 有限会社大悠社

●美術工芸

大熊氏廣作 守住貫魚像（守住家資料）写真
 1点 田中修二氏
 柴野栗山像写（守住家資料）写真
 1点 太田 剛氏
 須木一胤筆 旧徳島城図写真
 1点 敬台寺
 守住貫魚筆 古甲図写真 1点
 小松島市教育委員会

7. 資料の提供

さく葉標本 138点 オレゴン州立大学（OSC）
 さく葉標本 113点 北海道大学（SAPS）
 さく葉標本 95点 福島大学（FUKU）
 さく葉標本 156点 東北大学（TUS）
 さく葉標本 91点 福井県立総合植物園（FUK）
 さく葉標本 125点 ソウル大学（SNUA）
 さく葉標本 61点
 神奈川県立生命の星・地球博物館（KPM）
 さく葉標本 76点 ベネズエラ国立標本館（VEN）
 さく葉標本 58点
 パプアニューギニア国立標本館（LAE）

8. 資料の交換

研究や展示、普及など様々な活動に活用するため、国内外の標本館と標本交換を行っている。標本交換とは、徳島県内などで採集した標本を、他の地域の大学・博物館などとの間で交換することである。

植物標本について、現在、東北大学、北海道大学、福島大学など国内の研究機関の他、オレゴン州立大学及びソウル大学と定期的な標本交換を行っている（「3. 寄贈資料」及び「7. 資料の提供」参照）。

●分野別収蔵資料数（平成27年3月31日現在）

分野	点数	内 訳			
		実物	レプリカ	模型・模写	文献
動物（脊椎）	24,946	24,872	55	13	6
（無脊椎）	39,304	39,238	0	58	8
（昆虫）	203,018	201,685	0	7	1,326
植 物	194,141	193,790	282	61	8
地 学	9,652	9,544	106	2	0
考 古	7,292	7,147	73	13	59
歴 史	12,606	11,818	26	4	758
民 俗	16,418	16,408	5	5	0
美術工芸	9,836	9,827	0	4	5
合 計	517,213	514,329	547	167	2,170

9. 館蔵資料数

平成27年3月31日現在の分野別収蔵資料数は、上表の通りである。

収蔵資料については、整理、標本作製等が終わったものから順次コンピュータ入力し、資料データベースに登録している。

10. 資料収集委員会

本委員会は、博物館が収蔵する資料の適正な購入を図るため、購入予定資料（予定価格100万円以上）について審査する目的で設置されている。委員は、対象となる資料に応じてその都度5名以内を教育長が委嘱する。

平成26年度は、委員会は開催していない。

11. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究はもちろん、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌の他、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。

●図書冊数（データベース登録数による）

13,655冊（うち平成26年度分 寄贈図書42冊、購入図書88冊）

●購入雑誌

自然史系（12タイトル）：生物科学、科学、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌、Cladistics, Systematic Botany, Journal of Paleontology, Lethaia

人文系（26タイトル）：美術研究、美術史、佛教芸術、地方史研究、地理、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、古代文化、古代学研究、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、九州考古学、文化人類学、日本歴史、歴史学研究、歴史評論、歴史と地理、史林、史学雑誌、民具研究、人文地理

博物館学（2タイトル）：博物館研究、ミューゼ

●当館刊行物の定期発送先（平成27年3月末現在）

博物館ニュース	1,183ヶ所
博物館年報	326ヶ所
研究報告（国内）	389ヶ所
（国外）	73ヶ所
展示解説	97ヶ所
企画展図録（自然）	119ヶ所
（人文）	200ヶ所

12. 資料の保存

(1) 資料の燻蒸

害虫やカビは、資料を劣化させる原因となる。そこで、収集した資料や貸し出し後返却された資料は、収蔵庫への搬入や展示に先だって、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。当館では、資料の形態や量などによって、次の①～③の3種類の燻蒸を行ってきた。

①減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れの都度、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、縦 130cm × 横 120cm × 奥行 140cm (約 2.3 m³) である。平成 17 年 1 月からは酸化エチレン製剤を使用している。

26 年度は、減圧燻蒸装置による燻蒸を行わなかった。

②常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫 (24 時間温湿度管理) に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫において燻蒸を行う。

常圧燻蒸庫は床面積 20m² × 高さ 3m (約 60m³) であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託している。17 年 1 月からは酸化エチレン製剤を使用している。

26 年度は、常圧燻蒸庫での燻蒸を 2 回行った。

③収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにもとまって、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのため、原則として 3 年に 1 回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。

26 年度は 9 月 14 ~ 20 日の間、生物収蔵庫、歴史民俗収蔵庫 (特別収蔵庫 1・2、馴化室を含む) において、酸化エチレン製剤の燻蒸剤を使用した全室密閉燻蒸を行った。次回の実施は 29 年度の予定である。

また、27 年度には考古収蔵庫、地学収蔵庫において燻蒸を予定している。

(2) 常設展示室における害虫の発生と対策

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間ではないため、害虫の侵入を防ぐことができず、また、展示室全体の燻蒸が不可能である。実際これまでも、害虫の発生が確認されている。最近では、23 年度に部門展示室のケース内の一部で、害虫の発生が確認された。

害虫への対策として、26 年度は、トラップならびに殺虫剤の設置、巡回のマニュアル化を行った。引き続き経過を観察するとともに、定期的な常設展示室の巡回を行う予定である。

(3) 収蔵庫の点検と耐震化

収蔵庫を日常的に点検することは、燻蒸とともに資料の安全な保存管理のひとつである。それにより、害虫の発生や侵入を事前に防除あるいは早期に発見できるだけでなく、収蔵スペースの確保、耐震対策にもつながり、収蔵庫の適正な管理が可能となる。26 年度も収蔵庫定期点検表に基づいた各収蔵庫の点検を行った。点検項目は 15 個からなり、月に 1 回程度実施した。

また、24 年度から収蔵庫の耐震化について検討を進めており、26 年度は生物収蔵庫の棚の一部において、落下防止の耐震ベルトを設置した。27 年度以降、他の収蔵庫においても順次設置していく予定である。



収蔵庫密閉燻蒸の様子



収蔵庫の耐震化

V 情報の発信と公開

博物館を有効に活用する利用が増えるよう、活動に関する様々な情報を発信していくことは、博物館にとって非常に重要な活動である。近年は、インターネットによる情報発信が重要な手段になっている。

博物館の事業の広報に留まらず、様々なメディアを通じて積極的に情報を発信するよう努めている。

1. 博物館の広報活動

博物館ニュース、企画展ポスター、年間催し物案内、月間催し物案内等の定期的発行と配布、県庁だよりへの掲載、県庁記者クラブを通じての資料提供、催し物案内の電子メールサービス等により、博物館事業の広報活動を行っている。

●博物館ニュース、ポスター等の主な定期発送先

小学校	188ヶ所
中学校	88
高等学校・その他学校	62
学会・研究所・同好会等	101
県及び県教育委員会各課・機関	54
市町村教育委員会	28
公民館・隣保館	224
市町村及び大学図書館	34
博物館施設等	277
宿泊施設等	33
報道関係機関等	76

●催し物案内の電子メールサービス

登録者 342名（平成27年3月末現在）

●報道機関への資料提供

平成26年度は、次のような資料提供を行った（※月間催し物案内を除く）。

4月18日	キッズ・チャレンジコーナーにおける新規体験キットの設置について
5月6日	博物館イベントボランティアの募集について
5月27日	部門展示「カタツムリ展」の開催について
5月29日	トピックコーナー「マッチ箱コレクション」の開催について
6月26日	企画展「まんまるワールド」及び内覧会

の開催について

7月24日	部門展示「100均☆自然史グッズ『観察』『採集』『標本』『工作』」の開催について
8月22日	トピックコーナー「浜辺に揺りあがる焼き物たち」の開催について
8月22日	部門展示「四国南東部の地形と地質」の開催について
10月10日	企画展「空海の足音 四国へんろ展〔徳島編〕」開展式及び内覧会について
10月24日	トピックコーナー「那賀川上流域の三畳紀化石」の開催について
11月20日	部門展示「徳島水平社創立90周年記念 部落問題に向きあった人びと」の開催について
1月20日	部門展示「藩絵師のすがお」の開催について
1月20日	「みんなで創るユニバーサルミュージアム」発表会の開催について
3月5日	「みんなで調べる徳島県のタンポポ」の実施について
3月24日	部門展示「ミャンマーの植物」の開催について
3月31日	企画展「瓦から見る古代の阿波」の開催について

●文化の森橋への横断幕の設置

企画展・特別陳列の広報として、県に都市公園占用許可申請を行い、企画展・特別陳列の期間中、文化の森橋に横断幕を設置した。

2. テレビ・ラジオへの出演等

博物館事業の広報を目的としたテレビ・ラジオへの出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

4月25日	磯本宏紀 四国放送テレビ「フォーカス 徳島」（企画展「いただきます〜す！」の学校給食コーナーについて）
5月2日	磯本宏紀 NHK 徳島放送局「とく6 徳島」（企画展「いただきます〜す！」について）
5月8日	磯本宏紀 四国放送テレビ「ゴジカ

- ル」(企画展「いただきま〜す!」及びTANTO 学校給食風メニューについて)
- 5月16日 磯本宏紀 四国放送ラジオ「えんやこらワイド」(企画展「いただきま〜す!」について)
- 5月25日 (6月まで再放送) 磯本宏紀 AI テレビ「テレビミュージアム」(企画展「いただきま〜す!」について)
- 5月21日 (22~25日再放送) 磯本宏紀 ケーブルテレビ徳島「らぶ!らぶ!徳島」(企画展「いただきま〜す!」について)
- 6月8日 山田量崇 NHK 徳島放送局(部門展示「カタツムリ展」について)
- 6月13日 山田量崇 四国放送ラジオ「えんやこらワイド」(部門展示「カタツムリ展」について)
- 7月18日 佐藤陽一 NHK 徳島放送局「とく6徳島」(企画展「まんまるワールド—世界と四国の哺乳類—」)
- 7月21日 佐藤陽一 四国放送テレビ「フォーカス徳島」(企画展「まんまるワールド—世界と四国の哺乳類—」)
- 7月23日 佐藤陽一 NHK 徳島放送局「とくしま」(企画展「まんまるワールド—世界と四国の哺乳類—」)
- 7月30日 佐藤陽一 関西テレビ「スーパーニュースアンカー」(企画展「まんまるワールド—世界と四国の哺乳類—」:アゴヒゲアザラシ)
- 8月(放送日不明:夏休み期間中1日5回放送)
佐藤陽一 徳島県南メディアネットワーク(県南てれび)「ニュース きらり夢情報」(企画展「まんまるワールド—世界と四国の哺乳類—」:アゴヒゲアザラシ)
- 10月19日 長谷川賢二 四国放送ラジオ「あわ紳士録」(企画展「空海の足音 四国へんろ展 [徳島編]」について)
- 11月6日 長谷川賢二 NHK 徳島放送局(企画展「空海の足音 四国へんろ展 [徳島編]」について)
- 11月7日 長谷川賢二 NHK 徳島放送局(企画展「空海の足音 四国へんろ展 [徳島編]」について)
- 11月12日 長谷川賢二 NHK 徳島放送局(企画展「空海の足音 四国へんろ展 [徳島編]」について)
- 11月13日 長谷川賢二 NHK 徳島放送局(企画展

「空海の足音 四国へんろ展 [徳島編]」について)

- 11月14日 長谷川賢二 NHK 徳島放送局(企画展「空海の足音 四国へんろ展 [徳島編]」について)

- 11月14日 (15日再放送) 長谷川賢二 AI テレビ「テレビミュージアム」(企画展「空海の足音 四国へんろ展 [徳島編]」について)

- 11月17日 (18~22、24~29日再放送)
長谷川賢二 テレビトクシマ「同行二人~お大師さんと辿る1200年~」(企画展「空海の足音 四国へんろ展 [徳島編]」について)

- 1月28日 大橋俊雄 NHK 徳島放送局(部門展示「藩絵師のすがお」について)

- 3月22日 小川 誠 四国放送ラジオ「土曜ワイド徳島」(タンポポ調査について)

3. インターネットによる情報提供

(1) 電子メール

博物館の月間催し物案内を、事前に登録申請をした希望者に電子メール(以下メールと記す)で送っている(平成27年3月末現在の登録者342名)。

また、ホームページ等を見た人からの質問もメールで寄せられており、各担当より回答を行っている。

(2) ホームページ

A. 概要

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でもその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。11年7月よりホームページ <http://www.museum.comet.go.jp/> を開設した。18年3月からは、ネットワーク回線が徳島県教育情報ネットワークに移管されたため、ホームページは <http://www.museum.tokushima-ed.jp/> に変更された。26年8月には、ホームページの全面的なリニューアルを行い、トップページのメニューボタンの設置など、閲覧者が利用しやすいよう工夫した。

ホームページの内容は下記の通りである。

- ・博物館の紹介(開館日・交通案内など)
- ・展示案内(企画展、特別陳列、部門展示、常設展示)
- ・催し物、普及行事の案内
- ・調査研究活動の紹介
- ・収集保存活動(データベース)
- ・学校等への利用案内

- ・出版物（展示解説、研究報告、博物館ニュース等の案内）
- ・関連活動紹介（友の会、博物館協議会など）
- ・学芸員関連のページ
- ・特別メニュー（子ども向けメニュー、映像コーナー等）

ホームページには内容の全文検索やサイトマップを設置し、閲覧者が目的の内容にたどり着きやすくしている。

資料データベースでは、人文、動物、植物、地学の分野ごとに収蔵資料を検索できるシステムを構築している。資料の詳細情報や動植物の分布図等を公開している。また、当館に収蔵している図書についても、図書データベースを公開している。情報提供する項目のテキストデータ及び画像情報を専用フォルダーに入れておけば、自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

ホームページの更新や追加は、月間催し物案内などは定期的に行っている。それ以外にも、展示担当者、イベントボランティア担当者など、各担当者が随時行っている。26年度の主な追加事項は、下記の通りである。

- ・26年度博物館ボランティアの活動内容（平成26年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」）について
- ・みんなで調べる徳島のタンポポ「タンポポ調査・西日本」の情報について
- ・キッズ・チャレンジコーナーに加えた体験キットの設置について

B. アクセスについて

26年度1年間で、ホームページへの総アクセスが、約890万件あった。25年度は、約680万件であったことから、26年度は総アクセス数が大幅に増加したといえる。

4. 外部ネットワークとの連携

当館では、文部省の補助事業の一つとして、平成12年度及び13年度に環瀬戸内自然史系博物館ネットワーク推進事業に参加し、博物館の横断検索やいきものマップなどの外部とのネットワーク連携事業を行ってきた。

さらに、18年度からは、国立科学博物館が行っている自然系博物館における収蔵品データ整備事業に

●月別のホームページへの総アクセス数と訪問者数

	総訪問者数	総アクセス数
2014年4月	22,618	589,727
2014年5月	28,351	681,947
2014年6月	23,295	816,387
2014年7月	26,471	719,920
2014年8月	30,762	991,095
2014年9月	21,120	652,374
2014年10月	28,889	589,727
2014年11月	24,374	681,947
2014年12月	17,378	816,387
2015年1月	18,233	719,920
2015年2月	16,228	991,095
2015年3月	19,932	652,374
合計	277,651	8,902,900

参加し、さらなる連携を深めている。事業の内容は、全国の科学系博物館のホームページの内容を横断検索するものである。サイエンスミュージアムネット (<http://science-net.kahaku.go.jp/>) を使うことによって、160館以上のホームページを一度に検索することができる。収蔵品データの検索も準備されており、26年度は、当館から徳島県産維管束植物及び昆虫類のデータを整備し提供した。日本語の検索及びGBIF (Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構) のデータとしても横断検索できるようになった。

5. 情報システムの概要

平成23年度に文化の森のシステム更新（第5期システム更新）が行われ、26年度はその運用開始4年目であった。26年度中に行われた主な改善内容は、次の点である。

- ・Windows XPのサポート終了(平成26年4月10日)にともない、今後同OSの端末をネットワークから切り離した使用に限ることとした。

なお、博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の2つに大別できる。次のような構成で第5期システムの運用にあたっている。

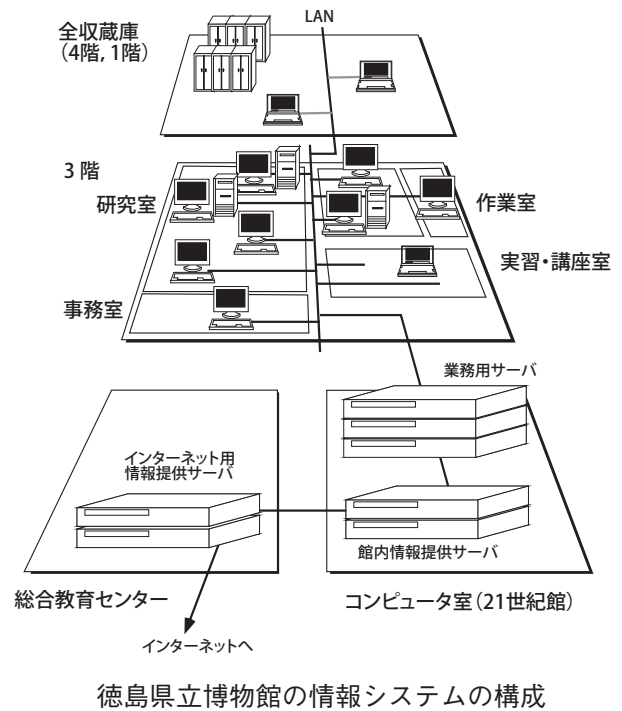
①業務用システム

業務用システムでは、コンピュータ室・研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサネット(1000BaseT)

のLANでつないである。ファイルサーバ（Windowsサーバ 2008 R2）とデータベースサーバ（FileMaker Server 11 Advanced）の2台のサーバを設置してある。サーバのデータは、二十一世紀館に常駐するSE（システムエンジニア）によって毎日バックアップがとられている。職員1人に1台の端末を配置し、データベースやファイルを共有している。これらの端末は、作業の内容に応じた仕様となっており、たとえば収蔵庫では常設の端末ではなく、ノート型パソコンを活用している。

②情報提供用システム

情報提供用としては、Linuxサーバを用いて、WWWサーバと資料データベースを構築している。柔軟なデータベース公開ができるように、MySQLサーバーによるWebデータベースを構築し、博物館資料データベース、図書データベース及び新聞記事データベースを、WWWサーバと連携させて公開している。インターネットの回線が徳島県立総合教育センターに集約されているため、これらの情報提供用サーバを2組用意し、館内用は文化の森のコンピュータ室に、外部（インターネット）用は総合教育センターに設置し、館内用サーバから自動的にデータが更新される仕組みを構築している。



徳島県立博物館の情報システムの構成

VI 県民協働・参画

博物館は、主として県民をサービス対象として各種の事業を展開しているが、その中に利用者が主体的に関わっていき、博物館と協働したり、博物館の事業に参画したりする機会をもつことが、親しまれる博物館となっていくためには重要なことである。博物館が地域にしっかりと根を下ろすとともに、社会教育・生涯学習の振興、ひいては地域の活性化につながっていくよう、県民協働・参画を推進したいと考える。

1. 博物館友の会

博物館友の会は、博物館活動を通じて、広く自然と文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的として組織されたものである。幅広い年齢層の会員が集い、博物館活動への参加・支援、友の会独自の行事などを行っている。事務局は当館内に置き、育成を図っている。

■会員（平成26年度末）

個人会員（年会費 2,000円）	60人
（半年会費 1,000円）	8人
家族会員（年会費 3,000円）	55組 206人
（半年会費 1,500円）	5組 15人

■役員（平成26年度）

会長：鳥居 喬
 副会長：大杉洋子、行成正昭、高島芳弘（博物館長）
 幹事：伊勢ひとみ、澤 祥二郎、徳野壽治、
 中村由香、松家京子、水野和憲
 監査：石尾和仁、南部洋子

■事業

●博物館出版物の増刷・頒布

26年度博物館企画展の図録等（「いただきま〜す!」「四国の哺乳類」「よみがえる縄文世界」）の増刷・頒布を行った。

●広報活動

26年度会員に対し、博物館ニュース、企画展チラシ、月催し物案内、年間催し物案内などを送付した。また、友の会会報「アワーミュージアム」No.54・55を発行し、会員に送付した。

① No.54（2014年6月30日発行）

大戸農村舞台
 友の会行事報告 化石を探そう（淡路島）
 友の会行事報告 1泊研修旅行
 友の会行事報告 郷土料理作り
 友の会行事報告 梅見ハイキング
 報告 平成26年度総会
 わたしの新たな挑戦
 新スタッフ紹介

② No.55（2014年12月25日発行）

本山彦一と鳥居龍蔵の交流
 友の会行事報告 伊島を歩こう
 友の会行事報告 草や木の実でジャム作り
 友の会行事報告 キャンプで自然体験
 友の会行事報告 板野周辺を歩こう
 友の会行事報告 秋の山を歩こう

●野外活動等

会員を対象とした行事を10回実施した。

①伊島を歩こう	6月7日(土)	22人
場所：阿南市伊島		
②草や木の実でジャム作り	6月22日(日)	27人
場所：博物館実習室		
③キャンプで自然体験	7月26日(土)～27日(日)	29人
場所：佐那河内村		
④板野周辺を歩こう	9月28日(日)	11人
場所：板野町		
⑤秋の山を歩こう	10月18日(土)	23人
場所：上勝町		



「秋の山を歩こう」の様子



「共んにやく作り」の様子

- ⑥化石を探そう 11月8日(土)
場所：高知県安田町 27人
- ⑦京都日帰り研修 11月15日(土)
場所：京都市 50人
- ⑧リースを作ろう 12月14日(日)
場所：博物館実習室 16人
- ⑨共んにやく作り 2月1日(日)
場所：博物館実習室 29人
- ⑩大敷網体験 2月8日(日)
場所：海陽町 16人

●博物館のイベントへの協力

次のイベントに際し、博物館内に友の会のブースを設け、協力した。

- ①食べる！文化の森フェスティバル
「おり紙のゆび人形」 5月5日(月)
場所：博物館常設展示室
- ②文化の森大秋祭り!!
「マラカスであそぼう」 11月3日(月)
場所：博物館常設展示室

2. 博物館公募ボランティア

平成17年度から行っている公募ボランティアと職員が共同で企画・実施するイベント（博物館Vキング）を26年度も継続し、ボランティア約20名のメンバーが中心となって1年間の活動を行った。今回は、「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」の一環として、視覚障がい者、聴覚障がい者、外国人、高齢者、幼児の5つの視点から、より展示を楽しむ方法を考え、ボランティアとともに体験キットを試作し、イベントで公表した。活動は次の通りである。

①科学体験フェスティバル in 徳島への出展準備

徳島大学で開催される予定であった第17回科学体験フェスティバル in 徳島（8月9日(土)～10日(日)）に、「博物館資料のレプリカを作ろう！」というテーマで出展する予定で準備を進めたが、フェスティバル当日は台風のため中止になった。

②博物館Vキング 2月11日(水・祝)

文化の森ウィンターフェスティバルにおける当館のイベントとして、「博物館Vキングーみんなで創るユニバーサルミュージアム編ー」を実施した（詳細はp49・50参照）。



ボランティアスタッフが作成した博物館Vキングのチラシ

3. 各種事業での県民協働・参画活動の推進

県民協働・参画は、友の会や公募ボランティアに関わるものだけでなく、幅広く博物館活動の中で推進することが望まれる。平成26年度は、展示、普及教育、調査研究において次のような取り組みがあったほか、日常的に県民からの資料の寄贈も多い。

●展示

- ①トピックコーナー（県民協働活動の成果を展示）
「タンポポ調査が始まります」 (25年度 [3月3日]～6月1日)
「浜辺に揺りあがる焼き物たち」 (9月2日～10月26日)
「タンポポ調査が始まります」 (3月3日～27年度 [5月31日])
- ②「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」の成果紹介（県民との協働により実施した事業の

成果を展示)

「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業
紹介展」(2月10日～3月29日)

「博物館Vキングーみんなで創るユニバーサル
ミュージアムーパネル紹介展」

(2月10日～22日)

●普及教育

①普及行事における県民との協働(行事運営への協
力等)

「化石をさがそう[淡路島]」(5月18日)

「漂着物を探そう!」(7月27日)

「由岐歴史散歩」(9月28日)

●調査研究

①県民の参加(協働)により実施した調査

「漂着物調査」

「アサギマダラのマーキング調査」

「タンポポ調査」

②様々な立場の人々の参画を得た調査研究

「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」

4. 「みんなで創るユニバーサル ミュージアム事業」の実施

近代美術館・二十一世紀館、さらには美術館・博物
館の支援ボランティアグループと連携し、様々な立場
の利用者と一緒に、施設利用にあたっての問題点の検
証と改善に取り組むため、平成26年度文化庁地域と共
働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「みんな
で創るユニバーサルミュージアム事業」に取り組んだ。
事業実施主体は、みんなで創るユニバーサルミュージ
アム事業実行委員会で、当館に事務局を置いた。

ここでは、当館で取り組んだ事業内容についてまと

めておく。

●ワークショップ

様々な立場の人たち(視覚障がい者、聴覚障がい
者、外国人、幼児、高齢者)とワークショップを行
い、3館に共通するエントランスや階段、展示室ロ
ビーなどのサインのあり方、展示を楽しむ上での問
題点・改善点などについて意見交換した。実施日と
協力いただいたグループの名称等を記載する。

6月20日・10月15日 徳島県立徳島視覚支援学校

7月23日・12月10日 とくしま異文化キャラバン
隊(徳島大学の留学生ら)

10月25日 当館のイベントボランティア(博物館
Vキングスタッフ)、徳島市立上八万児童館利
用者

10月31日 徳島県立徳島聴覚支援学校

11月5日 上板町さわらび読書会

●サインの改善

ワークショップの結果を踏まえて、建物入口、エ
ントランス、インフォメーション、階段、展示室ロ
ビーのサインを試作し、取り付けた。

●体験キットの開発

公募ボランティアと職員で構成した3グループに
より、展示を楽しく、分かりやすくするための体験
キットを開発した。

①幼児・外国人班:「めくる冒険」…イラストボー
ードの解説をめくって回るスタンプラリー。試着用
の貫頭衣、アクセサリも製作した。

②高齢者・視覚障がい者班:「探検!江戸時代」…
江戸時代を紹介する展示資料についてのキット
(解説付きで使用することを想定)。「徳川秀忠判
物写立体レプリカ」「お城の模型を触って観察」「千
両箱の重さを体感」「人形頭の頭を調べてみよう」
の4種類を開発した。



ワークショップの様子(6月20日)



ワークショップの様子(12月10日)



体験キットを作成する様子（千両箱の復元）

③聴覚障がい者班：「かくされた秘密」…日常では見えないものを、道具を使って、見たり、触ったりする。具体的には、ブラックライトを用いた観察、写真の立体視など。

●体験キットの活用

2月11日（水・祝）、文化の森ウィンターフェスティバルの一環として、「博物館Vキングーみんなで創るユニバーサルミュージアム編一」を開催した。内容は、③の各キットを実際に使用するものだった。多くの参加者に楽しんでもらいながら、キット開発の成果と課題を検証した。なお、聴覚障がい者班の担当で、手話通訳つきバックヤードツアーも行った。

●成果紹介展

①みんなで創るユニバーサルミュージアム事業紹介展

期間 2月10日（火）～3月29日（日）
会場 2階中央ロビー

②博物館Vキングーみんなで創るユニバーサルミュージアム編一パネル紹介展

期間 2月10日（火）～22日（日）
会場 博物館常設展受付前ロビー

●報告会の開催

本事業の成果を広く紹介するため、徳島県内の博物館等が加入している徳島県博物館協議会と連携し、同協議会の平成26年度第2回研修会として報告会を開催した。

日時 2月25日（金）14：30～16：30

会場 徳島県立博物館

報告 「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業の成果について」

庄武憲子（当館専門学芸員）

竹内利夫氏（近代美術館上席学芸員）



手話通訳つきバックヤードツアーの様子

●報告書の刊行

事業全体の概略をまとめた報告書を刊行した。

体裁：A4判、38ページ

内容：1 取り組みのきっかけ

2 事業の経過

3 サインの改善

4 博物館編

5 近代美術館編

発行部数：3,200部

Ⅶ シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じて様々な資源（資料、情報、学芸員の知識・経験）を蓄積している一種のシンクタンクである。これらの資源を活用して地域社会に貢献し、また、県政の課題解決に寄与することも、博物館の重要な役割であると考え、積極的に取り組むこととしている。

1. レファレンス業務

一般の県民や児童・生徒・学生、教職員、行政職員、マスコミ、企業などから寄せられた質問や問い合わせに対応する業務を、当館ではレファレンス業務と呼んでいる。問い合わせ方法としては、来館、電話、Eメール、文書によるものなどがある。当館ではこれらの問い合わせを、対応の記録や博物館に対するニーズを把握する目的で、データベース化している。

平成26年度に行ったレファレンスの件数は688件で、分野別内訳は下表のとおりである。この記録は、博物館レファレンス記録データベースに記録されたデータに基づいている。ただし、同様の問い合わせが集中したときなど、すべてを記録できているわけではないため、実際の件数はこれより2～3割程度多いと考えられる。

職業別の割合を見ると、一般（不明を含む）からの問い合わせが329件（48%）で最も多く、次いでマス

●分野別レファレンス件数（平成27年3月31日現在）

分 野	件 数
動物（脊 椎）	102
（無脊椎）	37
（昆 虫）	131
植 物	70
地 学	90
考 古	26
歴 史	119
民 俗	59
美術工芸	2
保存科学	3
そ の 他	49
合 計	688

コミ・出版関係が193件（28%）、博物館・図書館・官公庁等が69件（10%）、大学生・院生・研究者等が38件（6%）、高校生以下の児童・生徒及び教員等が22件（3%）、その他が21件（3%）であった。

2. 各種委員会委員等の受諾

平成26年度に、博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、学会役員等は次の通りである。

高島芳弘

日本博物館協会参与

（平成 26. 4. 1～1 年間）

徳島県博物館協議会会長

（平成 26. 1～1 年間）

徳島市立考古資料館協議会委員

（平成 25. 7. 1～27. 6. 30）

史跡洪野丸山古墳調査整備検討委員会委員

（平成 25. 2～）

佐藤陽一

徳島県ジオトープアドバイザー

（平成 14. 4. 11～27. 3. 31）

阿波しらすぎ大橋環境アドバイザー（旧称：東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー）

（平成 16. 8. 16～27. 3. 31）

徳島県土木環境配慮アドバイザー

（平成 19. 4. 1～28. 3. 31）

徳島県希少野生生物保護検討委員会委員

（平成 21. 12. 1～28. 3. 31）

環境省希少野生動植物種保存推進員

（平成 9. 7. 1～27. 6. 30）

国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバイザー（吉野川・那賀川）」

（平成 19. 4. 26～28. 3. 31）

国土交通省那賀川河川事務所「那賀川左岸堤防地震・津波対策事業環境保全検討委員会」委員

（平成 24. 12. 11～27. 3. 31）

国土交通省徳島河川国道事務所「吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会」委員

- (平成 26. 10. 31 ~ 29. 3. 31)
 関西広域連合広域環境保全局「関西の残したい自然
 エリア選定検討委員会」委員
 (平成 26. 10. 15 ~ 28. 3. 31)
 日本魚類学会標準和名検討委員会副委員長
 (平成 15. 4. 1 ~)
- 小川 誠
 徳島県土木工事環境配慮アドバイザー
 (平成 19. 4. 1 ~ 28. 3. 31)
 NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク理事
 (平成 21. 4. 1 ~ 29. 3. 31)
 環境省希少野生動植物種保存推進員
 (平成 24. 7. 1 ~ 27. 6. 30)
- 中尾賢一
 海陽町教育委員会「竹ヶ島地質遺産調査委員会委員」
 (平成 23. 12. 16 ~)
- 茨木 靖
 東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アド
 バイザー
 (平成 16. 8. 16 ~)
 徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
 (平成 21. 12. 1 ~ 27. 3. 31)
- 辻野泰之
 海陽町教育委員会「竹ヶ島地質遺産調査委員会委員」
 (平成 23. 12. 16 ~)
- 山田量崇
 徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
 (平成 21. 12. 1 ~ 27. 3. 31)
 徳島県田園環境検討委員会委員
 (平成 22. 1. 15 ~ 28. 1. 14)
 国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバ
 イザー」
 (平成 23. 5. 25 ~ 27. 3. 31)
 国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所「長安
 口ダム環境モニタリング委員会」委員
 (平成 24. 4. 2 ~ 27. 3. 31)
 環境省希少野生動植物種保存推進員
 (平成 24. 7. 1 ~ 27. 6. 30)
 日本の昆虫編集委員
 (平成 25. 3. 14 ~ 27. 1. 29)
 関西広域連合広域環境保全局「関西の残したい自然
 エリア選定検討委員会」委員
 (平成 26. 10. 15 ~ 28. 3. 31)
- 長谷川賢二
 徳島県人権教育啓発推進委員会専門委員
 (平成 19. 5. 1 ~)
 阿波遍路道・札所寺院保存検討委員会委員
 (平成 26. 7. 24 ~ 27. 3. 31)
 日本山岳修験学会理事
 (平成 25. 11 ~ 27. 11)
 四国中世史研究会運営委員
 (平成 25. 4 ~ 27. 3)
 歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員
 (平成 25. 9. 1 ~)
- 大橋俊雄
 松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館協議
 会委員
 (平成 25. 4. 1 ~ 27. 3. 31)
- 庄武憲子
 「牟岐町牟岐浦出羽島伝統的建造物郡保存対策調査」
 調査指導委員
 (平成 25. 7. 28 ~ 27. 3. 31)
 「阿波木偶箱まわし」伝承推進事業検討委員
 (平成 26. 4. 1 ~ 27. 3. 31)
 四国民俗学会理事
 (平成 26. 4. 1 ~ 28. 3. 31)
- 磯本宏紀
 新鳥取県史編さん調査委員
 (平成 26. 4. 1 ~ 27. 3. 31)
 「牟岐町牟岐浦出羽島伝統的建造物郡保存対策調査」
 調査指導委員
 (平成 25. 7. 28 ~ 27. 3. 31)
 「阿波木偶箱廻し」伝承推進事業検討委員
 (平成 26. 4. 1 ~ 27. 3. 31)
 公益財団法人徳島県文化振興財団民俗資料委員会委
 員
 (平成 25. 4. 1 ~ 27. 3. 31)
 日本民具学会理事
 (平成 25. 11 ~ 28. 11)
 阿南市史羽ノ浦近現代編執筆委員
 (平成 26. 6. 1 ~ 28. 3. 31)
- 松永友和
 徳島地方史研究会評議員
 (平成 25. 4 ~)
 歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員
 (平成 25. 9. 1 ~)

3. 講師の派遣

館外からの依頼を受けて行った講師派遣等を、月日・担当者・依頼者・内容・場所の順に記す（内容に依頼者・場所が表現されている場合は依頼者・場所を省略）。なお、小・中・高校からの依頼による出前授業につい

ては、「Ⅱ 普及教育」の「2. 学校教育支援事業」に記載している（詳細は p.23～25参照）。

- 4月16日 長谷川賢二
徳島県自治研修センター「平成26年度新規採用職員研修人権問題（同和問題の歴史と課題）」で講演「部落史と私たちの課題」
- 5月11日 松永友和
旧河澄家（東大阪市）の歴史講座で講演「大坂町奉行と大坂代官」
- 5月21日 長谷川賢二
「平成26年度文化の森新任及び転入職員人権研修会」で講演「同和問題について考える」（文化の森ミニシアター）
- 5月31日 庄武憲子
三好郷土史研究会で講演「門付け芸について」（三好市保健センター）
- 6月4日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「中世の社会と信仰」（徳島県立総合福祉センター）
- 6月4日 長谷川賢二
四国八十八ヶ所霊場会阿波部会「四国八十八ヶ所霊場御開創1200年記念講演会」パネリスト（徳島県郷土文化会館）
- 7月18日 長谷川賢二
徳島市立徳島城博物館「平成26年度阿波の文学と歴史セミナー 阿波の中世」で講演「四国遍路の形成と修験道」
- 7月23日 岡本治代
徳島県立文書館「平成26年度古文書保存講座」講師
- 8月11日 松永友和
平成26年度社会教育主事講習で講演「博物館の現状と課題」（鳴門教育大学）
- 8月20日 佐藤陽一
「交流体験 IN 吉野川（下流編）」講師（徳島市入田町、鮎喰川）
- 8月20日 中尾賢一
鴨島児童館「大地のつくり」講師
- 9月9日 大橋俊雄
徳島西ロータリークラブ例会で講話「蒔絵のはなし」（ホテルクレメント）
- 9月18日 磯本宏紀
ディサービスの文化講座で講演「民具をつかったレクリエーション」（ディサービスわかば）
- 10月6日 松永友和
ディサービスの文化講座で講演「大塩平八郎と徳島

- 一大塩家のルーツをめぐって」（ディサービスわかば）
- 10月8日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「四国遍路の形成過程」（徳島県立総合福祉センター）
- 10月9日 高島芳弘
歴史文クラブで講演「銅鐸の話」（徳島県郷土文化会館）
- 10月19日 長谷川賢二
平成26年度徳島県市町村文化財保護審議会連絡協議会文化財県内研修会で「空海の足音 四国へんろ展 [徳島編]」展示解説（当館）
- 10月29日 庄武憲子
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「民俗学①」「民俗学②」（徳島県立総合福祉センター）
- 11月5日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「戦国軍記と三好氏の落日」（徳島県立総合福祉センター）
- 11月9日 長谷川賢二
和歌山県立博物館特別展「熊野」関連シンポジウム「9・10世紀の熊野と王権」でコメント「修験道史研究の立場から」
- 11月21日 岡本治代
平成26年度第1回市町村埋蔵文化財担当専門職員等研修会で講演「阿波の古代瓦」
- 11月29日 長谷川賢二
徳島県政策創造部総合政策課「第9回徳島交流大使会議」で講演「四国遍路のあゆみ」（ホテルグランドパレス徳島）
- 11月29日 佐藤陽一
徳島県立総合大学校「オンリーワンとくしま学講座」で講演「徳島の川魚から環境を考える」（徳島県立総合教育センター）
- 11月30日 高島芳弘
徳島市身体障害者連合会の福祉大会で講演「人類の誕生と進化」（徳島県立総合福祉センター）
- 12月13日 高島芳弘
阿波遍路道がつなぐ地域文化財総合活用事業「田井遺跡の縄文人—海辺のムラの営み—」で講演「徳島県南部の縄文遺跡と文化交流」（南部総合県民局美波庁舎）
- 1月17日 中尾賢一
阿波学会60周年記念公開講座で講演「国会議事堂に使われた徳島県産石材とその産地、鳴門海峡海底の化石」（徳島県立図書館）
- 1月17日 辻野泰之
阿波学会60周年記念公開講座で講演「坂州の不整合、

那賀町産の約2億3400万年前のアンモナイト、美馬町の白亜紀の地層と化石」(徳島県立図書館)

1月24日 茨木 靖

阿波学会60周年記念公開講座で講演「徳島のイネ科こぼれ話」(徳島県立図書館)

1月25日 長谷川賢二

安楽寺「第55回教学講習会」で講演「四国遍路の形成」

1月27日 松永友和

デイサービスの文化講座で講演「大塩平八郎と徳島一大塩家のルーツをめぐって」(デイサービスわかば)

2月2日 小川 誠

国立科学博物館 第24回 自然史標本情報の発信に関する研究会で講演「採集地名のデジタル化と分布図作成に関する実習」(大阪産業大学梅田サテライトキャンパス)

3月15日 中尾賢一

福井県立恐竜博物館連携博物館セミナーで講演「四国南東部の地形と地質」

3月18日 庄武憲子

第5回農家民宿スキルアップセミナーで講演「祖谷地域の畑作物調査報告」(三好市中央公民館)

3月18日 磯本宏紀

デイサービスの文化講座で講演「民具をつかったレクリエーション」(デイサービスわかば)

3月21日 磯本宏紀

阿波学会60周年記念公開講座で講演「徳島の民俗—

阿波学会における民俗班の活動と成果—」(徳島県立図書館)

4. 大学教育への寄与

(1) 大学非常勤講師の受諾

平成26年度に、博物館職員が委嘱を受けた大学非常勤講師は次の通りである。

長谷川賢二

鳴門教育大学嘱託講師(博物館経営論)

(平成26.4.11～27.3.31)

山田量崇

四国大学非常勤講師(博物館実習Ⅰ)

(平成26.4.3～26.9.30)

松永友和

四国大学非常勤講師(博物館実習Ⅰ)

(平成26.4.3～26.9.30)

(2) 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条において、学芸員となる資格を取得するために「大学において修得すべき博物館に関する科目」と規定されているもののひとつで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により、原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実

●26年度 博物館実習カリキュラム

		A 班 (7名)		B 班 (6名)	
		実習名(場所)	担当者	実習名(場所)	担当者
8/19 (火)	午前	館長あいさつ(実習室) ガイダンス・館内施設見学(館内)	高島 茨木	館長あいさつ(実習室) ガイダンス・館内施設見学(館内)	高島 茨木
	午後	化石のレプリカ作成法(実習室)	辻野	化石のレプリカ作成法(実習室)	辻野
8/20 (水)	午前	歴史資料の整理(作業室・収蔵庫)	長谷川・松永	植物標本の整理(生物収蔵庫)	茨木
	午後	普及行事の準備(実習室)	小川	歴史資料の整理(作業室・収蔵庫)	長谷川・松永
8/21 (木)	午前	地学資料の標本作成と整理 (実習室・地学収蔵庫)	中尾	民俗資料の整理(考古収蔵庫)	磯本
	午後	考古資料の保存と整理(講座室)	岡本	地学資料の標本作成と整理 (実習室・地学収蔵庫)	中尾
8/22 (金)	午前	普及業務・展示解説(実習室)	三好・鉄谷	普及業務・展示解説(実習室)	三好・鉄谷
	午後	図書の整理(書庫)	松永・茨木	考古資料の保存と整理(講座室)	岡本
8/23 (土)	午前	標本の名前を調べる会 (実習室・講座室)	山田	美術工芸資料の取り扱い(分析室)	大橋
	午後	標本の名前を調べる会 (実習室・講座室)	山田	展示室でのクイズづくり (作業室・展示室)	庄武

午前(9:30～12:00)、午後(13:00～16:00)及び実習ノート記入、提出(16:00～17:00)



博物館実習（歴史資料の整理）

習を行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希望者が多い場合は調整を行い、20数人をめどに受け入れることにしている。

26年度は、8月19日(火)～23日(土)に実習生の受け入れを行った。実習生は12人で、大学別の内訳は次の通りである。

種智院大学	1人	徳島大学	4人
四国大学	4人	高知県立大学	1人
京都産業大学	1人	鳴門教育大学	1人

なお、同時期に県立総合大学校本部の依頼により、徳島県インターンシップ実習学生を受け入れた。インターンシップ実習学生は1人で、次の通りである。

神戸大学 1人

カリキュラムは前頁表の通りである。実習生をA・Bの2班に分けて、学芸員等職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

(3) 学生・院生の指導

26年度に研究課題のために受け入れた学生・院生は次の通りである。所属、学年、人数及び研究テーマを記す。

- ・徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部修士課程1年 1人 魚類標本の作製・整理
(平成26.2.4～28.3.31、インターンシップ系科目研修生派遣として)

(4) 学芸員養成科目開講への協力

徳島県と徳島大学、鳴門教育大学、四国大学との間の協定(年報22号参照)にもとづき、学芸員資格の取得を希望している3大学の学生のために、「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」の開講に協力した。博物館講座室を会場として、当館職員を中心に、大学教員、近代美術館・文書館職員が共同で講

義を担当した。各科目の日程、受講者数は次の通りである。

- ①博物館資料保存論 9月12・13日、17～19日
徳島大9人、鳴門教育大6人、四国大28人
- ②博物館教育論 2月27日～3月1日、3・4日
徳島大10人、鳴門教育大7人、四国大27人
- ③博物館展示論 3月6日～8日、13・14日
徳島大9人、鳴門教育大6人、四国大25人

5. 学会・研究会等の運営への寄与

(1) 学会・研究会等の開催

平成26年度に当館学芸員が担当し、当館及び文化の森の施設を会場として開催された学会・研究会等は次の通りである。

●みどりクラブ例会

開催日：毎月1回／土曜日(不定)

会場：博物館講座室

参加者：10人程度

●四国民俗学会

開催日：9月13日(土)

会場：博物館実習室

参加者：9人

●四国民具研究会

開催日：5月31日(土)

会場：博物館講座室

参加者：10人

●徳島地域文化研究会

開催日：3月7日(土)

会場：図書館集会室2

参加者：10人

(2) 当館が事務局等を引き受けている学会・研究会等

●みどりクラブ

植物に関心のある県内同好者が、毎月1回(土曜日の18:30～)、博物館実習室で植物分類の勉強会や採集情報等に関する意見交換を行っている。

会員は約15名で、毎回約10人の参加者がある。

●徳島地域文化研究会

主として徳島県域をフィールドとする民俗学・文化人類学研究者によって構成されており、研究会やシンポジウム(年2～3回程度)、会誌『徳島地域文化研究』の発行(年刊)等を行っている。

●四国民具研究会

四国地域をフィールドとする民具研究者により構成

されており、研究会の開催（年2回程度）、会報『四国民具通信』の発行、会誌『民具集積』（年刊）の発行、調査報告書の発行、資料の調査研究等を行っている。

●日本半翅類学会

カメムシやヨコバイ、セミなどのカメムシ目（半翅類）に関する研究の発展及びその成果の普及を図り、あわせて半翅類に興味を持つ者相互の理解と親睦を深めることを目的とした学会である。会誌「Rostria」の発行、総会、例会などの事業を行っている。23年度から当館が事務局を担当している。

●海の観察会

主に県内の漂着物に関する調査・情報交換を行っている研究会で、年4回の例会を行っており、会誌『小松通信』を発行している。

●四国魚類研究会

四国4県の大学や研究機関が持ち回りで事務局を担当し、毎年1回開催している。26年度は、当館と徳島大学工学部が事務局を共同で担当した（第42回四国魚類研究会）。

開催日：平成27年2月28日～3月1日

場 所：国民の宿うみがめ荘（美波町日和佐浦）

参加者数：56人

6. 博物館ネットワーク

(1) 四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在82館（園）が加盟している。4県が持ち回りで2年ずつ事務局をつとめることになっており、平成26・27年度は高知県立歴史民俗資料館が事務局館をつとめ、当館は幹事館になっている。

26年度の役員会・総会及び研修・視察は、次の通り開催された。

●26年度役員会・総会

日時：9月11日（木）

役員会 11：00～、総会 13：30～

会場：高知県立美術館

議事：平成25年度事業報告及び決算報告について
平成26年度事業計画及び予算について
その他

講演：渡部 淳氏（公益財団法人土佐山内家宝物資料館長）・横山和弘氏（同企画課長）
「博物館における地域連携の試み—土佐山内家宝物資料館の活動事例から—」

●研修・視察

日時：9月12日（金） 10：00～

場所：高知県立美術館

内容：公益財団法人日本博物館協会からの本部報告
視察：「四国霊場開創1200年記念 空海の足音 四国へんろ展 [高知編]」

(2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成8年2月27日に設立された。設立当時31館であった加盟館は、その後増減を経て、27年3月末現在では52館になっている。当館が事務局をつとめている。

●26年度事業

①役員会の開催

6月3日（火） 徳島県立博物館

2月25日（水） 徳島県立博物館

②総会の開催

日時：6月3日（火） 13：00～16：40

場所：徳島県立博物館

議事：25年度事業報告及び決算報告
25年度監査報告
26年度役員選出
26年度事業計画及び会計予算
その他

講演：早淵隆人氏（徳島県教育委員会教育文化政策課主査兼係長）「遍路文化の保存と継承—遍路道と札所寺院の調査から—」

プレゼンテーション：松尾弘子氏（国立公文書館資料情報専門官）「国立公文書館アジア歴史資料センターにおける広報活動について」

③加盟館園の職員状況と入館者数一覧の作成・配布

④徳島県博物館協議会ニュースの発行

No. 45～47を発行・配布した。

⑤研修会の開催

第1回 参加者18人

日時：11月26日（水） 13：30～16：00

場所：鳴門市ドイツ館

内容：講演会 川上三郎氏（鳴門市ドイツ館長）
「鳴門市日独交流の歴史とドイツ館」
展示解説 ドイツ館の展示見学と解説
現地見学 県指定史跡ドイツ橋周辺の見学

第2回 参加者33人

日時：2月25日（水） 14：30～16：30

場所：徳島県立博物館

内容：報告会 庄武憲子（徳島県立博物館専門学芸員）・竹内利夫氏（徳島県立近代美術館上

席学芸員)

「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業の成果について」

展示解説 鳥居龍蔵記念博物館企画展「よみがえる縄文世界」

(3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク（略称「人権ネット」）は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成8年に結成された。現在、32機関・団体が加入している。26年度は、大阪人権博物館を会場として第19回総会が開催されたほか、大阪市住吉地区のフィールドワークが行われた（9月26～27日）。

当館は発足時から加入しており、総会に職員を派遣してきたほか、大阪人権博物館、水平社博物館等、加入機関・団体との個別的な協力を行っている。

(4) 西日本自然史系博物館ネットワーク

NPO法人西日本自然史系博物館ネットワークは、平成12・13年度に文部科学省の委嘱を受け行われた環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進事業の継承と発展をはかるため、大阪市立自然史博物館及び兵庫県立人と自然の博物館の主導により、個人参加によるゆるやかな連携組織として、16年4月27日に設立された。博物館学芸員及び関係者157人が参加している。

26年度は、地域自然史環境情報提供事業として標本情報の整備に関する研究会（2回）、博物館連携推進事業として生物多様性協働フォーラムを開催した。また、調査研究推進事業として博物館スタッフのための技術講座（プラスティネーション標本の作製に関する研修会、のり付スチレンボードを活用してみよう等）を開催し、100円ショップグッズを使った自然観察と巡回展（当館では部門展示として実施）などを行った。

(5) 文化財の防災ネットワークへの協力

平成26年8月の台風の影響により、県内各地で洪水被害が発生した。25年度に締結された「文化財の防災に関する共同宣言」に基づき、「歴史資料保全ネットワーク・徳島」と連携を図りつつ当館職員を被災地に派遣し、水損資料のレスキュー活動を行った。水損した資料のうち、状態の良くない資料数点については、エタノール消毒をした上でカビの繁殖をおさえるため当館の冷凍庫に入れ、後日、真空凍結乾燥を施し、資



水損資料レスキュー活動の一環として被災地をめぐる

料を所蔵者に返却した。

また、同じく平成26年8月の台風の影響により、公益財団法人三木文庫の資料の一部が水損した。松茂町教育委員会と協議の上、三木文庫からの要請を受け、当館職員を派遣し資料レスキュー活動を行った。水損した資料のうち、状態の良くない古文書1点については当館の冷凍庫に入れ、後日、真空凍結乾燥を施し、返却した。

(6) 阿波しらさぎ大橋環境モニタリング調査GISデータの管理

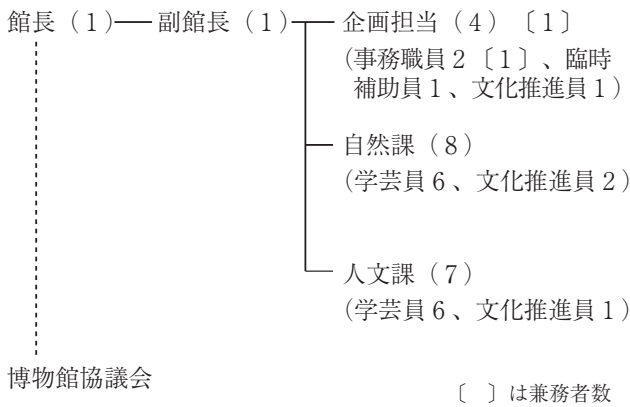
吉野川河口に平成24年4月に開通した阿波しらさぎ大橋については、建設に当たって当館の複数の学芸員が環境アドバイザー会議のメンバーとして参画しただけでなく、11年間にわたって実施された環境調査標本を受け入れてきた。

徳島県は長期にわたって吉野川河口域において詳細に調査されたデータを環境保全や環境教育に広く役立ててもらうために、GISデータとしてとりまとめ配布することとした（制作は県土整備部都市計画課）。先の経緯から、当館がGISデータを収録したDVDの管理を担当することとなり、27年3月より試行版の配布を開始した（正式版は27年5月より配布）。

VIII 管理運営・マネージメント

1. 組織・職員

(1) 組織図（平成27年5月1日現在）



(2) 職員名簿（平成27年5月1日現在）

館長 高島 芳弘
副館長 久米みどり

〈企画担当〉

主査兼係長 島尾希実子（二十一世紀館主査兼係長本務）
係長 真鍋 憲人
主任 鉄谷 雅史
臨時補助員 小濱 頌平
文化推進員 湯浅 絵美

〈自然課〉

課長 佐藤 陽一（動物）
上席学芸員 小川 誠（植物）
〃 中尾 賢一（地学）
学芸係長 茨木 靖（植物）
主任 辻野 泰之（地学）
〃 山田 量崇（動物）
文化推進員 平野由美子
〃 前川 雅美

〈人文課〉

課長 長谷川賢二（歴史）
上席学芸員 大橋 俊雄（美術工芸）
専門学芸員 庄武 憲子（民俗）
主任 磯本 宏紀（民俗）
〃 松永 友和（歴史）
主任学芸員 岡本 治代（考古）

文化推進員 西 記代子

(3) 人事異動

〈平成27年3月31日付〉

兼務解除：三好 康彦・二十一世紀館文化の森企画
広報室

〈平成27年4月1日付、転入者のカッコ内は前職〉

転出：三好 康彦・課長補佐、山城中学校教頭へ

転入：真鍋 憲人・係長（加茂小学校教諭）

兼務：高島 芳弘・教育委員会文化の森振興本部
部長（博物館・鳥居龍蔵記念博物館担当）

久米みどり・教育委員会文化の森振興本部
部長（博物館・鳥居龍蔵記念博物館担当）

真鍋 憲人・二十一世紀館文化の森企画
広報室

(4) 平成26年度非常勤・臨時職員

●臨時補助員

村田 光彦（平成26.4.1～26.12.31）
山上 功祐（平成27.1.4～27.3.31）

●文化推進員（非常勤特別職）

小原明日香（平成24.4.1～27.3.31）
和田 望（平成24.4.1～27.3.31）
平野由美子（平成24.12.1～）
西 記代子（平成25.10.1～）

2. 予算

2月現計予算額（2月補正後の予算額）を下に示す。

●平成26年度博物館費（2月現計予算額）（単位：千円）

予算総額	48,745
管理運営	12,105
展覧	7,192
調査研究	2,222
収集保存	10,610
普及教育	1,616
「四国遍路展」開催事業	15,000

3. 文化の森の連携事業

平成24年度以来、文化の森各館から職員1人ずつが、二十一世紀館文化の森企画広報室職員を兼務し、定期的な会議を通じて文化の森の連携と企画・広報の推進を図っている。26年度に取り組まれた主な内容は、次の通りである。

①文化の森全館連携の強化と事業の推進

博物館で開催した「食」をテーマとした企画展「いただきます～す！」に連動して、文化の森全館が連携した共同イベントを実施した。この事業は、25年度から内容や連携方法などの検討を積み重ねてきたものである。その結果、5月5日のこの日に、春期初の全館共同イベント「食べる！文化の森フェスティバル」の開催が実現した。

さらに、18年度以来博物館が冬期に行ってきた「博物館Vキング」にあわせて、文化の森全館による共同イベントについて、内容や進め方などの検討を行った。その結果、冬期初の全館共同イベント「文化の森ウィンターフェスティバル」の開催が実現した。

②文化の森全館連携事業の継続

25年度に引き続き、文化の森全館と連携を図り、「文化の森サマーフェスティバル」と「文化の森大秋祭り!!」を継続して行った。

③文化の森25周年事業の推進

27年度に文化の森開園25周年を迎えることから、「人形（ひとがた）」をテーマに6館が連携してイベントを実施することが決まった。それらに関連する予算についての検討を行った。博物館では、企画展「阿波木偶箱まわしの世界一門付け、大道芸一」を主たる事業と位置づけて開催する予定である。また、文化の森3館棟のユニバーサル化や安全・安心の文化施設の推進に取り組むことが決定した。

4. 防災及び危機管理

(1) 危機管理体制

文化の森3館棟で消防防災計画を立て、二十一世紀館、博物館、近代美術館、鳥居龍蔵記念博物館と文化の森の警備、設備、食堂等の業者で自衛消防隊を組織し、訓練を行って非常時に備えている。

(2) 防災訓練

9月3日（水）及び9月24日（水）に、二十一世紀館を中心に、防火防災訓練を行った。また、1月26日（月）の「文化財防火デー」には、徳島市消防局と連携して文化財消防訓練を行い、地元消防団等も参加して、文化財を収蔵する施設における火災発生時の初期消火及び避難誘導等について確認し、防火管理体制の強化を図った。



文化財防火デー消防訓練の様子（1月26日）

5. 博物館協議会

博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

26年度は協議会を1回開催した。

●26年度博物館協議会

日時：平成26年9月17日（水）

13：30～16：30

会場：近代美術館講座室

議事

- (1) 平成25年度事業の実施状況について
- (2) 平成26年度予算及び事業概要について
- (3) 第3期中期活動目標について
- (4) その他

●徳島県立博物館協議会委員名簿

(平成27年3月31日現在)

区分	氏名	役職等
学校教育	下川 純代	県小学校教育研究会理科部会副会長 (白地小学校長)
	朝日 明己	県中学校教育研究会社会科部会長 (応神中学校長)
	中村 顕也	県高等学校教育研究会地歴学会副会長 (富岡西高等学校教頭)
社会教育	松下 師一	松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館館長補佐兼主任学芸員
	町田 哲 (副会長)	鳴門教育大学大学院准教授
	鈴木 綾子	徳島ベンクラブ副会長
学識経験	玉有 繁 (会長)	徳島文理大学教授
	玉田 香織	藍住町国際交流協会理事
	佐藤 陽香	徳島新聞社三好支局記者
家庭教育	大野 美加	八万中学校PTA本部役員

11月11日	青山学院大学	浅井和春氏
11月14日	愛媛県文化財保護指導員	喜代吉栄徳氏
11月15日	文化庁美術学芸課	井上大樹氏
	兵庫県立歴史博物館	小栗栖健治氏ほか1人
11月19日	明治大学	林 雅彦氏
11月22日	就実大学	川崎剛志氏
	中岡慎太郎館	豊田満広氏
11月26日	同志社大学	小林丈広氏
11月29日	岡山県立博物館	和田 剛氏
1月25日	伊予市教育委員会	矢野ひとみ氏ほか6人
2月12日	ハンズ・オン プランニング	染川香澄氏
3月7日	茨城県立歴史館	富田 任氏
3月12日	独立行政法人国立公文書館	加藤丈夫氏ほか1人
3月22日	東京大学文学部	大貫静夫氏ほか12人

6. 各種研修会への参加

当館に事務局を置く徳島県博物館協議会の総会・研修会のほか、次のような研修会等に職員を派遣し、博物館職員としての意識改革と資質の向上に努めた。月日、研修会等名称（主催者。名称に主催者名が含まれている場合は省略）、氏名の順に記す。

- 9月25・26日 人権資料・展示全国ネットワーク
第19回総会 長谷川賢二・鉄谷雅史
(長谷川は25日のみ)
- 11月10～14日 歴史民俗資料館等専門職員研修会
(文化庁・国立歴史民俗博物館)
松永友和
- 11月19日 第62回全国博物館大会(日本博物館協会)
三好康彦
- 2月22・23日 第11回四国ミュージアム研究会
磯本宏紀・辻野泰之
(辻野は22日のみ)

7. 視察等博物館関係来訪者

- 4月5日 東京成徳大学 増尾伸一郎氏
- 11月2日 和歌山県立博物館 大河内智之氏
- 11月3日 円明院 武田和昭氏

IX 中期活動目標と自己評価

平成21年度から25年度まで、第2期中期活動目標にもとづく点検・評価を行いながら事業に取り組んできた。26年度は、第2期活動目標にもとづく事業を総括するとともに、使命書や目標、評価指標等を見直し、使命書の改訂や第3期中期活動目標（26～30年度）の策定を行った。引き続き、よりよい事業を行えるよう取り組んでいきたい。

1. 中期活動目標（平成26年9月17日策定）

近年、生涯学習社会の進展など、博物館を取り巻く状況は急速に変化してきた。これまでの資料の収集・保存や調査研究、展覧、普及教育などの事業に加えて、学校教育の支援や社会貢献、博物館活動への県民参画など、新たな課題への取り組みが求められるようになってきた。その一方で、財政状況悪化による運営予算の削減、事業評価、及び公的施設の運営の見直しなども進められるようになってきた。

こうした状況の変化を踏まえ、徳島県立博物館では平成16年度以来、2期10年間（第1期：16～20年度、第2期：21～25年度）にわたり、中期活動目標とそれにもとづく点検・評価を行いながら、事業の改善と活性化を進めてきた。

ちょうど、第1期目標にもとづく活動が終わる20年度、博物館法の一部が改正され（20年6月）、運営状況の評価と運営の改善に必要な措置を講ずるための努力義務が盛りこまれた。また、第2期目標にもとづく活動を進めていた23年度には、文部科学省から「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示され（23年12月）、博物館運営の点検・評価の実施とそれにもとづく改善、それらの内容の公表について努力するよう求められた。こうした法制面での動向からも、徳島県立博物館における中期活動目標の策定・運用は適切な取り組みとことができ、今後も継続的に推進することが必要だと考える。

25年度をもって第2期目標の期間が終了したことから、これまでの成果を踏まえながら、ここに第3期目標（26～30年度）をまとめた。

(1) 第2期中期活動目標の総括

中期活動目標にもとづく事業改善と活性化に取り組むようになった平成16年度以来、事業の目標が明確に可視化されるとともに、達成度が客観的に示されるようになり、事業の課題や問題点を明らかにすることができるようになった。このような情報を共有することで、職員の意識改革を進め、利用者にとって満足度の高いサービスを提供できるよう努めてきた。

とくに第2期目標では、第1期の経験を活かし、徳島県立博物館の理念及び基本的性格^(注)を再確認しながら、「県民とともに」を基調とする博物館の使命（存在意義や役割）をまとめたうえで、個々の事業やその目標、評価指標を位置づけることにした。

このように、使命と一体化した形で、事業の目指すべき方向を明確にしたのが第2期目標の特徴であり、これにあわせて評価指標などの見直しも行い、より丁寧な点検・評価を進めることができた。ただ、基調とした「県民とともに」を推進するには、さらに意識的な方向付けが必要と考えられ、課題を残したといえる。

(注)

「徳島県立博物館の理念及び基本的性格」とは、「徳島県立博物館基本構想」（昭和59年1月）に示され、博物館の活動目標・指針となってきたものである。その内容は次の通りである。

<基本理念>

①郷土に根ざし世界に広がる博物館

徳島の自然、歴史、文化の資料を総合的に展示し、全国的・世界的なかかわりについても理解できる施設

62 中期活動目標と自己評価

②開かれた博物館

博物館の活動に県民のだれでもが参加でき、楽しみながら学び、考え、豊かな知識を高めることのできる施設

③研究を大切にす博物館

学術的な調査研究、資料の収集を通して、常に新しい展示と情報を広く提供する施設

④文化財を守り自然の保全をめざす博物館

県民の貴重な文化的資料を永久に保管するとともに、文化財と自然の保護に努める施設

<基本的性格>

①人文科学（考古、歴史、民俗、美術〈近代美術を除く〉）・自然科学（動物、植物、地学）の両者が有機的に結びついた総合博物館とします。

②収集保存、調査研究、展示、普及教育の4つの機能を備え、本県の文化、学術、教育及び生涯学習センターとしての役割を果たします。

③国内外の博物館、研究機関等と緊密な協力体制をとります。

また、文化の森総合公園に建設が予定されている民家資料展示場、植物園等の施設はもちろん、県内の博物館、博物館相当施設、類似施設等と相互協力し、その中核的博物館としての性格をもつものとします。

(2) 第3期中期活動目標の策定の経緯

第3期中期活動目標の策定にあたっては、「県民とともに」を確かなものとするため、使命の再検討を重点的に行った。その結果、新たに「〔連〕県民とのつながりを大切にする博物館」を加えることにより、博物館の発信力を強化して、県民とのコミュニケーションの充実に力を注ぐ方針を明確にすることとした。また、これに伴い、事業区分を再編することにし、「県民協働・参画」を新たに設けることにした。その他、各事業の目標や評価項目、指標等についても、実情を踏まえた点検・評価によって博物館活動のステップアップが図れるよう、見直していった。

(3) 徳島県立博物館の使命 ※ p.2 参照

徳島の自然・歴史・文化の宝箱—県民とともに活動し、成長する博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく体験と学びの場として、県民のみなさんとともに活動し、成長していきます。

〔知〕知と出会う博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての多様な資料や情報をもとに、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

〔探〕地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけます。

〔伝〕未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

〔連〕県民とのつながりを大切にする博物館

博物館は、県民のみなさんと対話を深めながら、ともに活動し、地域の活性化に貢献します。

博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。

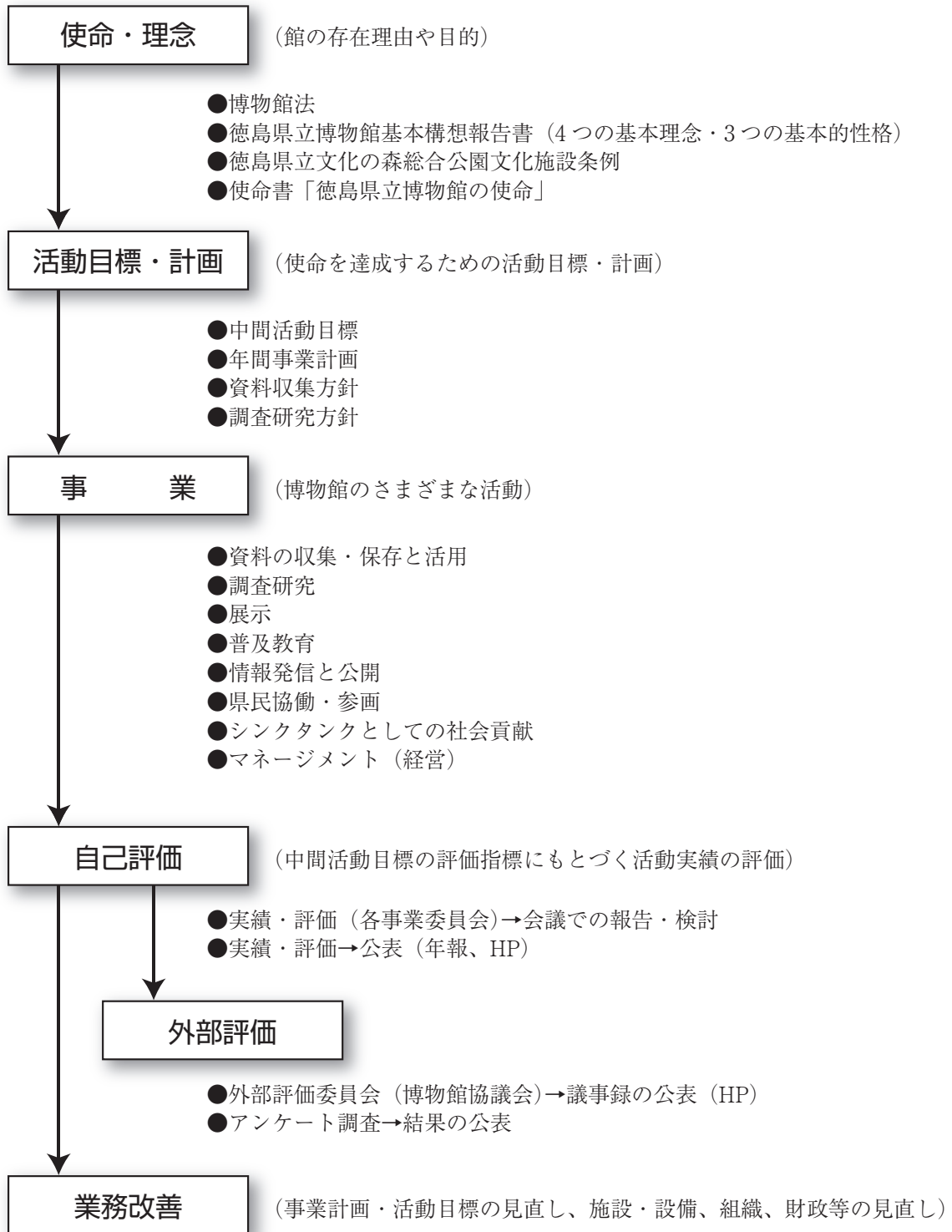
(4) 第3期中期活動目標の推進方法

中期活動目標とは、使命を実現するために、今後5年間（平成26～30年度）の活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに評価を行うとともに、事業改善につなげていくためのものである。その推進にあたっては次の点に留意する。

- ・中期活動目標は、博物館協議会に諮ったうえで公表する。
- ・それぞれの活動目標にもとづき、年度計画を立てて活動を推進する。
- ・年度末には活動実績の評価を行い、その結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させる。
- ・活動実績及び評価の結果について博物館協議会で議論していただき、外部評価意見としてホームページに記載

するとともに、出された意見を次年度以降の活動の改善に役立てる。
 ・活動目標と評価指標・目標値については毎年度見直しを行い、必要があればより適切な形に改める。

中期活動目標の推進手順



(5) 事業別の中期活動目標と評価指標

徳島県立博物館の使命を実現するために行う事業は、次の通りである。

- ・「知」知と出会う博物館：展示、普及教育
- ・「探」地域の魅力を探る博物館：調査研究
- ・「伝」未来にまもり伝える博物館：資料の収集・保存と活用
- ・「連」県民とのつながりを大切にする博物館：情報の発信と公開、県民協働・参画、シンクタンクとしての社会貢献
- ・効率的でバランスのよい運営：マネージメント（経営）

以下では、事業ごとに中期活動目標の項目、評価指標及び目標値などを示す。

①展示

県民のみなさんが楽しく学べ、新しい発見や体験ができる場を創り出します。実物資料や最新の情報に基づき、県民のみなさんとの連携を大切にしながら、徳島及び関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示します。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
1-1 常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数	年間の総観覧者数	40,000人/年	
		観覧者のリピーター率	過去1年以内の利用経験者の占める割合	40%	
		観覧者の満足度	新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%	
		観覧者の満足度	他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%	
		展示改善の実施状況	新しい発見や体験につながる取り組み件数		定期的に展示替えるコーナーは除く
1-2 魅力ある企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数	1回あたりの観覧者数	自然 7,000人 総合 5,000人 人文 3,500人	
		観覧者の満足度	新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%/回	
		観覧者の満足度	他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%/回	
		社会的評価	マスコミの報道件数	5件/回	展示内容が取り上げられた場合
		県外への発信度	県外観覧者の割合	5%/回	
		企画展の検討状況			
1-3 多様な展示の開催促進	企画展以外に特別陳列、部門展示等の多様な展示の開催を進めます。	特別陳列等の開催回数	企画展以外の主催展示の取り組み回数	10回(特1・部4・トピック5)	常設展ロビーにおける資料紹介などの実績があれば算入する。
		特別陳列観覧者数	1日あたりの観覧者数	200人	開催日数の長短の差が大きいため
		観覧者の満足度	新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%/回	特別陳列のみ
		観覧者の満足度	他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%/回	特別陳列のみ
		社会的評価	マスコミの報道件数	5件/回	展示内容が取り上げられた場合
		特別陳列等の検討状況			
1-4 他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展、館外での移動展、パッケージ展示の貸出等により、各種の展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。	文化の森内での共催展の開催回数	博物館占有スペース以外を利用し、当館の関わりが補助的なもの	1回/年	
		移動展等館外での展示の開催回数	文化の森外の博物館等において当館を主催者に含む展示の開催回数	2回/年	「パッケージ展示の貸出数」を含む
1-5 展示解説等の推進	図録や解説書の発行、学芸員や受付案内員による展示解説等により、観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況 展示解説等の実施状況	年間の刊行件数 展示の理解を支援する各種の活動の実施状況		
1-6 県民などとの協働による展示の推進	県民などの力を借りて、より魅力ある展示を目指します。	協働の実施状況			
1-7 常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	将来の常設展の全面リニューアルを目標に、館内での検討を進めるとともに、関係方面の理解が得られるよう努力を継続します。また、全面リニューアルの実現までの間、展示替えに努めます。	リニューアルに向けての進捗状況	リニューアルに向けての協議や施設調査等の取り組み		

②普及教育

徳島の自然や歴史、文化について楽しく体験し、学ぶことができる多様な学習機会を創りだすことにより、学校教育の支援や生涯学習の推進に取り組みます。(使命:「知」知と出会う博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備 考
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	県民のニーズに対応した多様な普及行事を企画し、多様な学習機会を創りだします。また、移動講座等のアウトリーチ活動にも積極的に取り組みます。	普及行事実施回数		70回/年	
		普及行事参加者数		3,000人/年	
		参加者の満足度	事後アンケートにおける満足回答者の割合	満足した者の割合80%	
		アウトリーチ活動数	他館との共催による普及行事(展示を除く)	5回/年	移動展の展示解説1件も1回とする
2-2 学校教育支援事業の推進	学校への資料貸出や出前授業、また博物館での授業や教員研修、職場体験、遠足等を受け入れ、学校教育を支援します。	支援事業案内パンフレット配布状況		県内全教員(小・中・高)	
		出前授業件数		出前授業15件/年	
		資料貸出件数		資料貸出10件/年	
		館での授業件数			
		教員研修件数			
		職場体験件数			
		遠足件数			
		教員・生徒の満足度	出前授業等実施後の満足度	80%	
2-3 普及的記事の執筆推進	身近な自然や歴史、文化に関する理解を手助けするため、ガイドブックの出版や、新聞・雑誌等への解説記事の執筆を進めます。	ガイドブック出版状況		1冊/年	
		普及的記事の執筆数	年報「調査研究事業」本文に掲載されている一般著述数	40件/年	
		博物館ニュース発行回数		4回/年	
2-4 県民との協働による普及行事の推進	県民の力を借りて、より魅力ある普及行事を推進します。	県民との協働による普及行事の実施状況			県民からの協力を受けた行事を含む

③調査研究

徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究及び博物館学的調査研究を、県民のみなさん及び関連機関と連携しながら進め、新たな事実や価値の発見に努めます。また、その成果を博物館の展示や普及教育等の活動へ還元するとともに、地域の魅力を引き出すよう努めます。(使命:「探」地域の魅力を探る博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備 考
3-1 調査研究活動の推進	徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究及び博物館学的調査研究を積極的にすすめます。	課題調査実施状況	課題調査として予算化された研究テーマ	2件/年	
		個別調査研究の実施状況	課題調査以外の研究テーマの実施状況		
3-2 外部研究機関等との連携の推進	他の博物館や大学、研究団体、学会、研究者との共同研究を積極的にすすめます。	共同研究件数	他機関やアマチュア研究者との研究件数	10件/年	人的・予算的規模の大小は問わない
		共同研究プロジェクト件数	上記のうち予算的措置を伴う共同研究の件数	3件/年	科研費プロジェクト等の研究分担を含む
3-3 県民参画型調査研究の推進	博物館の研究活動に県民のみなさんが参画できるようなプロジェクトを企画・実施します。	県民参画型調査の件数		2件/年	
3-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的及び民間の研究助成金等を獲得し、研究活動の推進を図ります。	公的な研究助成金の申請・採択件数	科学研究費補助金など公的機関による競争的研究資金	申請6件 採択1件	科研費プロジェクト等の研究分担を含む
		民間の研究助成金の申請・採択件数			研究分担等を含む
3-5 調査研究成果の公表	博物館の調査研究の成果を学術論文や学会発表、研究報告書の出版、マスコミなどへの資料提供を通じ公表します。	学術的著述数	年報「調査研究」本文の学術的著述の件数	24本/年(査読付き4本/年)	学芸員数×年2本
		学会・研究会での発表件数	学会や研究会での口頭・ポスター発表の件数	24件/年	学芸員数×年2回
		マスコミへの資料提供件数	5-1の資料提供件数のうち調査研究に係わるものの件数	2件/年	

④資料の収集・保存と活用

徳島と徳島に係わりのある地域の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんの協力のもと、様々な手段で継続的に収集します。集めた資料は「みんなの宝」として整理・保管し、未来に伝えます。収集した資料は、調査・研究や展示で利用するほか、他の博物館や研究者などへ積極的に貸し出しや提供を図り、様々な形で活用します。（使命：「伝」未来にまもり伝える博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
収集					
4-1 継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集を進め、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数		H30年度末で521,000点	H25年度末現在で501,751点、H27に51万点の予定
		新規資料増加点数		4,000点/年	H21～25年度の平均増加点数3,954点
		採集資料件数		20件/年	H21～25年度の平均18.2件
		購入資料件数		3件/年	H17年度以降はH24年度の1件のみ
		寄贈資料件数		100件/年	H21～25年度の平均107.2件
4-2 寄託資料の受入の促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託を受け入れます。	寄託資料件数			H25年度末現在で70件
		新規寄託件数		3件/年	H21～25年度の平均は2件
4-3 文献資料の充実	資料を活用するうえで不可欠な文献資料の充実を努めます。	図書冊数	収蔵図書の総冊数（雑誌類を除く）		
		新規受入図書冊数	購入・寄贈図書数	200冊/年	H21～25年度の受入の平均201.8冊
		寄贈		90冊/年	H21～25年度の寄贈の平均91.4冊
		購入		100冊/年	H21～25年度の購入の平均110.4冊
		購入雑誌タイトル数			
保存					
4-4 収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録を進めるとともに、資料を適切に管理し、活用を図るうえで不可欠なデータベースの整備を図ります。	収蔵資料 DB 登録率	(DB 登録点数 / 収蔵資料点数) × 100	50%	
4-5 資料の安全な保存	収蔵庫の点検や資料の燻蒸等により、収蔵資料の安全な保存を図ります。	収蔵庫点検回数		12回/年	収蔵庫あるいは区画ごとにチェックリストを定め実施
		燻蒸回数		3回/年	
4-6 展示室の資料保存環境の改善	展示室における照明や空調を適切に管理するとともに虫菌害の防除に努め、安全な資料の保存環境を確保します。	展示室点検回数		12回/年	展示室あるいは区画ごとにチェックリストを定め実施
4-7 収蔵スペースの確保	収蔵資料の増加に伴い、不足しがちな収蔵スペースの確保のための工夫をします。	収蔵スペースの状況			
活用					
4-8 展覧における利用促進	収蔵資料の展覧における利用・公開の促進を図ります。	展示利用点数	寄託資料の利用も含む		
		常設展 常設展以外の展示			
4-9 貸出等の促進	貸出や提供などによる収蔵資料の活用を図ります。	資料特別利用等件数	学校貸出（2・2学校への資料貸出件数を参照）を除く	60件/年	H21～25年度の平均59件

⑤情報の発信と公開

博物館活動についての様々な情報をより多くの人に知ってもらい、博物館を有効に活用できるように努めます。多様なメディアを通じて情報を発信し、積極的に県民との対話を進めます。（使命：「連」県民とのつながりを大切にする博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
5-1 マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供するよう努めます。	資料提供件数	マスコミに対して資料提供を行った数（月間催し物案内を含む）	30件/年	
		マスコミ取材報道件数	新聞等が取材し、報道した数		印刷メディアに限る（新聞・雑誌等）
		マスコミ出演等件数	学芸員がマスコミに出演した数	15件/年	
5-2 広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段の新規開拓状況	新たに開拓した広報手段		
		広報関係出版物発送状況	年間催し物案内、月間催し物案内、ニュース等の発送件数及び発行回数		
		Eメールサービス登録件数	年度末時点のEメールサービスの登録件数	250人/年	

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備 考
5-3 インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HP総アクセス数	HP（全ページ）へのアクセス総数	6,500,000件/年	
		新規コンテンツ数	新たに作られたページの数	30ページ/年	
		内容の更新頻度	内容が更新された回数	月3回以上	
		双方向的な情報交換の推進に向けた検討			

⑥ 県民協働・参画

県民のみなさんとの協働による展示や普及行事、県民参画型の調査、友の会や公募ボランティアによるイベントなどを推進することにより、地域の活性化に貢献します。（使命：「連」県民とのつながりを大切にする博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備 考
6-1 友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	友の会会員数	友の会（個人・家族）の会員総数	400人/年	
		個人会員			
		家族会員			
		会員の継続率	当該年度会員に占める前年度会員の割合	前年度会員の70%	
		個人会員			
		家族会員			
		友の会行事実施回数		6回/年	括弧内に参加者数を並記
		展示利用率	観覧者として入館した会員の割合	50%	
		個人会員			
		家族会員			
		延べ利用者数	観覧者として入館した会員の延べ人数	会員数	
		個人会員			
家族会員					
6-2 公募ボランティアの協働推進	県民参画による行事を推進します。	公募ボランティア登録者数			
		公募ボランティア活動回数	会合等を含む活動の延べ日数		
		企画運営型行事等件数	公募ボランティアによる企画運営型行事の数		科学体験フェスティバルを含む
		普及行事支援件数	友の会による普及行事支援の数		フェスティバルを含む
6-3 各種事業での県民協働の推進	協働による魅力ある展示や普及行事及び調査研究活動を推進します。	県民などとの協働による展示の実施状況			1-6の再掲
		県民との協働による普及行事の実施状況			2-4の再掲。県民からの協力を受けた行事を含む
		県民参画型調査の件数		2件/年	3-3の再掲

⑦ シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じて様々な資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し、県民の生涯学習を支援するとともに、自治体や地域社会、学会等の事業推進に貢献します。（使命：「連」県民とのつながりを大切にする博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備 考
7-1 レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか、手紙や電話、メールでの質問等に親切に対応し、利便性を高めるよう努めます。	レファレンス件数	レファレンス記録DBにおける記録件数	500件/年	
		周知状況	レファレンス業務の周知取り組み状況		
7-2 講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研究会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等件数	小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数		小中高への出前授業は「2-2 出前授業件数」を参照
		講演会等の受講者数			

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
7-3 自治体及び各種機関・団体への専門知識の提供	自然環境保全や文化財保護など自治体やその他の機関・団体の委員会委員やアドバイザーとして、専門知識の提供を行います。	委員等受託件数 機関・団体等への協力状況	学会・博物館関連団体の委員等を除く		
7-4 大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受託、学生・院生の研究指導、博物館実習生の受け入れ、学芸員養成科目の開講等により、大学教育に寄与します。	非常勤講師受託数 学生・院生指導人数 博物館実習生受入人数 学芸員養成科目受託者数	3科目(博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論)の延べ受託者数	20人/年	
7-5 学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受けるなど、学会等の活動に貢献します。	学会等開催数 学会等役員受託数 学会等事務局受託数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数 学会・研究会における役員・委員等の受託数 当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		
7-6 博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として、博物館施設への助言を行うとともに、県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携促進のために尽力します。	博物館関連団体委員等受託数 博物館関連団体加入数 連携事業等の実施数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数 当館が加入している博物館関連団体の数 移動展・移動講座や他館との共催事業、資料保存等の支援の実施回数		

⑧ マネージメント（経営）

利用しやすい博物館とするための施設の改善、博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討、職員の意識改革と資質の向上、適切な博物館評価システムの確立等により、博物館活動の改善と活性化、利用者の増大を図ります。
(使命：効率的でバランスのとれた運営)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
8-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	わかりやすい案内表示、バリアフリー化や安全対策等に配慮し、高齢者、障がい者や外国人にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検・改善を行います。また、講座室の貸し出しを行い、博物館利用の機会を増やします。	点検・改善の状況			
8-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	博物館活動の活性化と広報の強化により、県内及び近隣地域での博物館の認知度を高め、博物館利用者の範囲の拡大と利用者増につけます。	県民の博物館利用状況 県外利用者の割合			
8-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等による様々な博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について検討します。	ボランティア導入事業件数			
8-4 設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する県及び県教育委員会の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。また、各種外部資金の獲得に努め、より効率的な運営を目指します。	博物館予算の状況 外部資金獲得数	申請数、獲得数		
8-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震・津波等の自然災害や火災、盗難、けが人の発生等に備え、文化の森他館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。また、県内で発生する災害に対して、県内博物館どうしの救援態勢や相互援助の体制を整備するよう検討します。	防災訓練の実施状況 危機管理体制の整備状況 地震、津波等広域災害時の救援体制確立	収蔵庫の耐震化措置		
8-6 職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の社会的役割及び当館の使命を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう、意識改革と資質の向上を図ります。	取り組み状況			
8-7 博物館評価システムの構築	博物館活動の中期活動目標に基づく自己点検評価、博物館協議会による外部評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを確立するとともに、求館者アンケートを活用して博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況 自己点検評価の状況 外部評価の状況			

2. 26年度実績と自己評価

(1) 展示

●中期活動目標及び26年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	24年度実績	25年度実績	26年度実績
1-1 常設展の改善・充実	常設展観覧者数	40,000人/年	42,545人	43,155人	37,945人
	観覧者のリピーター率	40%	56% (7～8月)	53% (7～8月) 55% (10～11月)	33% (8月)
	観覧者の満足度 新たな知識	80%	90% (7～8月)	92% (7～8月) 95% (10～11月)	92% (8月)
	他人への推薦	80%	91% (7～8月)	88% (7～8月) 88% (10～11月)	90% (8月)
	展示改善の実施状況		3件 (部門展示室、ロビー、キッズ・チャレンジコーナー)	2件 (ロビー、キッズ・チャレンジコーナー)	2件 (ロビー、キッズ・チャレンジコーナー)
1-2 魅力ある企画展の計画的開催	企画展観覧者数	自然 7,000人 総合 5,000人 人文 3,500人	17,458人 (ほねほねワールド)、4,989人 (日本のわざと美)	4,087人 (天下の台所大坂と徳島)、9,465人 (エイリアンスピーシーズ)	4,651人 (いただきま～す) 9,673人 (まんまるワールド) 15,525人 (四国へんろ展)
	観覧者の満足度 新たな知識	80%/回	95% (ほねほねワールド)、96% (日本のわざと美)	89% (天下の台所大坂と徳島)、90% (エイリアンスピーシーズ)	90% (いただきま～す) 90% (まんまるワールド) 93% (四国へんろ展)
	他人への推薦	80%/回	78% (ほねほねワールド)、93% (日本のわざと美)	77% (天下の台所大坂と徳島)、80% (エイリアンスピーシーズ)	84% (いただきま～す) 85% (まんまるワールド) 91% (四国へんろ展)
	社会的評価	5件/回			いただきま～す11 まんまるワールド13 四国へんろ展19
	県外への発信度	5%/回			3% (いただきま～す) 15% (まんまるワールド) 10% (四国へんろ展)
	企画展の検討状況			26年度以降の計画の協議	27年度以降の計画の協議
1-3 多様な展示の開催促進	特別陳列等の開催回数	10回 (特1・部4・トピック5)	19回 (特1・部5・ト5・他8、江戸時代の絵師4、ロビー1、阿波踊り屏風1、三番叟1)	16回 (特1・部5・ト5・他江戸時代の絵師5)	19回 (特1・部6・ト6・他江戸時代の絵師4、みんなで創るユニバーサルミュージアム事業2)
	特別陳列観覧者数	200人/日	342.2人 (海からどんぶらこ)	257人 (みんなの化石コレクション)	140人 (国立公文書館所蔵資料展)
	観覧者の満足度 新たな知識	80%/回	96% (海からどんぶらこ)	90% (みんなの化石コレクション)	80% (国立公文書館所蔵資料展)
	他人への推薦	80%/回	90% (海からどんぶらこ)	85% (みんなの化石コレクション)	データなし (国立公文書館によるアンケートのため)
	社会的評価	5件/回	海からどんぶらこ2	みんなの化石コレクション4	国立公文書館所蔵資料展5
	特別陳列等の検討状況			26年度以降の計画の協議	27年度以降の計画の協議

70 中期活動目標と自己評価

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	24年度実績	25年度実績	26年度実績
14 他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展の開催回数	1回/年	1回 (鳥居龍蔵とアイヌ-北方へのまなざし-)	2回 (鳥居龍蔵の国内調査-沖縄・南九州-、文化の森人権啓発展)	4回 (よみがえる縄文世界-鳥居龍蔵の信州調査-、博物館Vキングみんなで創るユニバーサルミュージアムパネル紹介展、みんなで創るユニバーサルミュージアム事業紹介展、文化の森人権啓発展)
	移動展等館外での展示の開催回数	2回/年	4回 (美波町日和佐図書・資料館、あわぎんホール、アスティ徳島、徳島県教育会館)	2回 (美波町由岐公民館、美波町日和佐図書館)	2回 (アミコ6階、美波町日和佐図書・資料館)
15 展示解説等の推進	図録等の発行状況		企画展図録2、ピーチコーミングハンドブック1、解説副読本1	企画展図録2	企画展図録3、特別陳列図録1
	展示解説等の実施状況		企画展解説3回 企画展記念講演会2回 企画展関連行事(ワークショップ等)5回 クイズラリー(第2・4土)24回 文化庁文化芸術振興費補助金による実演と公開展示1回 常設展示室活用イベント4回 部門展示解説4回 セルフガイドの設置	企画展解説5回 企画展記念講演会1回 企画展関連行事(外来生物を探そう等)2回 クイズラリー24回 常設展示室活用イベント4回 部門展示解説5回 セルフガイドの設置	企画展示解説20回 企画展記念講演会1回 企画展関連行事8回 クイズラリー24回 常設展示室活用イベント4回 部門展示解説7回 セルフガイドの増設1件
16 県民などとの協働による展示の推進	協働の実施状況		「海からどんぶらこ」 「100均グッズで夏休みの自由研究・工作にチャレンジしよう」	「みんなの化石コレクション」	「博物館Vキング-みんなで創るユニバーサルミュージアム-パネル紹介展」、「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業紹介展」、「浜辺に揺りあがる焼き物たち」、「タンポポ調査が始まります」2回
17 常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	リニューアルに向けての進捗状況		リニューアルした博物館の視察(国立民族学博物館、愛媛県総合科学博物館、海陽町立博物館、阿波木偶資料館)部門展示室(人文)、ロビーの案内表示、キッズ・チャレンジコーナーの更新	リニューアルした博物館への聞き取り調査(北九州市立いのちのたび博物館)ロビーの案内表示、キッズ・チャレンジコーナーの更新	リニューアルした博物館への聞き取り調査(京都国立博物館)、みんなで創るユニバーサルミュージアム事業による案内表示等の試作、キッズ・チャレンジコーナーの更新

●自己評価

(1-1)

- ・常設展観覧者数は37,945人で、平成25年度を大きく下回り目標値に達しなかった(25年度比5,210人減)。過去3年間、観覧者数を保持していた夏季の一般家庭の節電推進のための常設展観覧料の無料(7月19日～8月31日)の時期に、台風の襲来等天候不良のため観覧者数が伸び悩んだこと(25年度比2,031人減)、夏季、秋季、冬季のイベントで観覧者数が減ったことが大きな要因と考えられる。無料期間やイベントに頼らない、魅力ある常設展の在り方を早急に検討する必要がある。
- ・夏季アンケート(8月12日～8月17日)によれば、来館者のうち県外在住者は29%であった。盆の期間が最も県外在住者の割合が大きい。
- ・夏季の無料期間のうち、盆の期間(8月12日～8月17日)のリピーター率は33%で、目標値を下回った。県外在住者の割合が大きいこと、天候不良が関係していると考えるが、今後リピーターを増やす工夫が必要である。
- ・新たな発見や知識・経験が「あった」とする回答は92%で、25年度と同様であった。
- ・常設展を他の人に見るようすすめたいと「思う」観覧者は90%で、前年度より率がわずかにあがった。
- ・「キッズ・チャレンジコーナー」の感想を聞いたところ、「とてもよい」が25%(25年度29%)、「よい」が49%(25年度51%)であった。大旨好評であるが、幼児とその保護者以外の観覧者の関心は低い。今後、幼児以外の観覧者を対象とした体験コーナーを考える必要がある。

(1-2)

- ・新規の評価指標では、自然、人文の総合的な展示の促進を考え、あらたに「総合」の目標値(5,000人)を設定した。観覧者数は、「いただきま〜す」は4,651人であり、残念ながら目標値(5,000人)に届かなかった。「まんまるワールド」は9,673人であり、目標値(7,000人)を上回った。「四国へんろ展」は15,525人であり、目標値(3,500人)を大きく上回った。
- ・新たな発見や知識・経験が「あった」とする回答は、「いただきま〜す」では90%、「まんまるワールド」では90%、「四国へんろ展」では93%と、目標値を上回った。
- ・この展示を他の人に見るよう勧めたいと「思う」との回答は、「いただきま〜す」では84%、「まんまるワールド」では85%、「四国へんろ展」では91%で、いずれも目標値に達した。
- ・「まんまるワールド」では台風等による天候不良にもかかわらず、多数の観覧者があった。「四国へんろ展」では、予算規模に準じて通常よりも高い観覧料であったが、目標値の4倍以上の観覧者数となった。
- ・新規の評価指標では多様化するマスコミの状況を鑑み、展示内容が報道された件数を「社会的評価」とした。「いただきま〜す」で11件、「まんまるワールド」は13件、「四国へんろ展」では19件であった。いずれも目標値を上回り、社会的評価は高かったと考える。
- ・「いただきま〜す」では、学校給食を取り上げたことへの好意的な意見が多かった。
- ・「まんまるワールド」では、動物園では見られない種類の動物が見られることや、接近して動物を観察することができることへの好意的な意見が多かった。
- ・「四国へんろ展」では、普段見ることのできない寺宝、文化財が多数見られることへの好意的な意見が多かった。
- ・テーマとタイミングがうまくマッチすれば、企画展観覧者の大量獲得が可能になるが、容易ではない。したがって、娯楽性、新規性、学術性等の諸要素を織り交ぜた計画的な運営が必要である。今後も多くの観覧者の満足を得るよう、展示内容の工夫や効果的な広報に努力したいと考える。

(1-3)

- ・特別陳列等の開催回数は19回で、目標値を上回った。
- ・20年度から、多様な資料を公開していくことなどを目的として、部門展示(人文)の展示替えに自然史のテーマも組み込んでいる。実績として6回行った。
- ・トピックコーナーでは、即応性、話題性を重視した展示を行っている。6件の展示を行った。
- ・阿波の近世絵画の展示替えを4回行った。
- ・多様な展示の開催促進という目標には達したが、観覧者数の増加にはつながらなかった。今後、内容や広報の仕方を工夫する必要がある。
- ・特別陳列「国立公文書館所蔵資料展」の観覧者数は1日あたり140人(目標値200人)と、目標値を下回った。観覧者の満足度は、共催の国立公文書館によるアンケートにおいて、大変良かった、あるいは良かったとの回答

が80%であった。

・「社会的評価」は「国立公文書館所蔵資料展」が5件で、目標値に達した。

(1-4)

・移動展等の件数は2回で、目標値に達した。新たな試みとして、当館の広報をかねての移動展「アンモナイト展」をアミコ6階（徳島市立図書館とそごうの間の通路）で開催した。観覧者数は8,512人で、当館での催し物についての広報に若干の効果が見られた。また、パッケージ貸し出しとして、美波町日和佐図書館・資料館での「続空から見た徳島」への貸し出しがあった。今後も、他機関の協力を得て、当館の資料公開を促進する移動展の開催を試みる予定である。

(1-5)

・毎年恒例となっている常設展活用イベント（博物館Vキング）は、公募ボランティアとの協働で「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」の一環として開催した。ワークショップで地域の多様な立場の人から得た意見を参考に、展示を楽しむための体験キットを試作、公表した。25年度に比べて参加者数は減ったが、展示を観覧した参加者の割合は増え、常設展活用の目的は達したと考える。

・そのほか、常設展活用イベント4回（「食べる！文化の森フェスティバル」、「文化の森サマーフェスティバル」、「文化の森大秋祭り!!」、「文化の森ウィンターフェスティバル」）を行った。26年度は、いずれも文化の森全体のイベントとして開催された。博物館への参加者数は、「食べる！文化の森フェスティバル」以外のイベントにおいて減少した。今後も他館と切磋琢磨しながら、博物館の特徴を活かしたより魅力的なイベント内容を工夫する必要がある。

・企画展の展示解説を20回、特別陳列の展示解説を1回、部門展示の展示解説を7回行った。

企画展「いただきま〜す」では記念講演会を1回、関連行事を4回、企画展「まんまるワールド」では2回の関連行事を予定していたが天候不良のため中止となった。「四国へんろ展」では関連行事を4回開催した。

(1-6)

・ロビー展示「博物館Vキングーみんなで創るユニバーサルミュージアムーパネル紹介展」、「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業紹介展」、トピックコーナー「浜辺に揺りあがる焼き物たちービーチコーミングでの収集品からー」、「タンポポ調査が始まります」2回を、県民と協働し開催した。

(1-7)

・「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」に取り組み、利用者の意見を参考に文化の森3館棟入口、総合案内ロビー、サービス案内、階段、受付ロビー周辺の表示を試作、設置した。また、展示解説板、触察教材を試作した。これらのいくつかは、開館25周年のフレッシュアップ事業、安全安心の文化施設モデル事業として正式に更新する予定である。その他、「キッズ・チャレンジコーナー」の内容の更新、セルフガイドの増設など、予算的措置を必要としない展示更新を行った。今後も随時行っていく予定である。

(2) 普及教育

●中期活動目標及び26年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	24年度実績	25年度実績	26年度実績
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数	70回/年	77回	88回	95回
	普及行事参加者数	3,000人/年	8,828人	11,028人	9,787人
	参加者の満足度	満足した者の割合80%	93.9% (17行事)	94.2% (13行事)	93.8% (17行事)
	アウトリーチ活動数	5回/年	4回	4回	4回
2-2 学校教育支援事業の推進	支援事業案内パンフレット配布状況	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)
	出前授業件数	出前授業15件/年	38件	38件	47件
	資料貸出件数	資料貸出10件/年	8件	9件	11件
	館での授業件数		14件	12件	17件
	教員研修件数		9件	4件	7件

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	24年度実績	25年度実績	26年度実績
2-2 学校教育支援事業の推進	職場体験件数		5件	3件	8件
	遠足件数		108件	93件	97件
	教員・生徒の満足度	80%	97%	96.3%	100%
2-3 普及的記事の執筆推進	ガイドブック出版状況	1冊/年	0冊	0冊	0冊
	普及的記事の執筆数	40件/年	60件	58件	78件
	博物館ニュース発行回数	4回/年	4回	4回	4回
2-4 県民との協働による普及行事の推進	県民との協働による普及行事の実施状況		7件（友の会2件、公募ボランティア2件ほか）	11件（友の会2件、公募ボランティア2件ほか）	6件（友の会2件、公募ボランティア1件ほか）

●自己評価

(2-1)

- ・普及行事の実施回数は、平成25年度の88回から95回に増えたものの、参加者数は9,787人で、25年度より減少した。回数が増えたのは、関連行事の多い企画展を開催したことが影響している。参加者数の減少は、「文化の森大秋祭り!!」、「文化の森ウィンターフェスティバル」での参加者数が25年度を大幅に下回ったことが影響している。また、8月の台風による7行事の中止も参加者数減の要因である。
- ・普及行事は、シリーズ名やその内容を見直し、12シリーズで実施した。分野やテーマによって参加者数は異なるが、全体を通じて、屋外で実施する行事、工作・調理等をともなう行事には人気が集まる傾向がある。
- ・普及行事の参加者数9,787人のうち、参加者数が多いのは「食べる！文化の森フェスティバル」(2,211人)、「文化の森サマーフェスティバル」(1,722人)、「文化の森大秋祭り!!」(1,681人)、「文化の森ウィンターフェスティバル」(1,178人)である。「食べる！文化の森フェスティバル」では25年度を上回ったが、それ以外では減少している。ただし、過去3年と比較すると、とくに少ない数字ではない。
- ・普及行事への参加者の満足度は、これまで同様に高く、17行事で行ったアンケート結果では、93.8%が満足していると回答しており好評であった。
- ・移動講座等文化の森以外の施設で実施するアウトリーチ活動は、「海部自然・文化セミナー」として実施した4回で、目標値に達していない。なお、徳島大学科学体験フェスティバルでの出展を予定していたが、台風のため中止となった。

(2-2)

- ・26年度の出前授業数は47件で、25年度の38件からさらに増加し、目標値の15件も大幅に上回った。学校からの出前授業の依頼は、近年増加傾向にある。その内訳は、徳島市の学校が16件と多く、次いで吉野川市、鳴門市、阿南市の学校が多い。これらの4市が大半を占めているものの、三好市から3件、那賀町から2件、海陽町から1件と遠方からの利用もあり、県内への広がりが感じられる。校種別では、小学校（県立聴覚支援学校小学部を含む）が40件、中学校が4件、高等専門学校が1件となっている。とくに小学校への出前授業の需要が多い理由として、学習指導要領や教科書等に博物館との積極的な連携・活用が明記されているため、学校現場においても博物館との連携や活用が求められていると考えられる。一方で、もともとの需要が少ない中学校、高等学校等との出前授業等での連携を検討する必要がある。出前授業の内容で多かったのは、「昔の道具とくらし」、「大昔のくらし」、「昆虫」、「水生生物」、「大地のつくりと変化」に関するものである。その他の分野やテーマについても、学校側に対して博物館との連携の方法を提示していく必要がある。出前授業等での「総合評価」については、教員・生徒の満足度は100%で高評価を得ている。
- ・館内での授業も出前授業と同様、増加傾向にあり、25年度より多い17件であった。
- ・資料の貸出件数は11件であり、出前授業件数や館内での授業件数が増加傾向であるのに対し、大きな変化はみられない。
- ・「教員研修」と「職場体験」の実績は、それぞれ7件と8件であり、いずれも25年度より増加した。26年度は、25年度に引き続き「教員のための博物館の日」を教員研修として実施した。この行事が契機となり出前授業の依頼を受けたケースがあり、博物館活動の広がりにおいて一定の効果が認められる。

74 中期活動目標と自己評価

・「遠足」については97件で、25年度の93件より若干増加した。

(2-3)

・普及的記事の執筆数は78件で、目標値の40件を大幅に上回った。今後も機会あるごとに執筆を心がけていきたい。
また、20年度から「こども新聞（徳島新聞夕刊）」の連載に協力しており、26年度は22本の記事が掲載された。
・近年、ガイドブックを出版できていない。予算面、企画面の双方から検討を要する。

(2-4)

・「食べる！文化の森フェスティバル」と「文化の森大秋祭り!!」において、博物館友の会との協働によるブースを設置し、友の会会員とともに運営した。
・イベントボランティアを公募し、「文化の森ウィンターフェスティバル」においてボランティアスタッフとの協働により行事を実施した。
・普及行事の内、「化石を探そう [淡路島]」、「漂着物を探そう!」、「由岐歴史散歩」の3行事を県民（ボランティア等）との協働により実施した。今後も、県民との協働による行事運営の方法を模索したい。

(3) 調査研究

●中期活動目標及び26年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	24年度実績	25年度実績	26年度実績
3-1 調査研究活動の推進	課題調査実施状況	2件/年	2件 (外部との共同2)	3件 (外部との共同1)	2件 (外部との共同1)
	個別調査研究の実施状況				
3-2 外部研究機関等との連携の推進	共同研究件数	10件/年	12件	15件	15件
	共同研究プロジェクト件数	3件/年	4件	6件	5件
3-3 県民参画型調査研究の推進	県民参画型調査の件数	2件/年	1件	3件	4件
3-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的な研究助成金の申請・採択件数	申請6件・採択1件/年	申請2・採択1 (継続1)	申請7・採択3 (継続2)	申請6・採択0 (継続4)
	民間の研究助成金の申請・採択件数		申請1・採択1	申請1・採択1	申請1・採択1
3-5 調査研究成果の公表	学術的著述数	24本/年 (査読付き4本/年)	33本 (査読付き9)	38本 (査読付き10)	32本 (査読付き8)
	学会・研究会での発表件数	24件/年	16回	15回	21回
	マスコミへの資料提供件数	2件/年	4件	2件	2件

●自己評価

(3-1)

・平成26年度は、課題調査として「祖谷地方の在来作物—保全と活用に向けて—」、「徳島県のタンポポの分布調査」の2件を実施した。このうち、「祖谷地方の在来作物」は外部との共同研究として行った。
・分野別に調査研究を実施し、それぞれ成果を得た。
・学芸員相互の情報交換や研究資質向上を図るため、学芸員による館内公表会（セミナー）を5回実施した。

(3-2)

・26年度は、他機関等の研究者との共同研究数は15件で、目標値に達した。
・共同研究プロジェクトとは、他機関や研究者等との共同研究のうち、予算的措置を伴う共同研究のことを指す。文部科学省科学研究費補助金による「化石から探る現生種貝類の起源」、「四国遍路の学際的総合研究：地域資料によるその実態解明と国際比較」と、文化庁補助金による「『阿波木偶箱廻し』調査・伝承推進事業」、「徳島県海部郡牟岐町牟岐浦出羽島伝統的建造物群保存対策調査事業」、「タンポポの分布調査」の5件がこれにあたり、目標を達成した。

(3-3)

- ・26年度の県民参画型調査については4件で、目標値に達した。継続している漂着物の調査、アサギマダラのマーキング調査、タンポポ調査に加え、地域の多様な立場の人が参画した「みんなで創るユニバーサルミュージアム」事業（文化庁補助金による）を実施した。

(3-4)

- ・26年度は、文部科学省及び日本学術振興会による科学研究費補助金（科研費）は5件（基盤研究（C）4件、若手研究（B）1件）の申請を行った。
- ・農林水産省による農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業への申請を1件行った。
- ・26年度は、科研費等の公的研究助成金の申請数が6件で、25年度に引き続き目標値に達したが、新規採択はなかった。なお、研究代表者として2件（若手研究（B）「古生物タイプ標本における3Dデジタルアーカイブの構築に関する研究」、「トコジラミ上科半翅類に見られる特異的な交尾様式の進化パターンと機能の解明」）、研究分担者として2件（基盤研究（C）「化石から探る現生種貝類の起源」、「四国遍路の学際的総合研究：地域資料によるその実態解明と国際比較」）の研究を継続して行った。科研費の継続件数が合計4件で、費用のかかる研究の継続を実現している。また、近年は研究分担者として共同で行う研究が増えつつあり、当館のネットワークの拡がりがかがえる。今後も継続して科研費申請を進めるとともに、科研費以外の補助金についても、情報を収集して積極的に申請し、獲得を目指したい。
- ・研究課題については、博物館の特性を生かした課題（たとえば分野の枠を越えた共同研究や、博物館学に関連したものなど）を設定するなどの工夫が必要である。
- ・民間の研究助成金として、一般財団法人全国科学博物館振興財団（平成27年度全国科学系博物館活動等助成）による「市民参加型調査のタンポポ調査・徳島2015の実施」が採択された。

(3-5)

- ・学術論文数は32本であり、目標値を大幅に上回った。
- ・学会・研究会での発表は21件で、23、24年度よりも増加したが、目標値に達しなかった。自然史分野において外部研究者と共同で発表する機会が増えている一方、他の業務の増加や旅費の削減等により、学会等への参加が減っている。
- ・マスコミへの資料提供は、「「みんなで創るユニバーサルミュージアム」発表会の開催について」、「「みんなで調べる徳島県のタンポポータンポポ調査・西日本2015—」の実施について」の2件であり、目標値に達した。これらは調査研究の成果を公表したものであり、今後もこのような調査成果を県民に積極的に還元する工夫が必要である。

(4) 資料の収集・保存と活用

●中期活動目標及び26年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	24年度実績	25年度実績	26年度実績
収集						
4-1	継続的な資料の収集	収蔵資料点数	H30年度末で 521,000点	496,284	501,751	515,002
		新規資料増加点数	4,000点/年	2,536	5,467	13,251
		採集資料件数	20件/年	20	18	12
		購入資料件数	3件/年	1	0	5
		寄贈資料件数	100件/年	113	118	82
4-2	寄託資料の受入の促進	寄託資料件数		67	71	69
		新規寄託件数	3件/年	2	4	2
4-3	文献資料の充実	図書冊数(雑誌類除く)		13,314	13,416	13,655
		新規受入図書冊数	200冊/年	232	102	130

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	24年度実績	25年度実績	26年度実績
収集						
4-3	文献資料の充実	寄贈	90冊/年	56	33	42
		購入	100冊/年	176	69	88
		購入雑誌タイトル数		42	42	40
保存						
4-4	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料DB登録率	50%	46.9	47.3	47.9
4-5	資料の安全な保存	収蔵庫点検回数	12回/年	自然3回 人文3回	自然8回 人文12回	自然10回 人文12回
		燻蒸回数	3回/年			3回 (燻蒸庫2+全室1)
4-6	展示室の資料保存環境の改善	展示室点検回数	12回/年			3
4-7	収蔵スペースの確保	収蔵スペースの状況				
活用						
4-8	展覧における利用促進	展示利用点数		1,779	4,281	2,477
		常設展		487	3,614	1,120
		常設展以外の展示		1,292	667	1,357
4-9	貸出等の促進	資料特別利用等件数	60件/年	67	71	62

●自己評価

(4-1)

- ・収蔵資料点数は、平成25年度より13,251点増え、目標値の4,000点/年を大幅に上回った。1,000点以上増加した分野は、動物（昆虫）と植物であり、昆虫では1万点以上増加している。
- ・採集資料件数は25年度より6件少なく、目標値に達しなかった。
- ・26年度は、5件の資料を購入した。
- ・寄贈資料件数は82件で、目標値の100件/年を下回った。

(4-2)

- ・新規寄託は2件で、目標値に達しなかった。

(4-3)

- ・図書・雑誌については、予算などの状況に大きく左右されるため、特に目標値は定めていない。しかし、図書・雑誌は博物館の重要な資料の一部であり、調査研究や展示、普及教育活動などの状況の表れでもあるため、評価指標として取り上げている。
- ・新規受入図書冊数は、25年度に比べ、寄贈・購入ともに少数だが増加した。
- ・購入雑誌タイトル数は、価格高騰と予算削減のため25年度と比べ2タイトル減少した。

(4-4)

- ・収蔵資料のデータベースへの登録率は、記録を取り始めた16年度には40%であった。18年度から増加しはじめ19年度以降、目標値の50%にわずかに届かないレベルで推移している。25年度に比べ、登録率は微増したが、目標値には届いていない。
- ・国立科学博物館のS-Net（サイエンスミュージアムネット）・GBIF事業を受け、昆虫及び植物標本の整理・登録作業を進めた。これにより標本整理・資料データの登録件数が増大した。

(4-5)

- ・収蔵庫の点検は、25年1月からチェックリストに基づき実施している。収蔵庫あるいは収蔵庫内の区画ごとに資料の安全な保管の強化に努めており、26年度以降、目標値を12回/年と定めた。自然課では目標値にわずか

に達しなかったが、年々回数は増加し、定期点検は定着してきている。

- ・資料の安全な保存のため、収蔵庫内の耐震対策を検討し、生物収蔵庫の一部の棚において落下防止の耐震ベルトを設置した。
- ・26年度は、3回の燻蒸を行った。この内、1回は歴史民俗収蔵庫及び生物収蔵庫の全室密閉燻蒸を実施した。
- ・害虫トラップなどに関する管理表を作成し、情報を一元化することによって、適正な時期・場所にトラップを設置できるよう改善した。これにより、効果的な防虫が期待される。

(4-6)

- ・常設展示室内の空調は温度設定のみ可能であり、湿度のコントロールができない。とくに近年は省エネルギー化のため、空調運転時間が減少しており、カビの発生が懸念される。さいわい、現時点ではカビの発生は確認されていない。外気温が上昇する夏期などは、設備調整の他、照明を調整するなどして適宜温湿度の管理を行った。また、常設展示室の定期点検について、チェックリストを作成し、試行的に3回の点検を行った。26年度は、新たな計測機器を導入することで、より精度の高い計測が可能となった。27年度には、これらの予備的点検をふまえ、系統的かつ恒常的な点検を開始する予定である。
- ・文化の森総合公園害虫等駆除及び防除業務は、これまでも実施していたが、26年度からは、検査領域を拡大し、常設展示室にもトラップを設置した。これにより、文化財害虫の侵入状況についても明確にし、適切な防虫対策を実行することが可能となった。
- ・調湿剤であるアートソープの調湿能力の経年劣化が懸念されたため、現在の調湿能力の状況を再確認し、適切な使用について検討した。
- ・より高性能のデータロガーを購入し、企画展で実際に使用した。これにより、精度の高い計測が可能となり、資料に即した適正な保存環境の構築が可能となった。

(4-7)

- ・資料の増加に伴い、収蔵スペースが減少してきている。収蔵スペースを確保するために、置き場所の変更や収納の高密度化、収蔵ケースや容器の工夫などが必要であるが、予算削減や人員削減により進んでいるとはいえない。資料の受け入れは慎重に行うとともに、引き続き収蔵庫定期点検を実施することで、具体的な対策を考えていきたい。

(4-8)

- ・収蔵資料の活用状況を把握するための指標として、新たに展示における利用の点数（常設展における利用と常設展以外の展示における利用）を盛り込んだ。26年度は常設展（部門展示やトピックコーナーなど）において1,120点、常設展以外の展示（企画展や特別陳列、移動展）において1,357点の資料を利用した。展示で利用された館蔵資料は、25年度に比して、常設展以外では600点以上増加したが、常設展では2,000点以上減少している。これは、25年度に、部門展示「カブト・クワガタ展」で3,238点の利用があったことによるもので、多数の資料点数を要する昆虫分野の展示の有無によるところが大きい。

(4-9)

- ・収蔵資料活用の指標の一つとして、従来より資料特別利用等件数を設けている。これは他館への展示のための貸し出しや研究者向けの資料の貸し出し、マスコミや出版社への画像の提供などを含んでいる（学校への貸し出しは含んでいない。これについては[2]普及教育を参照のこと）。26年度は62件で、25年度より9件減少したが、目標値をわずかに上回った。

(5) 情報の発信と公開

●中期活動目標及び26年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	24年度実績	25年度実績	26年度実績
5-1 マスコミへの資料提供等の推進	資料提供件数	30件/年	32件	33件	28件
	マスコミ取材報道件数		114件	106件	125件
	マスコミ出演等件数	15件/年	15件	13件	23件
5-2 広報活動の強化	広報手段の新規開拓状況		チラシやポスターの有効な配布	チラシやポスターの有効な配布	チラシやポスターの有効な配布
	広報関係出版物発送状況				
	年間催し物案発送件数(発送回数)		673件(1回)	664件(1回)	651件(1回)
	月間催し物案内発送件数(発送回数)		各92件(12回)	各89件(12回)	各89件(12回)
	博物館ニュース発送件数(発送回数)		各1,211件(4回)	各1,202件(4回)	各1,183件(4回)
	Eメールサービス登録者数	250人/年	317人	331人	342人
5-3 インターネットによる情報発信の推進	HP総アクセス数	6,500,000件/年	6,402,031件	6,806,418件	8,902,900件
	新規コンテンツ数	30ページ/年	74ページ/年	213ページ/年	76ページ/年
	内容の更新頻度	月3回以上	5.5回/月	5.2回/月	4.9回/月
	双方向的な情報交換の推進に向けた検討				SNSの特性を活かした情報発信の方法を検討した。

※第3期中期活動目標よりHP総アクセス数の評価指標及び目標値を変更した。

●自己評価

(5-1)

- ・資料提供件数は28件と平成25年度より5件減少し、目標値の30件/年に達しなかった。博物館からの情報発信として、マスコミに対する資料提供は効果的であるため、積極的な資料提供が必要である。
- ・マスコミ取材報道件数については、新聞の記事として扱われた件数のみである。26年度は125件で、25年度より19件増加した。マスコミから注目された企画展等の開催が要因と考えられる。
- ・マスコミ出演等件数は23件と25年度より10件増加し、目標値の15件/年を上回った。

(5-2)

- ・広報手段の新規開拓状況としては、来館者数の増加が期待できるイベントにおいて広報を充実させた。具体的には、「食べる!文化の森フェスティバル」やボランティア企画型イベントでチラシを効果的な時期に発送した。特に展示協力者等の協力を得て、チラシの配布先の拡大を試みた。
- ・広報関係出版物の発行状況として、年間催し物案内は、学校を中心に配布し、小学校では県内の全児童に配布した。月間催し物案内は、マスコミと各図書館を中心に配布した。博物館ニュースは関係諸機関にまんべんなく配布したが、特に小学校では理科、社会科、生活科の教員と各クラスに、中学校・高等学校では理科、社会科の教員に対して配布した。年間催し物案内及び博物館ニュースの発送件数がそれぞれ減少しているが、これは学校数や児童生徒数が減少したことに加え、効果的な配布を目指して発送先リストを整理したためである。
- ・電子メールサービス登録者数は342人と25年度より11人増え、目標値を上回った。

(5-3)

- ・インターネットによる情報発信においては、26年度は1年間でホームページに約890万件のアクセスがあった。

25年度の約681万件から大幅に増加した。近年のアクセス数の大幅な増加は、スマートフォンやタブレット端末の普及に伴ったものと考えられる。なお、第3期中期活動目標より、ホームページへの総アクセス数を評価指標とした。

- ・新規コンテンツ数は76ページ/年と、目標値を大幅に上回った。8月にトップページ等のリニューアルを行ったため、目標値を大幅に上回る新規コンテンツ数があった。ただし、「みんなで調べる徳島県のタンポポータンポポ調査西日本2015―」に関する多数のコンテンツが追加された25年度より減少する結果となった。
- ・内容の更新頻度は4.9回/月(59回/年)と25年度より減少したが、目標値を上回った。主な更新内容として、展示案内、公募ボランティアによる活動報告、月間催し物案内が挙げられ、それぞれの更新頻度は18回、15回、12回と高頻度で更新を行っている。上述の内容のみならず、博物館が発信する新しい情報を積極的に更新していく必要がある。
- ・当館ホームページ以外での情報発信として、展覧会情報などを掲載できる「あわカル」等のイベント情報サイトに新規登録し、26年度より活用を始めた。
- ・コミュニケーション機能を有するインターネットツールとしてSNS等が普及して久しいが、ホームページ以外での新たな情報発信、情報交換の可能性について検討した。

(6) 県民協働・参画

●中期活動目標及び26年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	24年度実績	25年度実績	26年度実績
6-1 友の会活動の充実と活性化	友の会会員数	400人/年	253人	301人	289人
	個人会員		81人	80人	68人
	家族会員		172人(47組)	221人(59組)	221人(60組)
	会員の継続率	前年度会員の70%	80%	78%	72%
	個人会員		85%	79%	70%
	家族会員		72%	77%	75%
	友の会行事実施回数	6回/年	8回(189人)	7回(166人)	10回(250人)
	展示利用率	50%	63%	52%	52%
	個人会員		53%	51%	44%
	家族会員		79%	53%	60%
	延べ利用者数	会員数	296人	299人	244人
	個人会員		141人	128人	93人
	家族会員		155人	171人	151人
	会報の発行回数	3回/年	3回	2回	2回
普及行事支援件数		2回	2回	2回	
6-2 公募ボランティアの協働推進	公募ボランティア登録者数		20人	25人	23人
	公募ボランティア活動回数(全体・班会合、イベント)		合計29回 会合26回 イベント3回	合計40回 会合37回 イベント3回	合計44回 会合43回 イベント1回
	企画運営型行事等件数		3回(8/4-5、2/11)	3回(8/3-4、2/11)	1回(2/11)

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	24年度実績	25年度実績	26年度実績
6-3 各種事業での県民協働の推進	県民などとの協働による展示の実施状況		特別陳列1件、部門展示1件	特別陳列1件、部門展示1件	ロビー展示2件、トピックコーナー3件
	県民との協働による普及行事の実施状況		7件(友の会2件、公募ボランティア2件ほか)	11件(友の会2件、公募ボランティア2件ほか)	6件(友の会2件、公募ボランティア1件ほか)
	県民参画型調査の件数	2件/年	1件	3件	4件

●自己評価

(6-1)

- ・友の会会員数は、平成25年度は24年度に比べ48人増加したが、26年度は25年度に比べ12人減少した。これは、個人会員が退会する一方で、新たな個人会員の入会が減少したことによる。
- ・会員の継続率は、24年度は80%、25年度は78%、26年度は72%と、目標値には達しているものの、年々低下している。
- ・友の会行事の実施回数は10回で、参加者数は250人であった。26年度は天候不良による中止はなく、予定していた全ての行事を実施することができ、参加者にも好評であった。
- ・展示利用率は、24年度は63%、25年度は52%、26年度は52%と、目標値に達している。65歳以上の方の常設展観覧料が無料であり、会員証の提示が不要であるため、実数はもっと多いと思われる。今後も、観覧料無料という友の会会員の特典を広報していく必要がある。

(6-2)

- ・公募ボランティアは、25年度からの継続ボランティア13人に加えて、新規ボランティア10人が参加した。26年度は「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」の中で、視覚障がい者、聴覚障がい者、外国人、高齢者、幼児の5つの視点から、より展示を楽しむ方法を考えた。2月11日の「博物館Vキング」に向けて公募ボランティアとともに職員で構成した3グループにより、展示を楽しく、分かりやすくするための体験キットを開発した。Vキングの参加者は25年度より少なかったが、開発に取り組んだボランティアが来館者に説明したり、ユニバーサル事業に関わる障がい者や外国人の来館者に意見をもらうなど、じっくり対応できた。

(6-3)

- ・ロビー展示「博物館Vキングーみんなで創るユニバーサルミュージアムーパネル紹介展」、「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業紹介展」、トピックコーナー「浜辺に揺りあがる焼き物たちービーチコーミングでの収集品からー」、「タンポポ調査が始まります」2回を、県民との協働により開催した。(1-6再掲)
- ・「食べる！文化の森フェスティバル」と「文化の森大秋祭り!!」において、博物館友の会との協働によるブースを設置し、友の会会員とともに運営した。(2-4再掲)
- ・イベントボランティアを公募し、「文化の森ウィンターフェスティバル」においてボランティアスタッフとの協働により行事を実施した。(2-4再掲)
- ・普及行事の内、「化石を探そう [淡路島]」、「漂着物を探そう!」、「由岐歴史散歩」の3行事を県民(ボランティア等)との協働により実施した。今後も、県民との協働による行事運営の方法を模索したい。(2-4再掲)
- ・26年度の県民参画型調査は4件で、目標値に達した。継続している漂着物の調査、アサギマダラのマーキング調査、タンポポ調査に加え、地域のさまざまな立場の人が参画した「みんなで創るユニバーサルミュージアム」事業(文化庁補助金による)を実施した。(3-3再掲)

(7) シンクタンクとしての社会貢献

●中期活動目標及び26年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	24年度実績	25年度実績	26年度実績
7-1 レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	500件/年	797	790	688
	周知状況				HPへの記載
7-2 講師派遣等の推進	講師派遣等件数		28	24	36
	講演会等の受講者数		(889)	(1,468)	(1,407)
7-3 自治体及び各種機関・団体への専門知識の提供	委員等受託件数		30	31	30
	機関・団体等への協力状況				2
7-4 大学教育への寄与	非常勤講師受諾数		3	3	3
	学生・院生指導人数		2	1	1
	博物館実習生受入人数	20人/年	16(9大学)	18(11大学)	12(6大学)
	学芸員養成科目受講者数		28	124	127
7-5 学会・研究会の運営への寄与	学会等開催数		14	16	15
	学会等役員受託数		3	8	9
	学会等事務局受託数		5	5	6
7-6 博物館施設の連携強化への貢献	博物館関連団体委員等受諾数		7	8	6
	博物館関連団体加入数		6	6	6
	連携事業等の実施数		11	9	8
			移動展4回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	移動展2回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	移動展1回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携

●自己評価

(7-1)

- レファレンス件数は平成25年度から102件減少したが、目標値500件を上回った。ただし、電話での問い合わせなど記録として残されていないものもあるため、実数はこれより多いとみてよい。分野別の件数では、26年度は動物（昆虫）がもっとも多い131件、次いで、歴史119件、動物（脊椎）102件、地学90件であった。これらの分野で全体の64%を占めていた（詳細はp.51参照）。
- レファレンス業務は、博物館の蓄積した資源の有効活用の方法であり、シンクタンク機能の中核でもある。自然と歴史、文化に関する「よろず相談所」として親んでもらえるよう、機会をとらえて周知を進めていく必要がある。

(7-2)

- 26年度の講師派遣は36件で、25年度から12件増加した。分野別にみると、歴史が15件で最も多く、次いで民俗が7件であった。この両分野で全体の61%を占めた。
- 派遣先の受講者数は、16件において概数が記録されており、1,407人であった。

(7-3)

- 各種委員会等の委員等受諾数は30件で、25年度から1件減少した。これらのうち19件（63%）は動物・植物

82 中期活動目標と自己評価

分野における自然環境の評価にかかわるもので占められており、県や国の公共事業における環境配慮や希少野生生物の保全対策事業に対応している。

- ・委員等に委嘱されずに各種機関・団体への協力を求められることもあるが、公共性の高いものについては、レファレンス業務や講師派遣等により可能な範囲で対応していることが多い。26年度は、歴史資料保存ネットワーク・徳島や松茂町教育委員会などとの連携により、台風による水損被害を受けた歴史資料のレスキューに協力したことが特筆できる。

(7-4)

- ・26年度の大学における非常勤講師の受諾数は3件で、25年度と同じであった。
- ・26年度の博物館実習生の受入人数は12人で、25年度に比べて6人減少し、目標値の20人には及ばなかった。これとは趣旨が異なるが、同じ期間に徳島県インターンシップ実習生1人を受け入れた。
- ・学生・院生の研究指導は、1人に対して行った。受入人数については、今のところ目標値を定めておらず、大学側の要望に応じて若干名を受け入れている。
- ・県内で学芸員養成を行っている徳島大学、鳴門教育大学、四国大学の「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」について、大学や近代美術館、文書館と協力し、博物館講座室を会場として共同開講した。26年度は、延べ127人を指導した。

(7-5)

- ・26年度の学会や研究会の当館における開催数は15回で、25年度より1回増加した。これらには毎月例会が開催される「みどりクラブ」が含まれている。目標値は定めていない。
- ・学会等役員受託数は9件で、25年度より1件増加した。目標値は定めていない。
- ・学会等の事務局受託数は6件で、25年度より1件増加した。目標値は定めていない。

(7-6)

- ・博物館関連団体の委員等受託数は6件で、25年度より2件減少した。目標値は定めていない。
- ・博物館関連団体加入数は6件で、25年度と同じである。これらのうち1件は当館が事務局を引き受けている。目標値は定めていない。
- ・他館等との連携事業数は8件で、25年度より1件減少した。移動展の開催数の変動による。そのほか、当館が事務局を担当している徳島県博物館協議会において講演会及び研修会を実施したり、県内外の博物館との連携事業も行ったりした。目標値は定めていない。

(8) マネージメント (経営)

●中期活動目標及び26年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	24年度実績	25年度実績	26年度実績
8-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況		常設展示の点検及び改善	常設展示の点検及び改善	「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」の実施
8-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況		常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査
	県外利用者の割合		「海からどんぶらこ」 6% 「ほねほねワールド」 13% 「日本のわざと美」 2%	「天下の台所大坂と徳島」 12% 「エイリアンスピーシーズ」 10% 「みんなの化石コレクション」 3%	「いただきま〜す!」 3% 「まんまるワールド」 15% 「四国へんろ展」 10%
8-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	ボランティア導入事業件数		公募ボランティア事業	公募ボランティア事業	みんなで創るユニバーサルミュージアム事業
8-4 設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館予算の状況		2月補正後 35,360千円	2月補正後 28,747千円	2月補正後 48,745千円
	外部資金獲得数		申請2、採択1、継続1	申請8、採択3、継続2	申請9、採択2、継続4

中期活動 目標の項目	評価指標	目標値	24年度実績	25年度実績	26年度実績
8-5 防災意識の向上と 危機管理体制の強化	防災訓練の実施 状況		自衛消防隊総合訓練11月	防火防災訓練計画 の研修 10月16日 緊急地震速報対応 訓練 11月29日	自衛消防隊の防火 防災訓練 9月3、24日 文化財防火デーに 徳島市消防局と防 火訓練実施 1月26日 AED含む救命講習
	危機管理体制の 整備状況 地震、津波等広域 災害時の救援体 制確立		文化の森三館棟4 館で連携した危機 管理体制の整備	文化の森三館棟4館 で連携した危機管 理体制の整備	生物収蔵庫の棚に 落下防止ベルトを 設置 動物研究室書棚固定
8-6 職員の意識改革と 資質の向上	取り組み状況		奈良文化財研究所、 国立科学博物館等 の研修	東京文化財研究所、 文化庁・国立歴史民 俗博物館等の研修	文化庁・国立歴史民 俗博物館等の研修 日本博物館協会三 重大会
8-7 博物館評価システ ムの構築	中期活動目標の 状況		ワーキンググルー プでの検討を継続、 使命書の再検討	第3期中期活動目 標の策定、事業別 の目標値の検討及 び各事業の使命へ の貼り付け	第3期中期活動目 標の運用開始
	自己点検評価の 状況		23年度事業自己点 検・評価を年報、HP に掲載	24年度事業自己点 検・評価を年報、HP に掲載	25年度事業自己点 検・評価を年報、HP に掲載
	外部評価の状況		博物館協議会 8月28日	博物館協議会 9月10日	博物館協議会 9月17日

●自己評価

(8-1)

・平成26年度は、展示室の点検を日常的に行うとともに、二十一世紀館と近代美術館、及び博物館と美術館のボランティアグループなどと協働して、「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」に取り組んだ。誰もが使いやすい複合文化施設にするため、地域の多様な立場の人たちとワークショップや意見交換を行い、各種表示の変更案の作成や展示への理解促進のための体験キット等を作成した。その成果を、展示やイベントなどを通して公表した。

(8-2)

・26年度も企画展で観覧者へのアンケートを行った。アンケート結果によれば、90%前後が県内在住者であった。県外の利用者の割合は、春季企画展「いただきま〜す!」で3%、夏季企画展「まんまるワールド」で15%、秋季企画展「四国へんろ展」で10%であった。

・文化の森の他館と連携して、イベントや展示等の広報の強化に努めた。

・各種団体からの依頼により入館料の減免を行っている。26年度は25件であった。

・25年度から始めた講座室の有料貸し出しの利用は、1件であった。

(8-3)

・公募ボランティアによる活動テーマを「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」とし、職員と連携して実施した。また、「食べる!文化の森フェスティバル」や「文化の森サマーフェスティバル」、「文化の森大秋祭り!!」、「文化の森ウィンターフェスティバル」等のイベントにおいて、ボランティアや友の会会員の協力を得た。

・「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」のワークショップ開催にあたり、多くの方からの協力を得て、運営基盤の充実を図ることができた。

(8-4)

・厳しい財政状況のなか、26年度も経常予算のシーリング及び執行留保が継続された。ただし、26年度は、新規事業として「四国へんろ展」の開催や燻蒸の実施が認められたことから、予算額は25年度に比べ回復した。また、資料購入費について、25年度は執行できなかったが、26年度は購入予算を全額執行することができた。

- ・外部資金は、調査研究のための科学研究費補助金を6件申請したが、4件の継続が認められただけで、新規採択はなかった。民間資金は1件申請し、採択された。また、「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」が、文化庁美術館・歴史博物館創造活動支援事業に採択された。

(8-5)

- ・徳島市消防局と徳島県教育委員会の共催で1月26日に文化財防火デーの防火訓練を行った。自衛消防隊の訓練も9月に2回行い、3月にはAEDの使用を含む救命講習を行った。
- ・震災対策として、生物収蔵庫の棚の一部において落下防止の耐震ベルトを設置した。あわせて、研究室の一部において大型書棚の固定化を行った。27年度以降、他の収蔵庫における耐震ベルトの設置や、研究室の書棚の固定化を進める予定である。
- ・停電、盗難、けが人や病人の発生等に備えた防災マニュアルも整備していく必要がある。

(8-6)

- ・文化庁・国立歴史民俗博物館や日本博物館協会などが開催した研修会等に、職員6人を派遣した。

(8-7)

- ・21年9月に策定した第2期中期活動目標にもとづき、25年度事業及び2期全体の自己点検・評価を行い、その内容を年報やホームページに掲載した。また、博物館協議会において討議いただいた（外部評価）。
- ・25年度に原案を作成した第3期中期活動目標が、博物館協議会において承認された。26年度から、これに基づいて活動・評価を進めている。

●特別陳列観覧者数累計（平成4～26年度）

（単位：人）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
第1回館蔵品展	平成5.2.16～3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平成6.2.1～2.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平成7.1.13～2.5	21	3,165
第2回収蔵品展	平成8.2.6～3.17	27	5,358
第3回館蔵品展 「自然コレクション」	平成11.7.17～8.29	38	22,372
写生大会作品展	平成12.12.5～12.24	18	1,850
勝瑞時代 －細川・三好氏と阿波－	平成13.10.25～11.25	32	5,766
丹波マンガン鑛山の記録 －在日コリアンの労働史－	平成14.6.25～7.7	12	1,195
楠コレクションの美術・歴史資料	平成15.1.21～3.2	36	4,655
知里幸恵生誕100年記念巡回展 自由の天地を求めて －知里幸恵「アイヌ神謡曲集」への道－	平成15.7.19～7.27	8	1,317
日本刀の美 －赤羽刀とその他の館蔵品－	平成16.1.27～3.7	35	8,698
収蔵品展	平成16.6.18～7.19	28	5,703
ひまわり作品展	平成16.12.17～12.19	3	3,221
トクシマ・木工芸の道具と技	平成18.1.8～1.29	19	3,475
吉野川の渡し	平成18.2.18～3.19	26	3,848
旅と祈りの道 －阿波の巡礼－	平成19.1.19～3.18	51	7,200
徳島城下町の世界	平成20.1.17～3.2	40	5,168
空から見た徳島	平成21.1.27～3.15	42	7,517
蝶に魅せられて －愛好家たちのコレクション－	平成21.7.18～8.30	38	9,777
八万町の昔を探ろう	平成21.9.19～10.4	14	1,886
マンガラ －チベット・ネパールの仏たち－	平成21.12.12～22.2.7	44	13,118
海を渡った人形と戦争の時代	平成22.7.17～9.5	44	10,364
博物館の宝もの	平成23.7.15～9.4	46	15,336
海からどんぶらこ －浜辺の漂着物－	平成24.4.27～6.10	39	12,642
阿波盆踊図屏風	平成24.9.25～10.3	8	702
みんなの化石コレクション	平成25.10.18～12.1	39	10,008
国立公文書館所蔵資料展	平成26.3.7～3.19	11	1,537
合計		771	176,680

●移動展観覧者数（平成14～26年度）

（単位：人）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
昆虫の世界（海南町立博物館）	平成14.10.26～11.24	26	1,328
日本画書展－江戸から昭和まで－ （藍住町歴史館藍の館）	平成16.12.2～12.27	26	898
戦争体験（藍住町立図書館）	平成17.8.3～8.18	14	2,342
昆虫展（藍住町立図書館）	平成17.8.19～9.11	21	3,210
北アメリカの植物（松茂町立歴史民俗資料館）	平成18.2.4～3.5	26	1,867
海陽町の指定植物北アメリカの植物（海陽町立博物館）	平成18.7.22～8.27	32	481
牟岐大島の考古資料（牟岐町海の総合文化センター）	平成19.4.26～5.15	20	353
阿波の板碑（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平成19.6.5～7.22	42	197
中世阿波の板碑（藍の館）	平成19.8.2～8.27	24	4,540
くらしの中の藍染め（東かがわ市歴史民俗資料館）	平成19.10.20～11.18	26	291
丹波恐竜フェスティバル（兵庫県立人と自然の博物館）	平成20.5.3～5.5	3	4,339
和泉層群の化石（東かがわ市歴史民俗資料館）	平成20.7.19～8.31	38	523
海部郡の古代・中世（日和佐図書・資料館）	平成20.7.19～9.7	44	431
那賀川平野の貝化石（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平成20.9.25～11.9	41	956
達磨絵百態 横山天然の世界（藍の館）	平成21.4.4～4.29	22	250
知らせる道具・広告（東かがわ市歴史民俗資料館）	平成21.7.18～8.31	39	425
浜辺の植物（海陽町立博物館）	平成21.7.25～8.30	32	401
国会議事堂の石（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平成21.9.25～11.5	36	318
世界の昆虫（吉野川市美郷ほたる館）	平成21.11.21～22.1.25	52	220
“ジオブラザ阿南” 那賀川流域と県南部地域の化石展（阿南市科学センター）	平成22.7.17～8.15	26	1,431
旅をするチョウ・アサギマダラと県南のトンボ展（日和佐図書・資料館）	平成22.7.21～9.5	41	820
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」① （貞光ゆうゆう館）	平成22.9.18～9.20	3	1,467
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」② （海陽町立博物館）	平成22.9.23～10.3	10	360
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」③ （松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館）	平成22.10.9～10.17	8	1,242
空から見た徳島（日和佐図書資料館）	平成23.7.22～9.11	44	1,663
阿波の遠洋漁業（日和佐図書資料館）	平成24.9.6～9.30	19	439
生物多様性大博覧会「徳島県の自然史」（郷土文化会館）	平成25.1.26・27	2	1,385
立体写真でみる38年前の海部郡の海辺（日和佐図書資料館）	平成25.7.5～7.31	22	493
九州・五島行き－以西底曳き網漁業－ （美波町由岐公民館）	平成25.10.25～11.4	11	249
ミニ・アンモナイト展（アミコ）	平成26.4.15～5.13	28	8,512
合計		778	41,431

●博物館利用者総数年度別一覧

（単位：人）

年度	常設展		常設展者計	企画展者	特別陳列者	移動展	普及参加者	その他	利用者総数
	有観覧者	無観覧者							
2	88,722	8,555	97,277	-	-	-	646	-	97,923
3	99,282	37,835	137,117	24,237	-	-	1,387	-	162,741
4	57,861	21,272	79,133	23,092	6,712	-	1,718	-	110,655
5	48,943	20,537	69,480	19,175	4,090	-	1,686	-	94,431
6	35,369	16,778	52,147	19,758	3,165	-	2,843	-	77,913
7	33,048	23,325	56,373	32,545	5,358	-	4,132	-	98,408
8	22,434	34,687	57,121	16,101	-	-	2,419	-	75,641
9	18,573	26,147	44,720	12,200	-	-	2,232	-	59,152
10	16,590	22,301	38,891	16,041	-	-	1,890	-	56,822
11	14,870	23,018	37,888	12,738	22,372	-	2,461	-	75,459
12	14,852	23,280	38,132	33,415	1,850	-	4,513	1,561	79,471
13	12,205	19,833	32,038	12,159	5,766	-	3,634	2,137	55,734
14	10,034	27,315	37,349	13,235	5,850	1,328	3,414	1,735	62,911
15	11,313	28,484	39,797	24,877	10,015	-	4,501	2,628	81,818
16	12,964	31,705	44,669	32,810	8,924	898	3,692	4,829	95,822
17	10,265	25,372	35,637	18,444	7,323	7,419	5,944	4,629	79,396
18	11,575	29,900	41,475	23,285	7,200	481	6,143	6,763	85,347
19	10,312	30,320	40,632	38,263	5,168	5,381	5,140	75,854	170,438
20	9,037	28,134	37,171	21,207	7,517	6,249	6,041	11,963	90,148
21	10,394	32,035	42,429	19,157	24,781	1,614	8,535	35,260	131,776
22	9,244	25,810	35,054	12,465	10,364	5,376	10,329	30,071	103,659
23	6,803	32,728	39,531	7,759	15,336	1,663	6,594	9,979	80,862
24	5,808	36,737	42,545	22,447	13,344	1,824	10,797	6,097	97,054
25	6,023	37,132	43,155	13,552	10,008	742	13,089	4,629	85,175
26	5,164	32,781	37,945	29,849	1,537	8,512	10,189	5,391	93,423
累計	581,685	676,021	1,257,706	498,811	176,680	41,487	123,969	203,526	2,302,179

*特別陳列は自主事業のみの観覧者数。その他は、人権啓発展と共催事業を合わせた観覧者数。
*※その他に、出前授業の人数を加算（平成25年度～）

●人権啓発等観覧者数

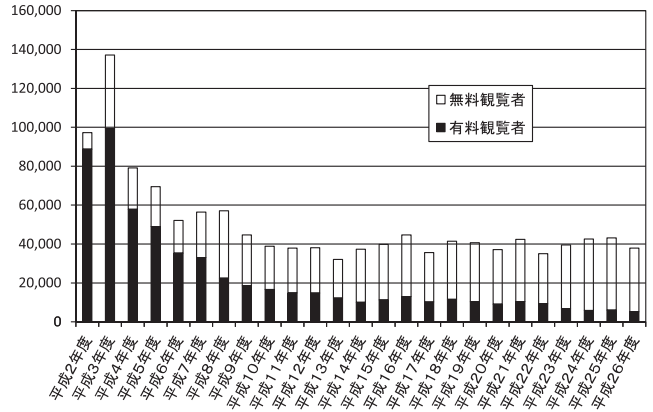
(単位：人)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
2000年度同和問題啓発展	平成12. 8. 26～9. 8	12	1,561
2001年度同和問題啓発展	平成13. 8. 4～8. 12	8	1,290
〃 第2回	平成13. 12. 4～12. 9	6	847
2002年度同和問題啓発展	平成14. 7. 27～8. 4	8	1,066
〃 第2回	平成14. 12. 3～12. 8	6	669
2003年度人権問題啓発展	平成15. 8. 2～8. 10	8	1,414
〃 第2回	平成15. 12. 2～12. 7	6	911
2004年度人権問題啓発展	平成16. 8. 7～8. 15	8	1,568
〃 第2回	平成16. 12. 7～12. 12	6	753
2005年度人権問題啓発展	平成17. 8. 6～8. 14	8	1,594
〃 第2回	平成17. 12. 6～12. 11	6	656
2006年度人権問題啓発展	平成18. 8. 5～8. 13	8	1,532
〃 第2回	平成18. 12. 5～12. 10	6	589
2007年度人権問題啓発展	平成19. 12. 4～12. 9	6	589
2008年度人権問題啓発展	平成20. 12. 2～12. 7	6	599
2009年度人権問題啓発展	平成21. 12. 1～12. 6	6	430
2010年度人権問題啓発展	平成22. 11. 30～12. 5	6	670
2011年度人権問題啓発展	平成23. 12. 6～12. 11	6	383
2012年度人権問題啓発展	平成24. 12. 4～12. 9	6	356
2013年度人権問題啓発展	平成25. 12. 4～12. 10	6	341
2014年度人権問題啓発展	平成26. 12. 10～12. 16	6	315
合計		144	18,133

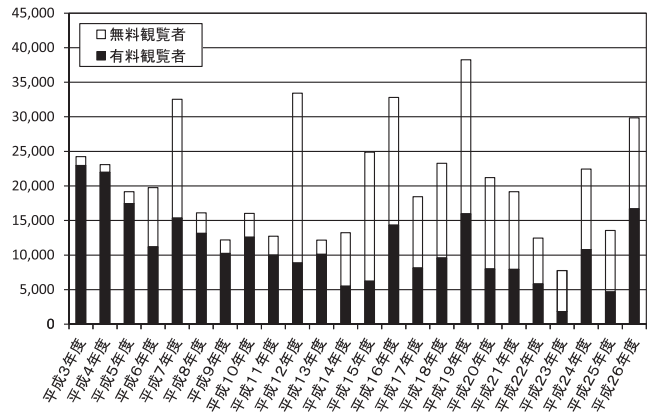
●その他(啓発展を除く共催事業)観覧・参加者数(平成15～26年度)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
21世紀館との共催事業(アイヌ工芸品展)	平成15. 7. 19～8. 31	38	303
全国高等学校総合文化祭	平成16. 7. 30～8. 3	5	2,508
人形ウィーク	平成17. 8. 20～8. 28	8	1,824
ふれあい生きもの展	平成18. 3. 25～3. 26	2	555
子どもの絵	平成18. 4. 29～5. 7	8	3,341
愉快な森のコンサート	平成18. 5. 5	1	950
日本古生物学会	平成19. 2. 2～2. 3	2	325
パラタクソノミスト養成講座	平成19. 2. 17～2. 18	2	26
第22回国民文化祭・とくしま2007	平成19. 10. 27～11. 4	9	71,244
「天正の落日と曙光-守護町勝瑞から城下町徳島へ-」(徳島城博物館)	平成19. 12. 4～20. 1. 27	41	4,021
夏休み人権セミナー「戦争とくらし」	平成20. 8. 3	1	42
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平成20. 8. 9～8. 10	2	1,192
2008年度鳴門史学会研究大会	平成20. 10. 18	1	80
かんさい自然フェスタ2008(大阪市立自然史博物館)	平成20. 11. 15～11. 16	2	10,050
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平成21. 8. 8～8. 9	2	1,212
スタジオジブリ・レイアウト展(21年度)	平成22. 2. 20～3. 31	34	33,618
スタジオジブリ・レイアウト展(22年度)	平成22. 4. 1～4. 18	16	25,113
軌跡-継続と蓄積-	平成22. 10. 23～11. 23	27	4,165
「四国遍路と地域文化」を考える	平成23. 2. 5	1	53
鳥居ミュージアムトーク	平成23. 3. 21	1	70
阿波踊りフェスタ「阿波踊りの絵はがき」	平成23. 7. 20～8. 28	36	4,038
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平成23. 8. 6～8. 7	2	1,612
鳥居龍蔵の歩いたアジアの自然	平成23. 10. 29～12. 4	32	1,347
鳥居企画展「鳥居龍蔵の見た台湾」	平成24. 1. 28～3. 11	38	2,599
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平成24. 8. 4～8. 5	2	1,772
鳥居ミュージアムトーク	平成24. 9. 30	1	5
鳥居ミュージアムトーク	平成24. 11. 25	1	27
鳥居特別陳列「鳥居龍蔵とアイヌ」	平成25. 1. 26～3. 3	32	5,465
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平成25. 8. 3～8. 4	2	1,751
特別講演「鳥居龍蔵が愛読した洋書-外国語・学問・文学-」	平成25. 8. 30	1	50
鳥居ミュージアムトーク	平成25. 9. 29	1	14
鳥居ミュージアムトーク	平成25. 11. 24	1	14
第63回四国中世史研究会	平成25. 12. 22～12. 23	2	47
鳥居ミュージアムトーク	平成26. 1. 19	1	14
鳥居企画展「鳥居龍蔵の国内調査-沖縄・南九州-」	平成26. 1. 25～3. 2	32	1,753
鳥居ミュージアムトーク	平成26. 6. 15	1	9
鳥居ミュージアムトーク	平成26. 9. 14	1	7
鳥居ミュージアムトーク	平成27. 11. 23	1	18
鳥居ミュージアムトーク	平成27. 1. 17	1	5
鳥居企画展「よみがえる縄文世界-鳥居龍蔵の信州調査-」	平成27. 1. 24～3. 1	32	2,827
合計		423	184,066

●常設展観覧者数(平成2～26年)



●企画展観覧者数(平成2～26年)



XI 施設の概要

1. 沿革

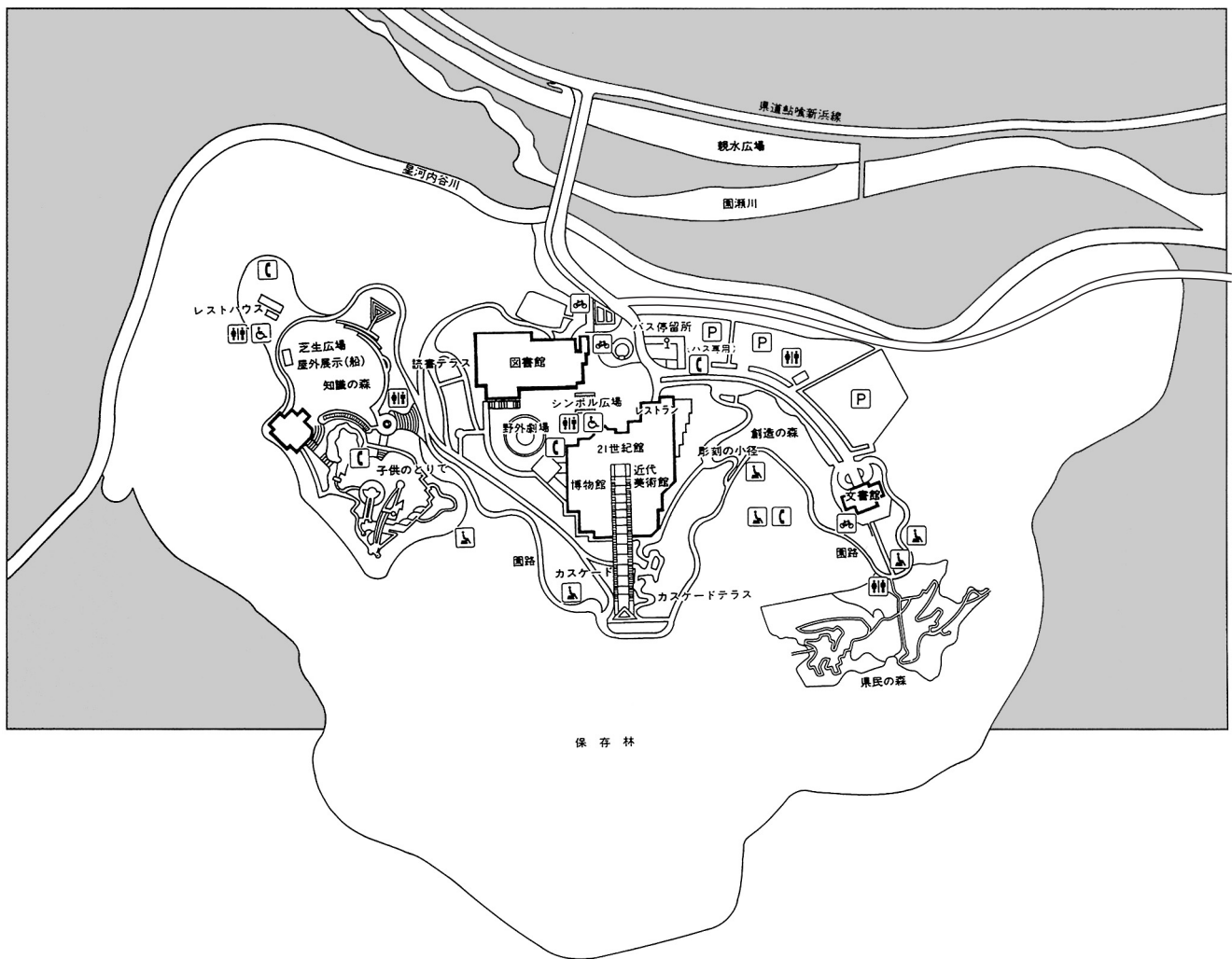
昭和34年12月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館 30 年史」参照）
昭和55年 1月	文化の森構想発表
4月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和56年 2月	文化の森懇話会報告書提出
昭和57年 3月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和58年 3月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和59年 1月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4月	美術品等取得基金設置
5月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和60年 8月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国ラプラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和61年 3月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和62年 3月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和63年 7月	博物館展示工事着手
平成元年 4月	旧博物館展示室閉室
12月	博物館・近代美術館・二十一世紀館棟本体工事竣工
平成 2年 3月	旧博物館閉鎖
4月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10月	博物館展示工事竣工
11月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成 3年 2月	博物館資料収集委員会設置
平成 4年 3月	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等に指定される
平成 8年 4月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施
平成15年 7月	科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関に指定される

2. 施設の概要

●所在地	徳島市八万町向寺山
●敷地面積	40.6ha（文化の森総合公園全体）
●建築面積	8,363㎡（3館棟）
●延床面積	22,382㎡（4館合計－積層部分を含めると 23,814㎡） 8,063㎡（博物館占用スペース）
●構造規模	鉄筋鉄骨コンクリート造 地上4階・塔屋1階・地下1階
●設計	(株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体

●施行

- 建築……………大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
- 電気……………四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
- 空調……………東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
- 管……………朝日工業社・大成設備 共同企業体
- エレベーター……………(株)東芝
- 家具……………富士ファニチア(株)
- 移動展示ケース……………(株)三井
- 展示……………(株)丹青社



3. 博物館各室面積

1 階	
室名	面積㎡
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
その他共用部分※	771
小計	1,973

3 階	
室名	面積㎡
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室(自然史)	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室(人文)	80
地学考古民俗作業室	64
分析室1	64
分析室2	48
X線撮影室	48
保存処理室2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小計	2,052

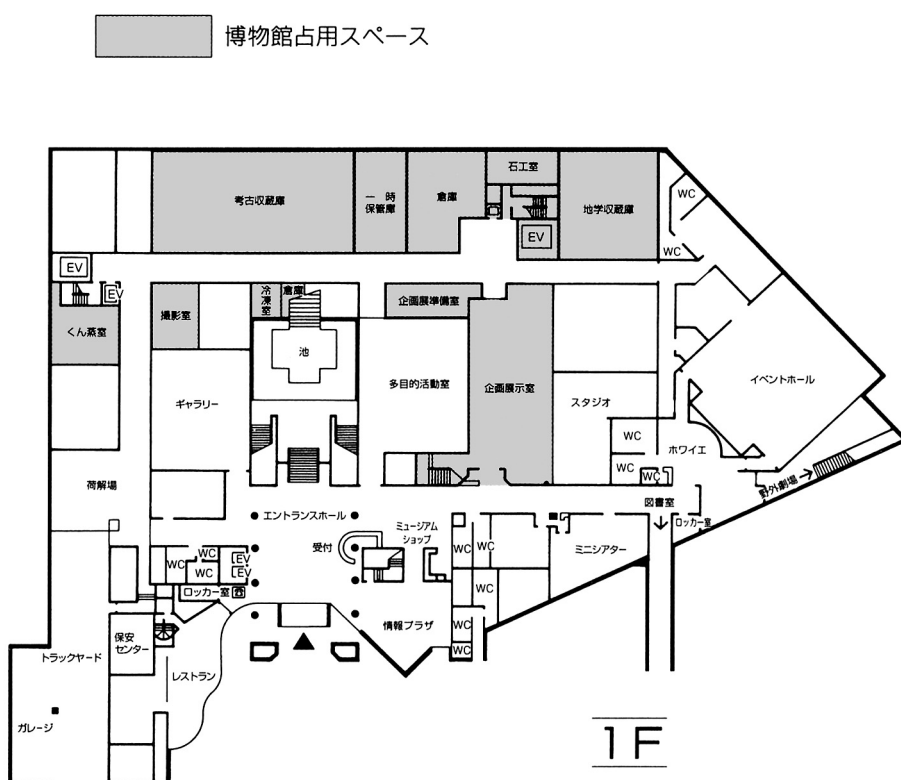
2 階	
室名	面積㎡
総合展示室	1,252
ラプラタ記念ホール	210
部門展示室(人文)	251
部門展示室(自然)	250
休憩室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊下	65
その他共用部分※	442
小計	2,957

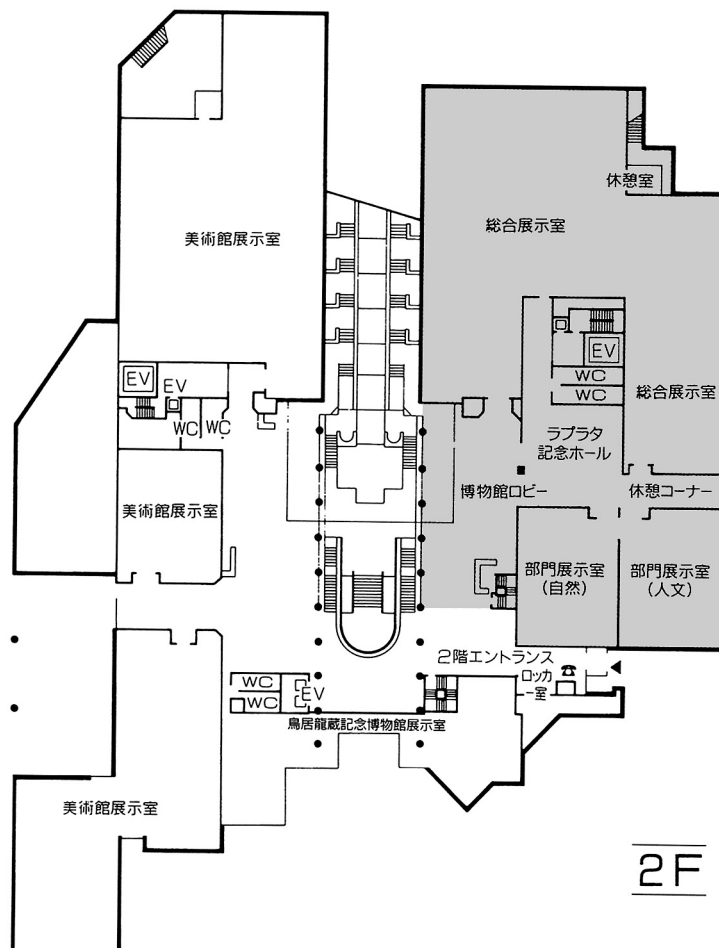
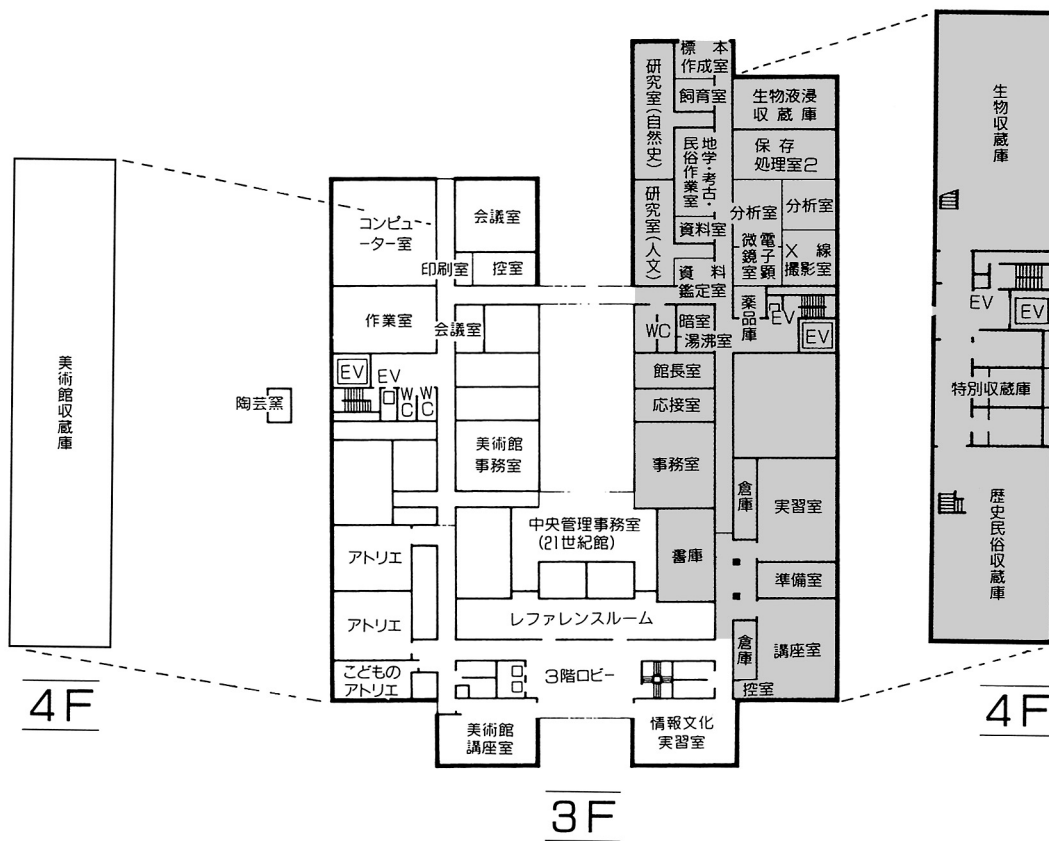
4 階	
室名	面積㎡
エレベーターホール	45
特別収蔵庫1	37
特別収蔵庫2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小計	1,042

屋1階	
室名	面積㎡
その他共用部分※	39
小計	39

合計	
8,063㎡	

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館及び二十一世紀館との案分面積。





XII 例 規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例〔抜粋〕

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号
最近改正 平成26年3月20日 徳島県条例第39号

(設置)

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

(名称及び業務)

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立博物館 (以下「博物館」という。)	(1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。 (5) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(徳島県立図書館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立二十一世紀館、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館の業務は省略)

(利用の許可)

第3条 次の表に掲げる文化施設の施設又は用具を利用しようとする者は、あらかじめ、徳島県教育委員会（以下「教育委員会」という。）の許可（以下「利用の許可」という。）を受けなければならない。

区 分	施設又は用具
博 物 館	博物館講座室

(観覧料等)

第4条 博物館が展示する博物館資料、美術館が展示する美術館資料又は鳥居記念館が展示する鳥居記念館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

- 2 利用の許可を受けた者に対しては、別表第2に掲げる額の使用料を徴収する。
- 3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。
- 4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

(損害の賠償)

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認め

るときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 教育委員会の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協議会の名称	所掌事務
徳島県立博物館協議会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

(他館の各協議会の所掌事務は省略)

2 協議会は、委員10人以内で組織する。

3 徳島県立図書館協議会、徳島県立博物館協議会、徳島県立近代美術館協議会及び徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。

4 (省略)

5 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 委員は、再任されることができる。

7 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(教育委員会規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表第1（第4条関係）

区分	単位	金額			
		常設展		企画展	
		個人	団体（20人以上をいう。以下同じ。）	個人	団体
小学校の児童及び中学校の生徒	1人1回	50円	40円	知事はその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	1人1回	100円	80円		
その他の者（学齢に達しない者を除く。）	1人1回	200円	160円		

別表第2（第4条関係）

区分	単位	金額
博物館講座室	午前	2,160円
	午後	3,490円

(他館の施設等は省略)

(備考)

1 「午前」とは午前9時30分から正午までを、「午後」とは午後1時から午後5時までを、「夜間」とは午後6時から午後9時までをいう。

2 午前から午後まで、午後から夜間まで又は午前から夜間まで引き続き利用する場合の使用料の額は、この表の区分に応じたそれぞれの使用料の額を加えて得た額とする。

- 3 営利又は営業のための宣伝その他これらに類する目的で利用する場合の集会室1、集会室2、博物館講座室、ギャラリー、美術館講座室、イベントホール、多目的活動室、ミニシアター、スタジオ、ミーティングルーム又は野外劇場の使用料の額は、この表及び前項の規定にかかわらず、同表の区分に応じた使用料の額又は同項の規定により算出した使用料の額に百分の五百を乗じて得た額とする。

●徳島県立博物館管理規則

制 定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第9号

最近改正 平成25年3月29日 徳島県教育委員会規則第3号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日 ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
- (2) 12月29日から翌年の1月4日までの日

2 徳島県立博物館長（以下「館長」という。）は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 館長は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(利用の許可の申請等)

第4条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号。以下「条例」という。）第3条の許可（以下「利用の許可」という。）を受けようとする者は、徳島県立博物館利用許可申請書（別記様式）を館長に提出しなければならない。

2 前項の申請書は、利用しようとする日（その日が引き続き2日以上に及ぶときは、その初日。）の前日から起算して3月前の日以後に提出するものとする。ただし、館長が相当の理由があると認めるときは、この限りでない。

3 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、利用の許可をしないものとする。

- (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) その他博物館の管理上支障があると認められるとき。

(利用の許可等の通知)

第5条 館長は、前条第一項の申請書を受理したときは、利用の許可をするかどうかを決定し、その旨を当該申請者に通知するものとする。

(利用の許可の取消し等)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、当該利用の許可を取り消し、又は施設の利用の中止を命ずることができる。

- (1) 第四条第三項各号のいずれかに該当する理由が生じたとき。
- (2) 利用の許可を受けた者（以下「利用者」という。）が利用の許可に付した条件に違反したとき。
- (3) 利用者が偽りその他不正な手段により利用の許可を受けた事実が明らかとなったとき。
- (4) 利用者が条例又はこの規則の規定に違反したとき。

(利用の内容の変更等)

第7条 利用者は、施設を利用できなくなったとき、又は利用の許可の内容を変更して施設を利用しようとするときは、直ちにその旨を文書で館長に届け出なければならない。

(遵守事項)

第8条 博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）及びこの規則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第9条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第10条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。

(補則)

第11条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

別記様式 省略

●徳島県立博物館協議会規則

制 定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

最近改正 平成24年3月30日 徳島県教育委員会規則第6号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第7項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県教育委員会行政組織規則 [抜粋]

制 定 昭和45年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

最近改正 平成27年4月30日 徳島県教育委員会規則第8号

第1章 総 則 (省略)

第2章 事務局 (省略)

第3章 教育機関 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

第3節 徳島県立博物館

(名称及び位置)

第24条 文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳 島 県 立 博 物 館	徳島市八万町向寺山

(内部組織等)

第25条 博物館に自然課及び人文課を置く。

2 前項の課の分担事務は、館長が定める。

(業務)

第26条 博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。
- (4) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。
- (5) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

第6節 職及び職務

(所長等の職務)

第32条 総合教育センター及び埋蔵文化財総合センターの所長、文書館及び二十一世紀館の館長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(副所長等)

第33条 上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教 育 機 関
副 館 長	図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館、鳥居記念館

(総合教育センターその他の職は省略)

- 2 教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、教育委員会が指定する職員が、その職務を代行する。ただし、やむを得ない事由により教育委員会が 教育機関の長の職務を代行する職員を指定することができないときは、当該機関に属する副所長、次長又は副館長(二人以上置かれているときは、当該教育機関の長が指定する次長又は副館長)が、その職務を代行する。

(主幹等)

第34条 前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職務
課長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
課長補佐	上司の命を受け、特に高度の知識又は経験を必要とする事務、技術又は専門的事務に従事する。
上席学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の重要施策又は重要事業の推進に関する専門的事務に従事する。
主査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務又は技術に従事する。
専門学芸員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的な事務に従事する。
係長	上司の命を受け、当該教育機関の事務に関し命ぜられた事項又は係の事務を処理する。
学芸係長	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に関し命ぜられた事項を処理する。
主任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務又は技術若しくは専門的事務に従事する。
主任主事	上司の命を受け、相当の経験を必要とする事務に従事する。
主任学芸員	上司の命を受け、相当の経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。
主事	上司の命を受け、事務又は技術に従事する。
学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。

(司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略)

第4章 附属機関

(附属機関)

第37条 附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

名称	庶務を担当する課又は教育機関
徳島県立博物館協議会	博物館

(事務局の各審議会、他館の協議会等は省略)

徳島県立博物館年報 第24号（平成26年度）

平成27(2015)年7月31日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山
（文化の森総合公園内）

TEL (088)668-3636 FAX (088)668-7197

Eメール museum@mt.tokushima-ec.ed.jp

ホームページ <http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/>

印 刷：徳島県教育印刷株式会社
